B1FW-4751-01Z0(00)

Microsoft® Windows® 98
Microsoft® Windows® Me
Microsoft® Windows NT®
Microsoft® Windows® 2000
Microsoft® Windows® XP
Microsoft® Windows Server™ 2003

FORM V8.0

説明書

FMVシリーズ,FMV-DESKPOWER,FMV-BIBLO

FUJITSU

ごあいさつ

このたびは，弊社の『FORM』をお買い求めいただき，誠にありがとうございます.

本書は，以下のオペレーティングシステムで動作する FORM（フォーム）を使って画面・帳票定義体（利用者プログラムで使用する画面と帳票の形式を定義したもの）を作成する際の基本操作と機能概要を説明しています.

- Microsoft® Windows® 98 operating system
- Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
- Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0
- Microsoft® Windows NT® Server Network operating system Version 4.0
- Microsoft® Windows NT® Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0
- Microsoft® Windows NT® Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition
- Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
- Microsoft® Windows® 2000 Server operating system
- Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system
- Microsoft® Windows® XP Professional operating system
- Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
- Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition
- Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition

また，FORM のオプション製品である『FORM オーバレイオプション』を使ってオーバレイ定義体を作成する際の基本操作と機能概要について説明しています．オプション製品を購入時にご利用ください.

各機能の詳細については，『FORM ヘルプ』も伴わせてお読みください.

本書が FORM を活用していただくために皆様のお役に立つことを願っております.

2005 年 6 月

Microsoft，Windows，および Windows NT は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です.

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2005

All Rights Reserved, Copyright© 株式会社 PFU 2005

関連マニュアル

関連マニュアルには，以下のものがあります．
行いたい作業に応じて，読む順序に従ってお読みください．

<table>
<tr><th rowspan="2">関連マニュアル
/ ヘルプ</th><th colspan="4">読む順序</th><th rowspan="2">概要</th></tr>
<tr><th>画面・帳票定義体を作成する方</th><th>C 言語でプログラム開発する方</th><th>COBOL 言語でプログラム開発する方</th><th>CAPE 言語でプログラム開発する方</th></tr>
<tr><td>MeFt V8.0
オンラインマニュアル</td><td>(1)</td><td>(1)</td><td>(1)</td><td>(1)</td><td>利用者プログラムがディスプレイ装置またはプリンタ装置への入出力を行う際に呼びだされるサービスライブラリを説明しています．</td></tr>
<tr><td>FORM V8.0 説明書
（本書）</td><td>(2)</td><td>(2)</td><td>(2)</td><td>(2)</td><td>FORM で画面・帳票定義体を作成する方法を説明しています．
また，オプション製品である FORM オーバレイオプションの操作方法についても説明しています．</td></tr>
<tr><td>C 関連マニュアル</td><td>－</td><td>(3)</td><td>－</td><td>－</td><td>C 言語について説明しています．</td></tr>
<tr><td>COBOL 文法書</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">(3)</td><td rowspan="2">－</td><td>COBOL 言語の文法を説明しています．</td></tr>
<tr><td>NetCOBOL 使用手引書</td><td>COBOL 言語でプログラム開発する方法を説明しています．</td></tr>
<tr><td>FUJITSU CAPE 文法書
1995 年 5 月版</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="4">(3)</td><td>CAPE 言語の文法を説明しています．</td></tr>
<tr><td>CAPE V5.1
エディタ説明書</td><td rowspan="3">CAPE 言語でプログラム開発する方法を説明しています．</td></tr>
<tr><td>CAPE V5.1
プロトタイピング
説明書</td></tr>
<tr><td>CAPE V5.1
プログラミング説明書</td></tr>
</table>

(1) ～ (3) は読む順序を示しています．

本書の構成／読み方

■本書の対象読者

画面・帳票定義体およびオーバレイ定義体を使ってプログラム開発する方を対象にしています.

■本書の構成

本書の構成は，以下のようになっています.

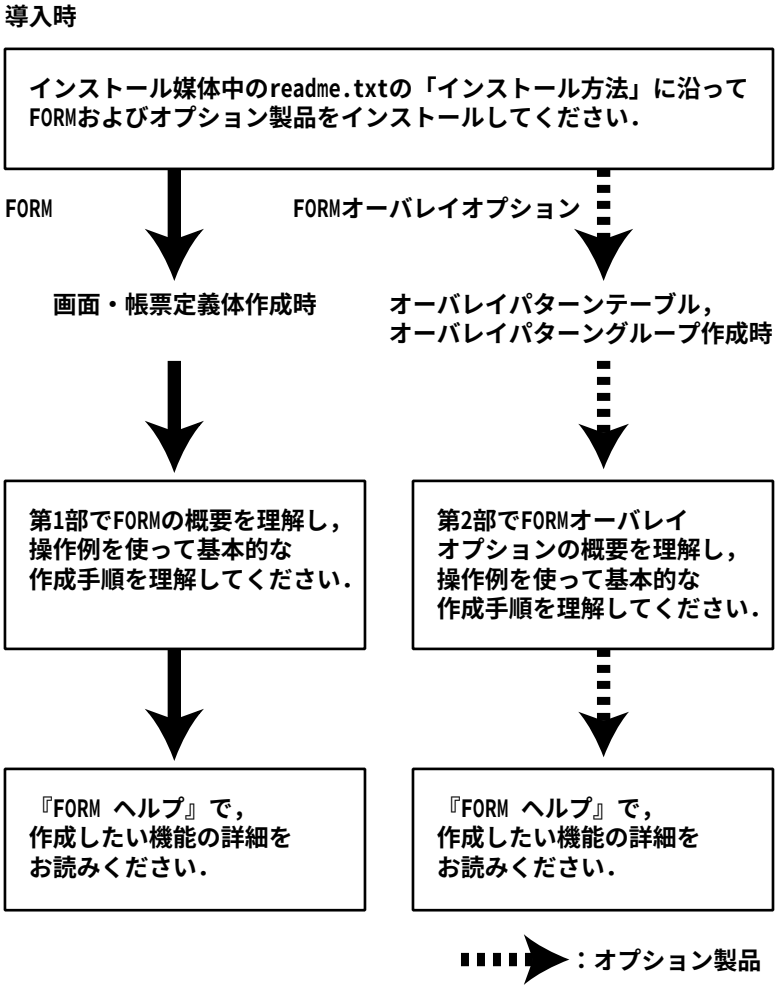
第 1 部 FORM 編	
第 1 章 画面・帳票定義体とは	FORM で作成する画面・帳票定義体はどのようなことを行っているのか，どのような情報から構成されているのかを説明しています.
第 2 章 画面・帳票定義体を作成しよう ～名刺入力画面／住所録帳票～	名刺データを入力する画面と，格納した名刺データを住所録として印刷する帳票を作成する例を説明しています．さらに，作成した定義体を利用者プログラムを作成しないで動作させる例を説明します.
第 3 章 FORM の基本的な操作を知ろう	起動／終了方法，作成／保存方法，定義画面の種類，ダイアログボックス，シンボルメニュー，カーソル，編集画面表示方法を説明しています.
第 4 章 FORM の機能を知ろう	画面・帳票定義体に定義できる機能，定義体形式，レコード定義を説明しています.
第 5 章 定義体の動作イメージを確認する（試験）	試験でできること，試験と FORM および MeFt との関係，試験の画面について説明しています.
第 6 章 項目ディクショナリ連携とは	項目ディクショナリ連携とは何か，どんなことができるか，どのように利用するかについて説明しています.

第 2 部 FORM オーバレイオプション編	
第 7 章 FORM オーバレイオプションとは	FORM オーバレイオプションとは何か，FORM と FORM オーバレイオプションとの関係について説明しています．
第 8 章 オーバレイ定義体を作成しよう	オーバレイパターンテーブルおよびオーバレイパターングループを作成する方法を説明しています．
第 9 章 FORM オーバレイオプションの基本的な操作を知ろう	起動／終了方法，作成／保存方法，定義画面の種類を説明しています．
第 10 章 FORM オーバレイオプションの機能を知ろう	オーバレイパターンテーブルに定義できる機能，オーバレイパターングループの機能を説明しています．
第 11 章 オーバレイ定義体の運用方法	オーバレイ定義体を COBOL および MeFt で重ねて出力する場合の方法を説明しています．

付録	
付録 A FORM のコード系	FORM で扱えるコード系とコード変換時の各コードの対応を示します．
付録 B 画面・帳票定義体のサイズ削減方法	画面・帳票定義体のファイルサイズを削減する方法を説明しています．
付録 C 画面・帳票定義体のサイズ概算方法	画面・帳票定義体のファイルサイズの概算値を求める方法を説明しています．

■本書の読み方

本書は，以下のような順序でお読みください．



■キー，キーボード表記について

このマニュアルは，どの機種のキーボードにも対応する一般的な表記方法で記述しています．ヘルプの「機種別キーボード対応表」に従ってキーを読み替えてください．

キーボードのキーは【　　】で囲み，必要な部分だけ記述しています．

「【　　】と【　　】」という記述は，左側のキーを押しながら右側のキーを押すことを意味しています．

■本文中のマークについて

本文中のマークは，以下のようになっています．

マーク	説明
1.	操作手順を示しています．
⇒	操作結果を示しています．
[　　]	メニューまたはコマンドを示してします．
注意	特に注意が必要な事項を示しています． 必ずお読みください．
参考	操作に関して参考になる情報を示しています．
参照	関連する情報が記載されている参照先またはマニュアルを示しています． 「参照 ○○○“×××××”」と記述しているところは，○○○については，×××××を参照してくださいという意味です． 「参照『FORM ヘルプ』○○○」と記述しているところは，『FORM ヘルプ』の○○○を参照してくださいという意味です．
○○○ └×××× 　└△△△△△	『FORM ヘルプ』の参照先を示しています． ○○○の××××の△△△△△を参照してくださいという意味です．

目次

第 1 部 FORM 編 13

第 1 章 画面・帳票定義体とは 15

1.1 プログラムと画面・帳票定義体の関係 16

1.2 画面定義体／帳票定義体の構成要素 18

第 2 章 画面・帳票定義体を作成しよう
～名刺入力画面／住所録帳票～ 19

2.1 画面定義体の作成手順を知ろう 20

2.1.1 画面定義体の作成 20

2.1.2 作成した画面定義体の内容を出力（標準説明書生成） 33

2.1.3 作成した画面定義体の動作イメージを確認（試験） 33

2.2 帳票定義体の作成手順を知ろう 36

2.2.1 帳票定義体の作成 36

2.2.2 作成した帳票定義体の内容を印刷（標準説明書生成） 45

2.2.3 作成した帳票定義体の印刷イメージを確認（試験） 45

第 3 章 FORM の基本的な操作を知ろう 49

3.1 FORM の起動／終了方法と画面・帳票定義体の作成／保存 50

3.1.1 FORM の起動 50

3.1.2 画面・帳票定義体の作成 52

3.1.3 画面・帳票定義体の保存 53

3.1.4 FORM の終了 54

3.2 定義画面の種類 55

3.3 シンボルメニューの使い方 59

3.4 カーソル操作 60

3.5 編集画面表示状態の変更方法 62

3.5.1 行情報（帳票定義体） 62

3.5.2 区画情報表示（帳票定義体） 63

3.5.3 ルーラー 64

3.5.4 ズーム 64

3.5.5 グリッド 65

第 4 章 FORM の機能を知ろう 69
4.1 画面定義体に定義できる機能 70
4.1.1 全般情報 70
4.1.2 設定できる項目 70
4.1.3 罫線／網がけ 72
4.1.4 項目群 72
4.1.5 定義体形式 73
4.1.6 アテンション情報／メニュー定義 73
4.1.7 項目選択 73
4.1.8 画面分割してスクロールする ～分割スクロール～ 74
4.1.9 画面制御の定義 ～振分け手順～ 74
4.2 帳票定義体に定義できる機能 75
4.2.1 全般情報 75
4.2.2 設定できる項目 75
4.2.3 罫線／網がけ 76
4.2.4 項目群 77
4.2.5 定義体形式 77
4.2.6 オーバレイ定義体を重ねた帳票の設定
～オーバレイ名の指定～ 77
4.2.7 行間隔／文字間隔の変更 ～行情報～ 78
4.3 画面／帳票の種類 ～定義体形式～ 80
4.3.1 自由形式 80
4.3.2 伝票形式 82
4.3.3 自由パーティション形式 86
4.3.4 集計表パーティション形式 91
4.4 レコード領域を知る ～レコード定義～ 96

第 5 章 定義体の動作イメージを確認する（試験）..... 97
5.1 試験でできること 98
5.2 試験の各機能と FORM，MeFt との関係 99
5.3 試験の画面 102

第 6 章 項目ディクショナリ連携とは 103
6.1 特長 104
6.2 機能 105
6.3 必要なソフトウェア 106

第 2 部 FORM オーバレイオプション編 107

第 7 章 FORM オーバレイオプションとは..... 109

7.1 FORM と FORM オーバレイオプションの関係..... 110

7.2 利用者プログラムとの関係..... 113

第 8 章 オーバレイ定義体を作成しよう 115

8.1 オーバレイパターンテーブルを作成しよう..... 116

8.2 オーバレイパターングループを作成しよう..... 126

第 9 章 FORM オーバレイオプションの
基本的な操作を知ろう 129

9.1 FORM の起動／終了方法とオーバレイ定義体の
作成／保存方法..... 130

9.1.1 FORM の起動..... 130

9.1.2 オーバレイ定義体の作成 131

9.1.3 オーバレイ定義体の保存 132

9.1.4 FORM の終了..... 133

9.2 定義画面の種類..... 134

第 10 章 FORM オーバレイオプションの機能を知ろう. 135

10.1 オーバレイパターンテーブルで設定できる機能 136

10.1.1 全般情報..... 136

10.1.2 作成できる図形，文字 136

10.2 オーバレイパターングループに設定できるもの 139

10.2.1 全般情報..... 139

10.2.2 出力順序..... 139

10.2.3 コード系..... 140

10.2.4 オーバレイパターンテーブル名..... 140

第 11 章 オーバレイ定義体の運用方法 141

11.1 COBOL の出力帳票に重ねて出力する方法..... 142

11.2 MeFt の出力帳票に重ねて出力する方法 143

付録 145

付録 A FORM のコード系 147
A.1 FORM で扱えるコード系 148
A.2 コード変換..... 148
A.2.1 富士通標準のコード変換 148
A.2.2 FORM 独自のコード変換 148
付録 B 画面・帳票定義体のサイズ削減方法 161
付録 C 画面・帳票定義体のサイズ概算方法 163
索引 169

第 1 部　FORM 編

FORM は，画面定義体および帳票定義体を設計するツールです．ここでは，FORM について以下のことを説明します．

- FORM で作成する画面・帳票定義体とは何か
- FORM を使って画面・帳票定義体を作成する方法
- FORM の基本的な操作
- FORM の機能

目次

第 1 章 画面・帳票定義体とは 15
第 2 章 画面・帳票定義体を作成しよう ～名刺入力画面／住所録帳票～ 19
第 3 章 FORM の基本的な操作を知ろう 49
第 4 章 FORM の機能を知ろう 69
第 5 章 定義体の動作イメージを確認する（試験）..... 97
第 6 章 項目ディクショナリ連携とは 103

第１章　画面・帳票定義体とは

プログラムの中で FORM が作成する画面・帳票定義体はどのようなことを行っているか，画面・帳票定義体はどのような情報から構成されているかについて理解できます.

目次

1.1 プログラムと画面・帳票定義体の関係 16
1.2 画面定義体／帳票定義体の構成要素 18

1.1　プログラムと画面・帳票定義体の関係

FORM とは，画面定義体と帳票定義体を設計するためのツールです．画面定義体と帳票定義体の 2 つを総称して，画面・帳票定義体といいます．

この「画面・帳票定義体」とは一体何でしょう？

これから画面・帳票定義体とは何か，画面・帳票定義体と利用者プログラムとの関係について説明します．

■手作業での仕事

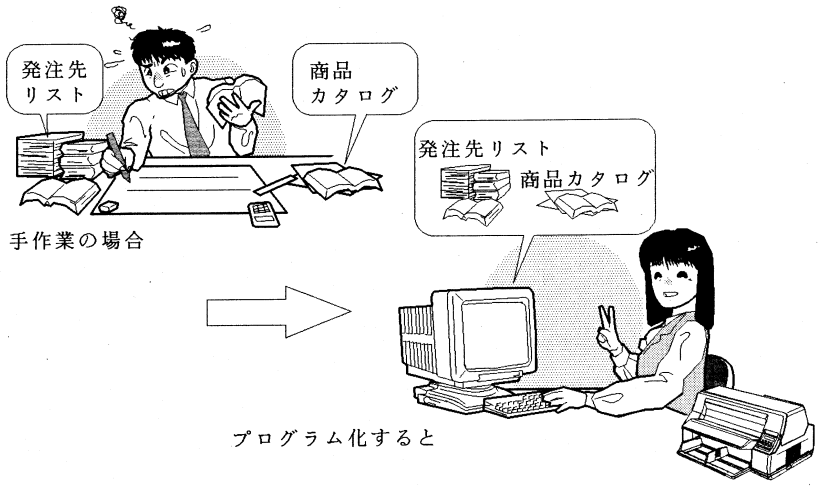
例えば，事務机を発注するという仕事を考えてみましょう．そのためには，「事務机発注伝票」という書類を作成しなければなりません．

この書類を作成するためには，まず発注先のリスト，事務机のカタログを調べます．そして，その中から必要な情報（商品名や商品コード，発注先の会社名や住所，電話番号など…）を探しだして伝票に書き写します．

■プログラムを使った仕事

同じ仕事をプログラムで行うとどうなるでしょう？

発注先リスト，事務机のカタログはデータファイルに保存されています．ディスプレイからコードを入力するだけで，プログラムが必要な情報を検索，計算します．そして発注伝票がプリンタから印刷されます．



■画面・帳票定義体とは

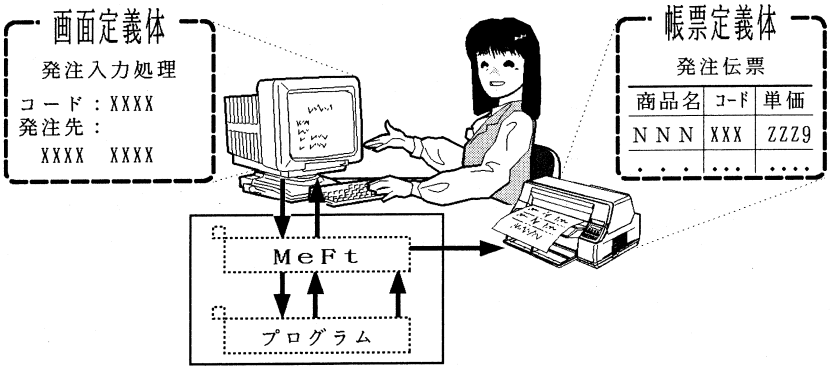
ディスプレイから商品コードなどを入力するとき，画面のどこに何のデータを入力するのかを決めておかなければ，プログラムでそのデータを扱うことができません．例えば発注先の会社名は，5 行 10 桁目に日本語で 10 文字入力するというように決めておきます．

このように，ディスプレイのどこに何を入力／表示するのかを設定したものを画面定義体といいます．同じように，プリンタでどこに何を印刷するのかを設定したものを帳票定義体といいます．

■プログラムと画面・帳票定義体の関係

ディスプレイやプリンタで入出力を行う情報を定義したものが画面・帳票定義体です．プログラムは，データの検索や計算などを行います．

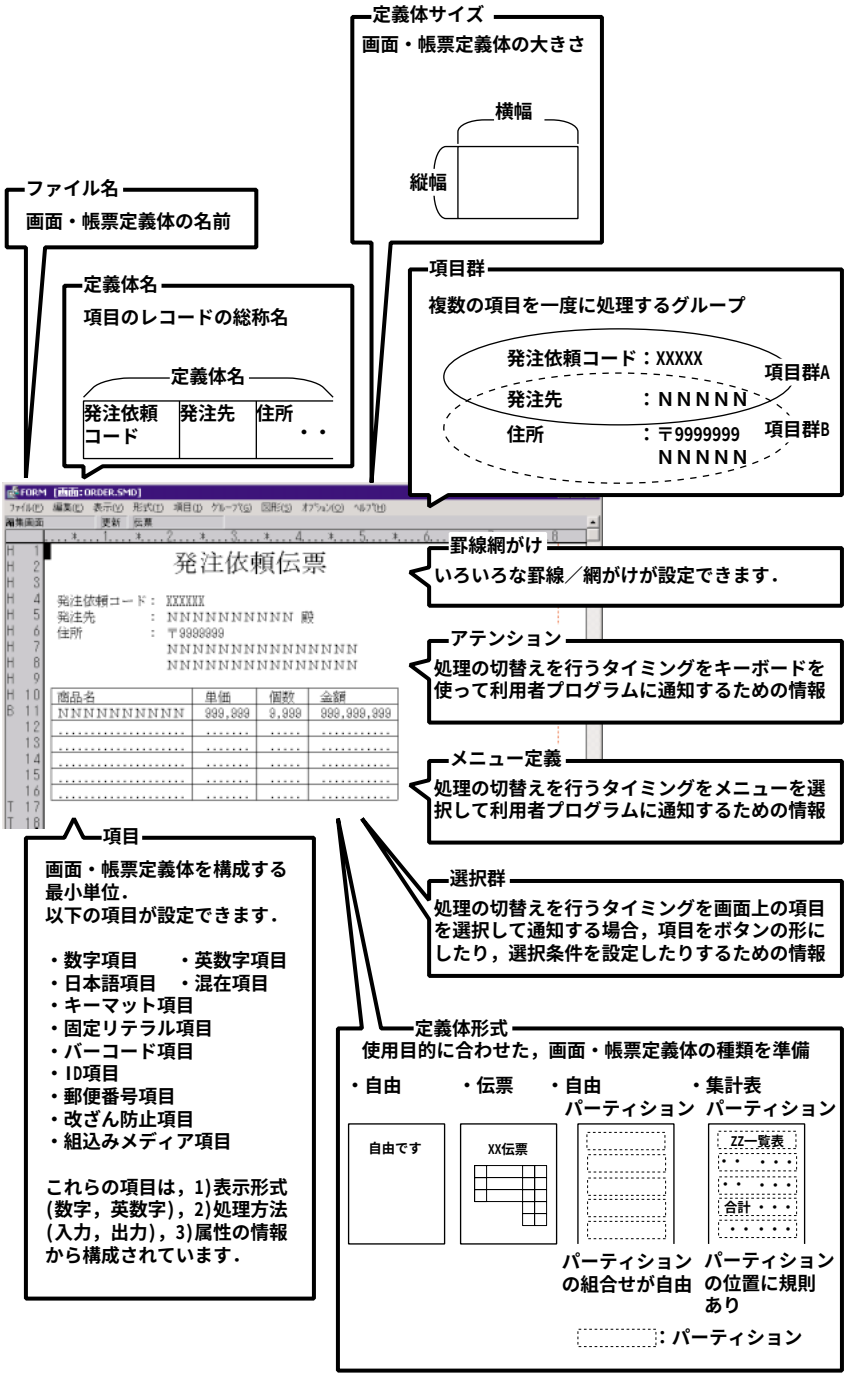
画面・帳票定義体とプログラムの間では，MeFt がデータの受け渡しを行っています．



→：データの流れ

1.2　画面定義体／帳票定義体の構成要素

画面定義体／帳票定義体には，以下の構成要素があります．



第２章　画面・帳票定義体を作成しよう ～名刺入力画面／住所録帳票～

ここでは，画面・帳票定義体の作成手順を理解するために，名刺データを入力する画面定義体とそのデータを住所録として印刷する帳票定義体を作成します.

この章に入る前に必ず FORM のインストールを行ってください.

目次

2.1 画面定義体の作成手順を知ろう 20
2.2 帳票定義体の作成手順を知ろう 36

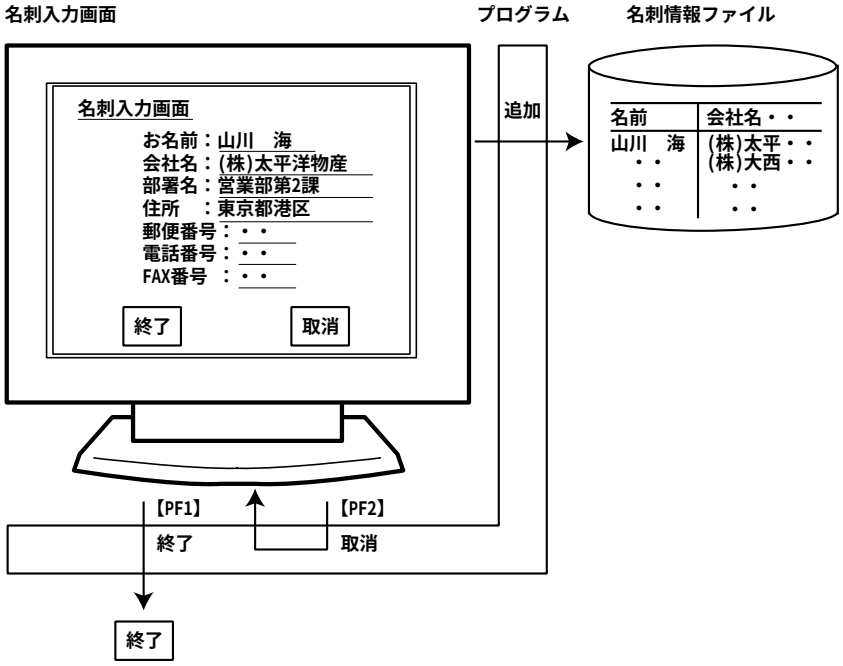
2.1　画面定義体の作成手順を知ろう

2.1.1　画面定義体の作成

ここでは，名刺のデータを入力するための画面定義体を作成します.

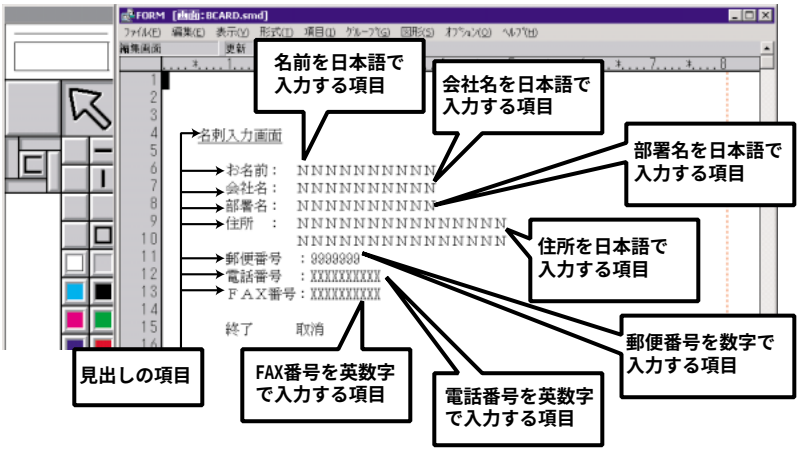
■プログラム概要

ここで作成する画面定義体は，どのような利用者プログラムで動作するかを示します.



■名刺入力画面を作成するためには

以下に示す画面定義体を作成します.



この画面定義体には，項目や罫線のほかに次の情報を設定します.

- 定義体全般情報

  ファイル名：

  BCARD.smd（プログラムに画面定義体を取り込むときの名前）

  定義体名：

  名刺入力画面（プログラムで使用するレコード領域の名前）

  定義サイズ：

  24 行 80 桁（画面の大きさ）

  入力処理：

  下線（画面の入力項目に自動的に下線を設定）

  選択処理：

  選択処理を設定（項目を選択して処理が行える）

- 定義体形式

  自由形式とします（自由に項目や項目群を設定できる）.

- 項目群

  複数の項目を一度に処理するグループを設定します．この項目をグループ化したものを項目群といいます．ここでは，以下の項目群を設定します.

  全固定項目：

  見出しとなるすべての項目（固定リテラル項目）が含まれる項目群

  全入出力項目：

  すべての入出力項目が含まれる項目群

  全出力項目：

  すべての入出力項目とすべての出力項目が含まれる項目群

- アテンション情報，選択群，メニュー定義

  名刺データの入力の終了や入力データの取消を利用者プログラムに通知する方法として，ファンクションキー（アテンション情報），ボタン選

択（選択群），メニュー選択（メニュー定義）を使えるように設定します．

アテンション情報：

ファンクションキーを選択して，入力の終了や取消を行います．

ファンクションキー	データ	アテンション名	項目リテラル
PF1	有	終了	F001
PF2	無	取消	F002

選択群：

ボタンになった項目を選択して，入力の終了や取消を行います．

項目名	選択属性	データ	アテンション名	項目リテラル
終了	入力終了選択	有	終了	F001
取消	入力終了選択	無	取消	F002

ボタンの形にするために選択群に以下の情報を設定します．

選択群名	英数字選択群名	選択群種別	構成項目
終了	END	プッシュボタン	終了，取消

メニュー定義：

メニューを選択して，入力の終了や取消を行います．

メニューグループ名	メニュー項目名	データ	アテンション名	項目リテラル	キー名
ファイル	終了	あり	終了	F001	PF1
	取消	なし	取消	F002	PF2

なお，実行／入力，ライトペン，ID カード，およびクリアキーの各キーは，無条件に使用できます．

■操作手順

ここでは，基本的な機能の操作を説明します．

(1)FORM を起動します

FORM を起動して，定義体を作成できる状態にします．

操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします．

⇒スタートアップ画面表示後，属性を持たない定義体の編集画面が表示されます．

(2) 定義体の属性を指定します

属性を持たない定義体に，「画面定義体」という属性を付けます．

操作

1. ［ファイル］メニューから［新規作成］を選択し，サブメニューから［画面定義体］コマンドを選択します．

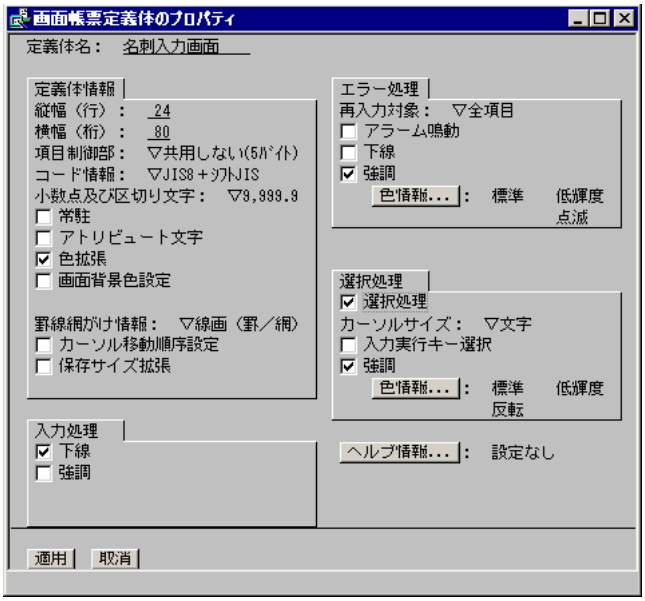
⇒画面定義体の編集画面が表示されます．

(3) 画面定義体全般の情報を設定します

定義体名，定義サイズ，入力処理，および選択処理を指定します.

操作

1. ［ファイル］メニューから［プロパティ］を選択し，サブメニューから［画面帳票定義体］コマンドを選択します.
   ⇒画面帳票定義体のプロパティダイアログボックスが表示されます.
2. 定義体名に「名刺入力画面」と入力します.
3. 定義サイズとして縦幅に「24」，横幅に「80」が指定されていることを確認します.
4. 入力項目に自動的に下線を設定するために，入力処理の「下線」を選択します（なお，下線は利用者プログラムで実行したときに表示されます）.
5. 項目を選択して処理を行える定義体にするために，「選択処理」を選択します.



6. 「適用」を選択します.

   ⇒編集画面に戻ります.

(4) 定義体形式を指定します

自由形式を指定します.

操作

1. 編集画面の定義体形式が表示されている欄が「自由」となっていることを確認します．初期値が自由形式なので特に指定する必要はありません.

   ほかの形式を指定する場合は，［形式］メニューから選択して指定します.

(5) 項目を設定します ～間接入力～

項目の設定方法には，ダイアログボックスを使って項目を設定する方法および編集画面に直接項目を設定する方法の 2 通りがあります.

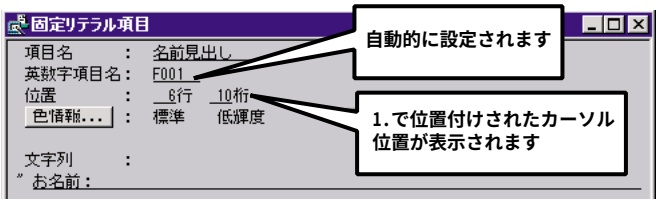
はじめに，ダイアログボックスを使って，名前を入出力する項目とその項目の見出しとなる項目を設定します.

操作

1. 編集画面上の見出し（「お名前：」）を設定したい位置（6 行 10 桁）にカーソルを移動します.
2. ［項目］メニューから［固定リテラル］コマンドを選択します.

   見出しのように，表示する文字が固定されている項目を固定リテラル項目といいます.

   ⇒固定リテラル項目ダイアログボックスが表示されます.
3. 項目名に「名前見出し」，文字列に「お名前：」を入力します.



4. 「適用」を選択します.

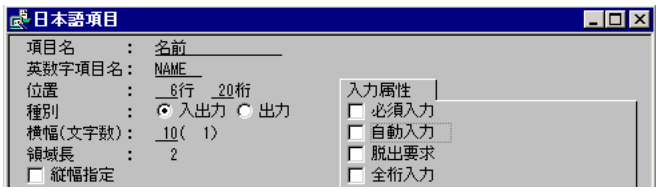
   ⇒見出しの項目が設定されます.

5. 編集画面上の名前を入出力する項目（「ＮＮＮＮＮＮＮＮＮＮ」）を設定したい位置（6 行 20 桁）にカーソルを移動します.

6. 名前は日本語で入出力するため，［項目］メニューから［日本語］コマンドを選択します.

   ⇒日本語項目ダイアログボックスが表示されます.

7. 項目名に「名前」，英数字項目名に「NAME」，種別に「入出力」，横幅に「10」を設定します.



8. 「適用」を選択します.

   ⇒名前を入力する項目が設定されます.

(6) 縦幅指定した項目（矩形の項目）を設定します

住所を入出力する項目のように 2 行以上にわたる項目は，縦幅指定した項目（矩形の項目）としてダイアログボックスを使って設定します.

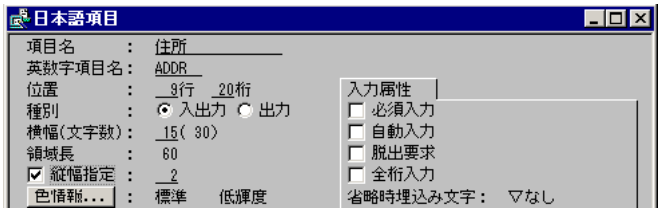
操作

1. 編集画面上の住所を入出力する項目を設定したい位置（9 行 20 桁）にカーソルを移動します.

2. 住所は日本語で入出力するため，［項目］メニューから［日本語］コマンドを選択します．

   ⇒日本語項目ダイアログボックスが表示されます．

3. 項目名に「住所」，英数字項目名に「ADDR」，種別に「入出力」，横幅に「15」，縦幅指定を選択し，「2」を設定します．



4. 「適用」を選択します．

   ⇒住所を入出力する矩形項目が設定されます．

(7) 項目を設定します ～直接入力～

次に直接入力で，会社名を入出力する項目とその項目の見出しとなる項目を設定します．

操作

1. 編集画面上の会社名の見出しを設定したい位置（7 行 10 桁）にカーソルを移動します．
2. 編集画面上に，見出しの文字「会社名：」を入力します．

3. 編集画面上の会社名を入出力する項目を設定したい位置（7 行 20 桁）にカーソルを移動します．
4. 会社名は日本語で最大 10 文字分入出力するため，日本語項目を示す「N」を 10 文字入力します．

5. 直接入力または間接入力ですべての項目を以下のように設定します.

(8) 罫線を設定します

項目の下に罫線を設定します.

操作

1. 「名刺入力画面」の先頭にカーソルを移動します.

2. 【CTRL】と【→】を押して，項目の最後までローカルカーソルを移動します.

⇒カーソルが移動した後に罫線が設定されます.

参考

罫線削除は，【SHIFT】と【→】で行います.

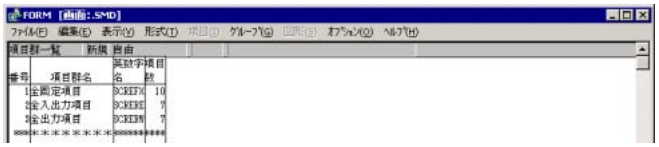
(9) 項目群を設定します

ここでは，FORM の項目群の自動生成機能を使って項目群（標準項目群）を設定します.

操作

1. 項目群を設定する画面を表示するために，［表示］メニューから［項目群一覧へ］コマンドを選択します.
   ⇒項目群一覧画面が表示されます.
2. ［グループ］メニューから［標準項目群生成］コマンドを選択します.
   ⇒標準項目群生成ダイアログボックスが表示されます.

3. 「適用」を選択します.
   ⇒標準項目群が生成されます.



(10) アテンション情報を設定します

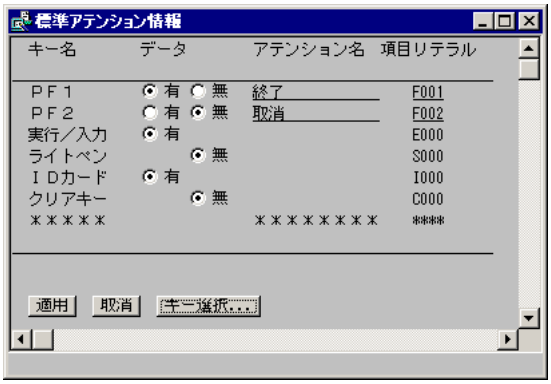
アテンション情報に「PF1」，「PF2」を設定します.

操作

1. ［形式］メニューから［標準アテンション情報］コマンドを選択します.
   ⇒標準アテンション情報ダイアログボックスが表示されます.
2. 「キー選択」を選択します.
   ⇒キー選択ダイアログボックスが表示されます.

3. キー名の「PF1」を選択します.

4. 「適用」を選択します.
   ⇒アテンション名，項目リテラルが入力できる状態になります.
5. アテンション名に「終了」と入力します.
6. 同様に 2. ～ 5. の操作を行って，「PF2」を設定します.

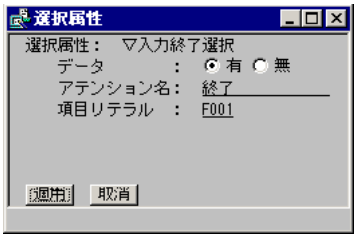


7. 「適用」を選択します.
   ⇒アテンション情報が設定されます.

(11) 選択項目を設定します

操作

1. 編集画面を表示して，「終了」の固定リテラル項目をダブルクリックします.
   ⇒プロパティダイアログボックスが表示されます.
2. 「選択属性」を選択します.
   ⇒選択属性ダイアログボックスが表示されます.
3. 選択属性に「入力終了選択」を選択します．データに「有」，アテンション名に「終了」，項目リテラルに「F001」を設定します.



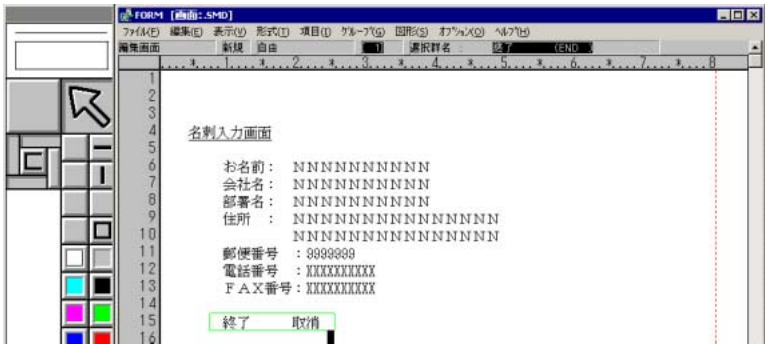
4. 「適用」を選択します.
   ⇒プロパティダイアログボックスに戻ります.
5. 「適用」を選択します.
   ⇒編集画面に戻ります.
6. 「取消」の固定リテラル項目にも同様に，選択属性を設定します.

(12) 選択群（ボタン）を設定します

操作

1. ［グループ］メニューから［選択群を追加］コマンドを選択します.
   ⇒選択群を追加ダイアログボックスが表示されます.
2. 選択群名に「終了」，英数字選択群名に「END」，選択群種別に「プッシュボタン」を設定します.

3. 「適用」を選択します.
   ⇒画面が構成項目表示状態になります.
4. インディケータ行に「項目－どれを？」と表示されるので，編集画面表示域で「終了」，「取消」の項目を囲むように範囲選択します.



5. 画面が構成項目表示状態になっているので，［表示］メニューから［構成項目表示を解除］コマンドを選択して基本状態に戻します.

(13) メニューを設定します

操作

1. ［表示］メニューから［メニュー定義へ］コマンドを選択します.
   ⇒メニュー定義画面が表示されます.
2. 「利用者定義メニュー」を選択し，「適用」を選択します.
3. メニューグループ名に「ファイル」を入力します.
4. ファイルのメニューグループを選択して，［表示］メニューから［構成項目一覧］コマンドを選択します.
   ⇒ファイルのメニューグループの構成項目一覧が表示されます.

5. メニュー項目表示域にカーソルを位置付けて，［編集］メニューから［挿入］コマンドを選択します．

   ⇒メニュー項目を 1 つ設定できるようになります．

6. 「終了」と「取消」のメニュー項目を以下のように設定します．

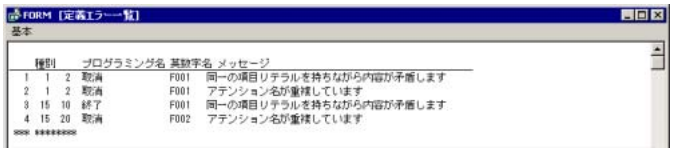
(14) 定義エラーを確認します

定義した内容にエラーがないかを確認します．

操作

1. ［オプション］メニューから［定義エラー一覧］コマンドを選択します．

   ⇒定義エラー一覧画面が表示されます．



2. ［基本］メニューから［定義エラー一覧終了］コマンドを選択します．

   ⇒定義エラー一覧表示前の画面に戻ります．

3. 定義エラーを修正します．

   上記の例では「取消」の固定リテラル項目のプロパティにおいて，選択属性の項目リテラルを F001 から F002 に修正します．

4. 再度，［オプション］メニューから［定義エラー一覧］コマンドを選択します．定義エラー一覧画面で「定義エラーはありません．」となるまで修正してください．

(15) 保存します

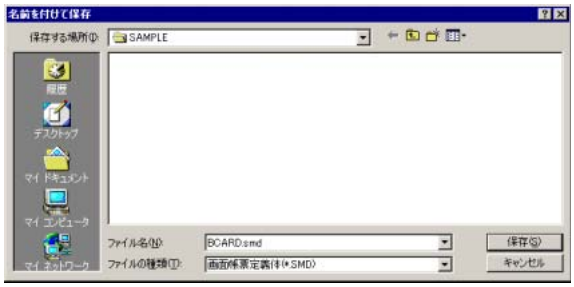
画面定義体を保存します．

操作

1. 編集画面で，［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］を選択し，サブメニューから［画面帳票定義体］コマンドを選択します．

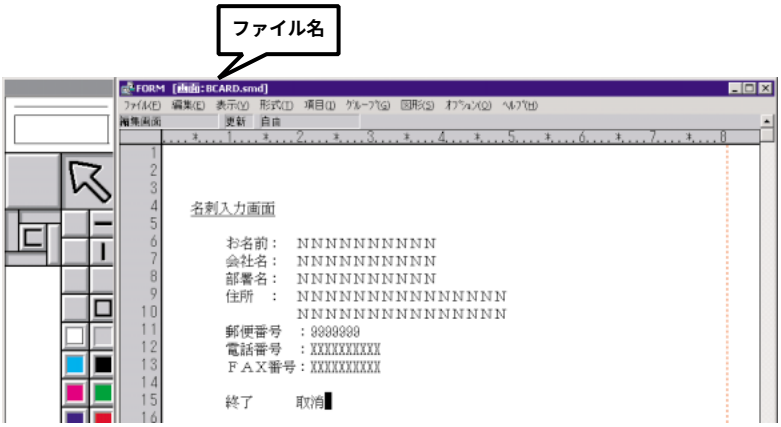
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます．

2. ファイル名に「BCARD.smd」と入力します．



3. 「保存」を選択します．

⇒作成中の定義体は保存され，編集画面に戻ります．タイトルバーにファイル名が表示されます．定義体の状態は「新規」から「更新」に変更されます．



参考

定義エラーが存在する定義体を保存する場合，強制保存を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます．強制保存した場合，未完成定義体として保存されます．

2.1.2 作成した画面定義体の内容を出力（標準説明書生成）

定義内容をテキストファイルに出力します.

操作

1. スタートメニューから「FORM 説明書生成」を選択します．または，「FORM 説明書生成」のアイコンをダブルクリックします.
   ⇒読み込み定義体を指定するダイアログボックスが表示されます.
2. ファイル名に「BCARD.smd」を指定します.
3. 「参照」を選択します.
   ⇒標準説明書生成ダイアログボックスが表示されます.

4. 出力ファイル名を指定して「適用」を選択します.
   ⇒定義内容のドキュメントが生成されます．標準説明書はワードパッドなどのテキストエディタで表示，更新，または印刷することができます.

2.1.3 作成した画面定義体の動作イメージを確認（試験）

(1) 試験の起動

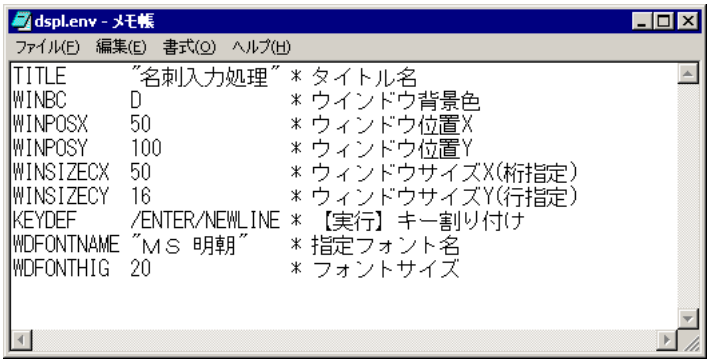
操作

1. スタートメニューから「FORM 試験」を選択します．または，「FORM 試験」のアイコンをダブルクリックします.
   ⇒試験のウィンドウが表示されます.

(2) 名刺入力画面をオープンします

操作

1. ［ファイル］メニューから［オープン］コマンドを選択します.
   ⇒オープンダイアログボックスが表示されます.
2. 画面帳票定義体名に「BCARD.smd」，環境設定ファイルに「dspl.env」を指定します.



参考

環境設定ファイルには，あらかじめ準備したウィンドウ情報ファイル，またはプリンタ情報ファイルを指定します．

これらのファイルはテキストエディタで作成し，ウィンドウの体裁，プリンタの操作方法などを定義しておきます．ファイルの記述方法については，MeFt のオンラインマニュアルを参照してください．

なお，ここでは内容を記述したウィンドウ情報ファイル「dspl.env」を使用した例を説明しています．

3. 「OK」を選択します．

⇒名刺入力の画面が表示されます．なお，表示される名刺入力の画面は，何も表示されていません．

(3) 見出しなどの固定部分を表示します

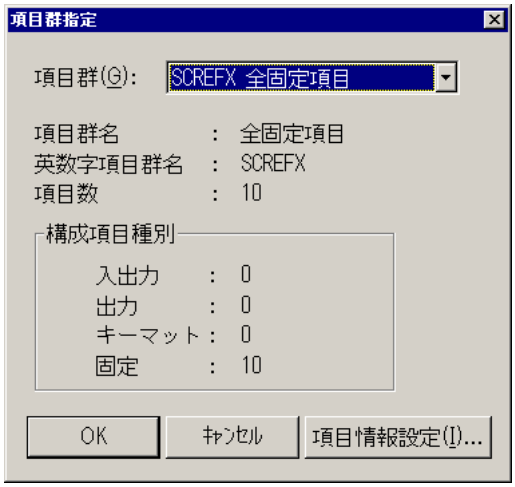
表示対象の項目群を指定して，出力処理を行います．

操作

1. ［指定］メニューから［項目群指定］コマンドを選択します．

⇒項目群指定ダイアログボックスが表示されます．

2. 項目群に「全固定項目」を指定します．



3. 「OK」を選択します.

   ⇒対象項目ウィンドウに「全固定項目」の情報が表示されます.

4. ［出力］メニューから［通常出力］コマンドを選択します.

   ⇒名刺入力の画面に見出しとして定義した固定リテラル項目が表示されます.

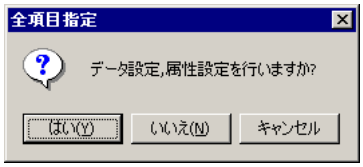
(4) データを入力します

データを入力するのは，入出力項目だけなので，入力単位を「全入出力項目」の項目群とします．その後，項目にデータを入力します.

操作

1. ［指定］メニューから［全項目指定］コマンドを選択します.

   ⇒全項目指定ダイアログボックスが表示されます.



2. 「いいえ」を選択します.

   ⇒対象項目ダイアログボックスに対象項目の情報が表示されます.

3. ［入力］メニューから［通常入力］コマンドを選択します.

4. 名刺入力画面でデータを直接入力します.

   ⇒名刺入力画面で，終了ボタンまたはメニューの終了を選択すると，入力したデータが対象項目ダイアログボックスのデータ欄に表示されます.

(5) 入力したデータをテキストファイルにします

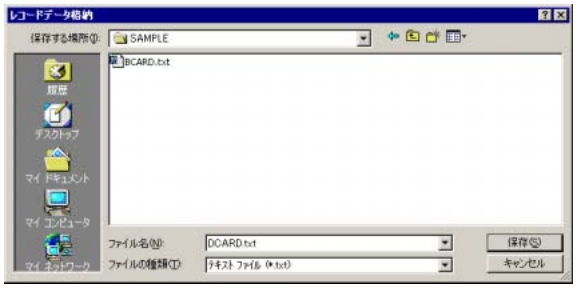
入力したデータを帳票定義体の試験にも利用するためにテキストにしておきます.

操作

1. ［ファイル］メニューから［レコードデータ格納］コマンドを選択します.

   ⇒レコードデータ格納ダイアログボックスが表示されます.

2. ファイル名に「DCARD.txt」を指定します.



3. 「保存」を選択します.

   「(4) データを入力します」で入力したデータが「DCARD.txt」というファイルのテキストとして格納されます.

(6) 試験を終了します

操作

1. ［ファイル］メニューから［終了］コマンドを選択します.

   ⇒試験を終了します.

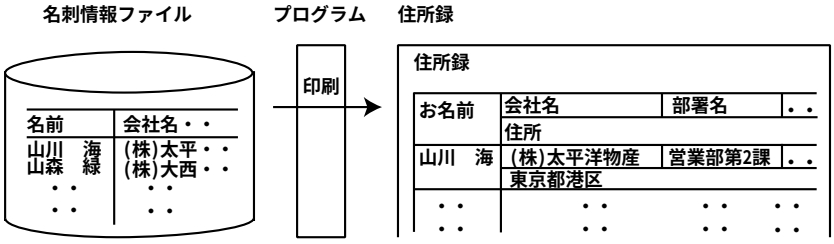
2.2 帳票定義体の作成手順を知ろう

2.2.1 帳票定義体の作成

ここでは，“2.1.1 画面定義体の作成”画面定義体を参照して，住所録の帳票定義体を作成します.

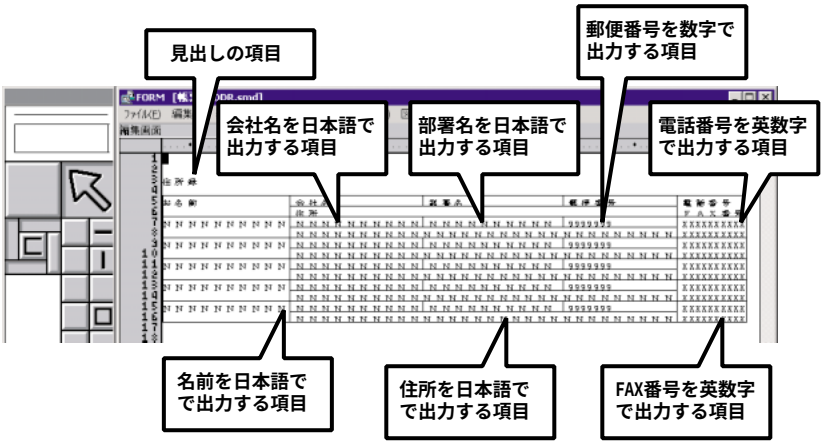
■ プログラム概要

ここで作成する帳票定義体は，どのような利用者プログラムで動作するかを示します.



■住所録を作成するためには

以下に示す帳票定義体を作成します.



この帳票定義体には，項目や罫線のほかに次の情報を設定します.

- 定義体全般情報

  ファイル名：

  ADDR.smd（プログラムに帳票定義体を取り込むときの帳票定義体の名前）

  定義体名：

  住所録（プログラムで使用するレコード領域の名前）

  定義サイズ：

  44 行 110 桁（帳票の大きさ）

- 定義体形式

  自由形式とします（自由に項目や項目群を設定できる）.

- 項目群

  複数の項目を一度に処理するグループを設定します.

  全固定項目：

  見出しとなるすべての項目（固定リテラル項目）が含まれる項目群

  全出力項目：

  すべての入出力項目とすべての出力項目が含まれる項目群

■操作手順

ここでは，基本的な機能の操作を説明します.

(1)FORM を起動します

FORM を起動して，帳票定義体を作成できる状態にします.

操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします.

⇒スタートアップ画面表示後，属性を持たない定義体の編集画面が表示されます．

(2) 定義体の属性を指定します

属性を持たない定義体に，「帳票定義体」という属性を付けます．

操作

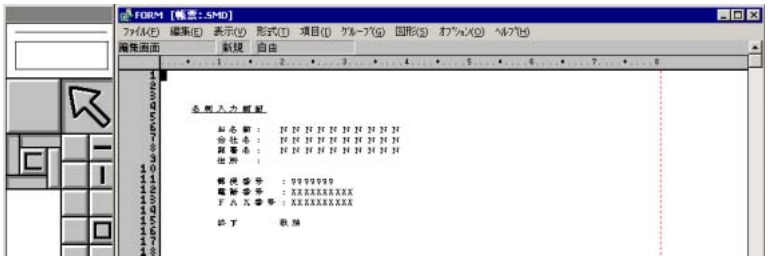
1. ［ファイル］メニューから［開く］を選択し，サブメニューから［帳票定義体］コマンドを選択します．

   ⇒帳票定義体を開くダイアログボックスが表示されます．

2. 参照する画面定義体のファイル名（BCARD.smd）を選択します．

参照 “2.1.1 画面定義体の作成”

ただし，住所を入出力する項目は，画面定義体作成時に縦幅指定した項目として作成したので，帳票定義体で参照作成した時点で削除されます（帳票定義体には縦幅指定した項目は設定できないため）．



(3) 帳票定義体全般の情報を設定します

定義体名，定義サイズ，および印刷する用紙のサイズを設定します．

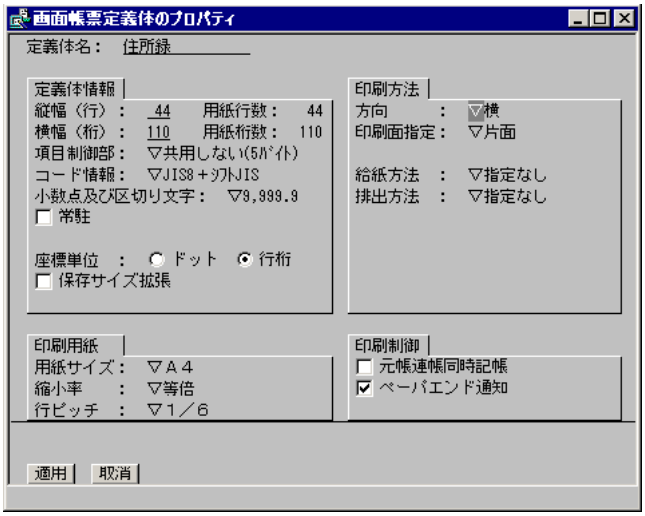
操作

1. ［ファイル］メニューから［プロパティ］を選択し，サブメニューから［画面帳票定義体］コマンドを選択します．

   ⇒画面帳票定義体のプロパティダイアログボックスが表示されます．

2. 定義体名に「住所録」，座標単位に「行桁」と設定します．
3. 用紙サイズ「Ａ ４」，印刷方向「横」を選択します．

⇒用紙サイズ「Ａ４」，印刷方向「横」を指定すると，用紙内に収まるように自動的に縦幅に「44」，横幅に「110」が表示されます．



4. 「適用」を選択します．

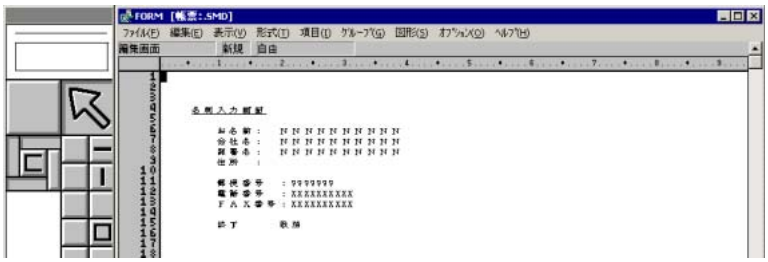
⇒編集画面に戻ります．

(4) 定義体形式を指定します

自由形式を指定します．

操作

1. 編集画面の定義体形式が表示されている欄が「自由」となっていることを確認します．



(5) 項目を設定します

項目の設定方法には，“2.1.1 画面定義体の作成”で説明したとおり，間接入力および直接入力する方法の 2 通りがあります．ここでは，先の画面定義体を参照しているので，FORM の編集機能を使って画面定義体で設定されていた項目を移動／複写して項目を設定します．また，不要な項目を削除します．

操作

1. 見出しの項目（「名刺入力画面」）にマウスポインタを位置付け，クリックします．

2. 移動先（3 行 1 桁）までドラッグします．

⇒項目が移動します.

3. 固定リテラル項目（「終了」）にマウスポインタを位置付け，クリックします.

4. ［編集］メニューまたはマウスを右クリックし，ポップアップメニューから［削除］コマンドを選択します.

5. 同様に 3. ～ 4. の操作を行って「取消」を削除します.

6. 固定リテラル項目（「お名前：」）にマウスポインタを位置付け，クリックします.

7. ［編集］メニューまたはマウスを右クリックし，ポップアップメニューから［切り取り］コマンドを選択します.

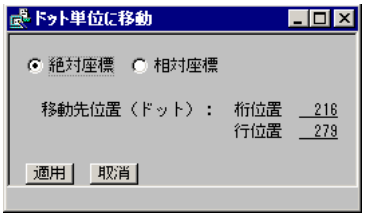
8. 移動先（5 行 1 桁）にカーソルを位置付け，［編集］メニューまたはポップアップメニューから［貼り付け］コマンドを選択します.

⇒項目が移動します.

9. 固定リテラル項目（「会社名：」）にマウスポインタを位置付け，クリックします.

10. ［編集］メニューから［ドット単位に移動］コマンドを選択します.

⇒ドット単位に移動ダイアログボックスが表示されます.



11. 移動先（絶対座標：桁位置 504，行位置 199）を指定し，「適用」を選択します.

⇒項目が移動します.

12. 操作を繰り返して以下のように並べかえます.

13. 住所を入力する項目を設定するために，住所を入力する位置（8 行 22 桁）にカーソルを移動します.

14. ［項目］メニューから［日本語］コマンドを選択します.

⇒日本語項目ダイアログボックスが表示されます.

15. 項目名に「住所」，英数字項目名に「ADDR」，文字数に「30」を設定します.

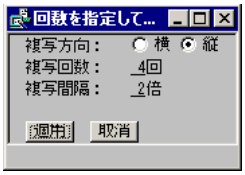
16.「適用」を選択します.

⇒住所を出力する項目が設定されます.

17. 7 行目の行スケール域にマウスポインタを位置付けて，8 行目までドラッギングします.

18.［編集］メニューから［回数を指定して複写］コマンドを選択します.

⇒回数を指定して複写ダイアログボックスが表示されます.



19. 複写方向に「縦」，複写回数に「4」，複写間隔に「2」を指定して，「適用」を選択します.

⇒項目が繰り返して複写されます.

参考

繰り返さずに一度だけ複写するときは，［編集］メニューまたはポップアップメニューから［コピー］コマンドを選択します.

(6) 項目を修正します

見出しの項目を修正します.

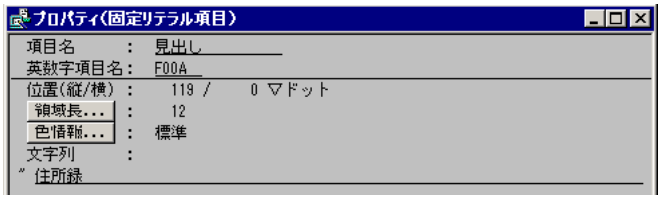
操作

1. 項目「名刺入力画面」にマウスポインタを位置付けクリックします.

2.［項目］メニューから［プロパティ］コマンドを選択します.

⇒プロパティダイアログボックス（固定リテラル項目）が表示されます.

3. 文字列「名刺入力画面」を「住所録」に変更します.



4. 「適用」を選択します.

   ⇒住所録に変更されます.

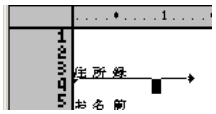
5. 1. ～ 4. の操作を繰り返してほかの固定リテラル項目を修正します.

(7) 罫線を設定します

画面定義体で設定した罫線を削除してから，罫線を設定し直します.

操作

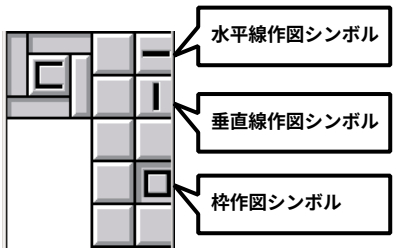
1. 設定されている罫線を 1 つ選択します.



2. ［編集］メニューまたはポップアップメニューから［削除］コマンドを選択します.

   ⇒選択した罫線が削除されます.

3. シンボルメニューから枠作図シンボルを選択します.



   ⇒マウスポインタがクロスポインタに変わり，作図状態になります.

4. 枠を作図したい範囲（4 行 1 桁目から 16 行 92 桁目まで）をドラッギングします.

   ⇒枠罫線が作図されます.

5. 3.，4. の操作と同様に，縦罫線，下横罫線を作図します．縦罫線を作図するときは，垂直線作図シンボル，下横罫線を作図するときは，水平線作図シンボルを選択します.

6. 罫線の作図が終わったら，選択シンボルを選択して作図状態を終了します．

(8) 項目群を設定します

複数の項目を一度に処理するグループを設定します．画面定義体を参照しているので，すでに項目群は設定されています．しかし，帳票定義体で作成する項目群とは異なるので，再度，FORM の自動生成機能を使って，項目群を作成し直します．

操作

1. 項目群を設定する画面を表示するために，［表示］メニューから［項目群一覧へ］コマンドを選択します．

   ⇒項目群一覧画面が表示されます（画面定義体で作成した項目群が表示されています）．

2. ［グループ］メニューから［標準項目群生成］コマンドを選択します．

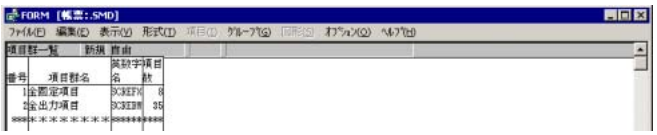
   ⇒標準項目群生成ダイアログボックスが表示されます．

3. 「適用」を選択します．

   ⇒すでに，同一名の項目群が存在するため，P4304 のエラーメッセージが表示されます．

4. 「OK」を選択して，項目群を作成し直します．

   ⇒設定したい項目群が生成されます．



(9) 定義エラーを確認します

定義した内容にエラーがないかを確認します．

操作

1. ［オプション］メニューから［定義エラー一覧］コマンドを選択します．

   ⇒定義エラー一覧画面が表示されます．

2. ［基本］メニューから［定義エラー一覧終了］コマンドを選択します．

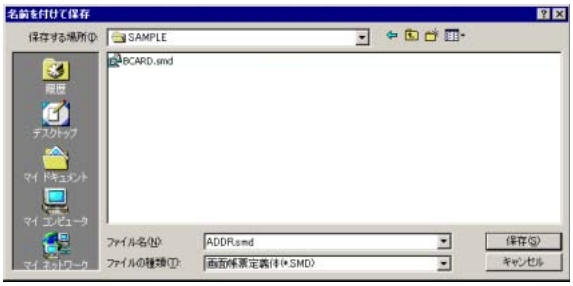
   ⇒定義エラー一覧表示前の画面に戻ります．

(10) 保存します

帳票定義体を保存します.

操作

1. 編集画面の［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］コマンドを選択し，サブメニューから［画面帳票定義体］を選択します.
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます.
2. ファイル名に「ADDR.smd」と入力します.



3. 「保存」を選択します.
   ⇒作成中の定義体が保存され，編集画面に戻ります．タイトルバーにファイル名が表示されます．定義体の状態は「新規」から「更新」に変更されます.

参考

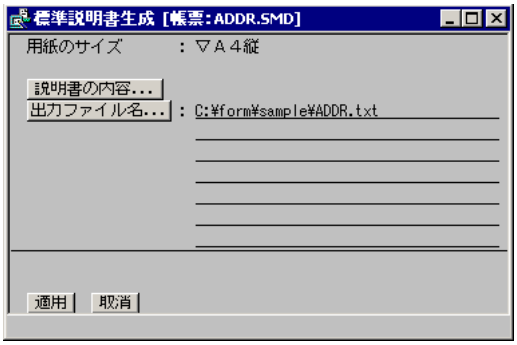
定義エラーが存在する定義体を保存する場合，強制保存を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます．強制保存した場合，未完成定義体として保存されます.

2.2.2 作成した帳票定義体の内容を印刷（標準説明書生成）

定義内容をテキストファイルに出力します.

操作

1. スタートメニューから「FORM 説明書生成」を選択します．または,「FORM 説明書生成」のアイコンをダブルクリックします.
   ⇒読み込み定義体を指定するダイアログボックスが表示されます.
2. ファイル名に「ADDR.smd」を指定します.
3. 「参照」を選択します.
   ⇒標準説明書生成ダイアログボックスが表示されます.



4. 出力ファイル名を指定して「適用」を選択します.
   ⇒定義内容が生成されます.

2.2.3 作成した帳票定義体の印刷イメージを確認（試験）

(1) 試験の起動

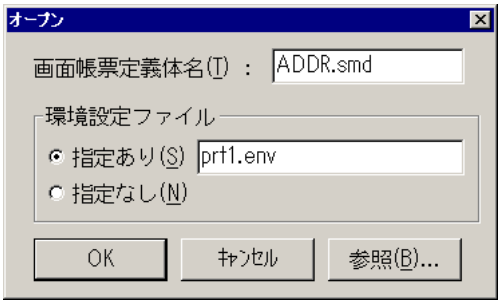
操作

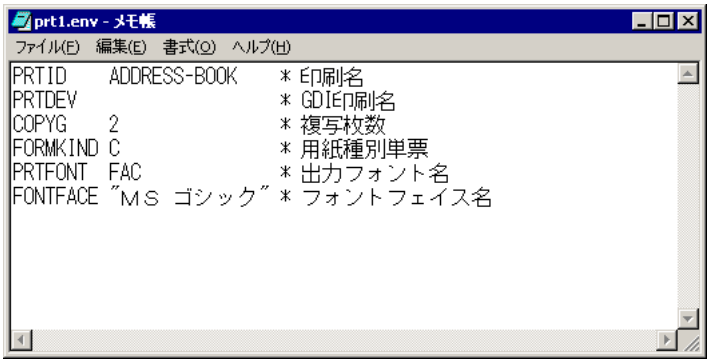
1. スタートメニューから「FORM 試験」を選択します．または,「FORM 試験」アイコンをダブルクリックします.
   ⇒試験のウィンドウが表示されます.

(2) 住所録をオープンします

操作

1. ［ファイル］メニューから［オープン］コマンドを選択します.
   ⇒オープンダイアログボックスが表示されます.
2. 画面帳票定義体名に「ADDR.smd」，環境設定ファイルに「prt1.env」を指定します.





参考

環境設定ファイルには，あらかじめ準備したウィンドウ情報ファイル，またはプリンタ情報ファイルを指定します．

これらのファイルはテキストエディタで作成し，ウィンドウの体裁，プリンタの操作方法などを定義しておきます．ファイルの記述方法については，MeFt のオンラインマニュアルを参照してください．

なお，ここでは，上記の内容を記述したプリンタ情報ファイル「prt1.env」を使用した例を説明しています．

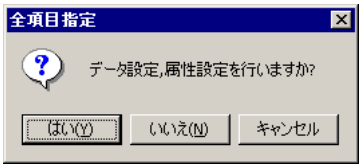
3. 「OK」を選択します．

(3) 出力対象を指定します

全項目を出力対象とします．

操作

1. ［指定］メニューから［全項目指定］コマンドを選択します．
   ⇒全項目指定ダイアログボックスが表示されます．



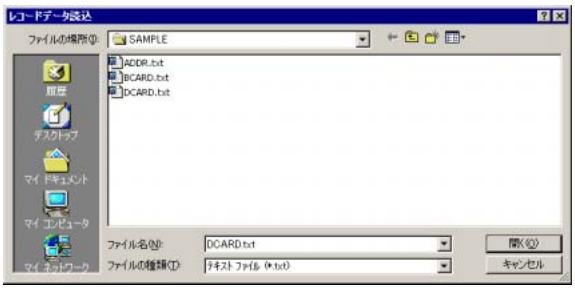
2. 「いいえ」を選択します．
   ⇒対象項目ダイアログボックスに対象項目の情報が表示されます．

(4) データを設定します

画面定義体の試験で生成したテキストデータを利用してデータを設定します.

操作

1. ［ファイル］メニューから［レコードデータ読込］コマンドを選択します.
   ⇒レコードデータ読込ダイアログボックスが表示されます.
2. ファイル名に「DCARD.txt」を指定します.



3. 「開く」を選択します.
   ⇒ DCARD.txt というファイルに格納されているデータが読み込まれます.

(5) 住所録を印刷します

住所録を印刷します.

操作

1. ［出力］メニューから［通常出力］コマンドを選択します.
2. ［ファイル］メニューから［クローズ］コマンドを選択します.
   ⇒プリンタから住所録が印刷されます.

(6) 試験を終了します

操作

1. ［ファイル］メニューから［終了］コマンドを選択します.
   ⇒試験を終了します.

第 3 章　FORM の基本的な操作を知ろう

ここでは，FORM で画面・帳票定義体を作成するときの以下の基本操作について
理解できます.

- FORM の起動／終了方法と FORM 起動後の画面・帳票定義体の作成／保存方法
- 画面・帳票定義体を作成するための定義画面の種類
- 罫線や網がけを設定するシンボルメニューの使い方
- カーソル操作
- 編集画面表示状態の変更方法

目次

3.1 FORM の起動／終了方法と画面・帳票定義体の作成／保存 50
3.2 定義画面の種類 55
3.3 シンボルメニューの使い方 59
3.4 カーソル操作 60
3.5 編集画面表示状態の変更方法 62

参照

『FORM ヘルプ』

- メニューコマンド
- 画面別操作ガイド

3.1 FORM の起動／終了方法と画面・帳票定義体の作成／保存

FORM の起動および終了方法を説明します．また，起動された後の画面・帳票定義体の作成および保存方法を説明します．

3.1.1 FORM の起動

画面・帳票定義体を作成するためには，まず，FORM を起動します．

起動する方法を以下に説明します．

操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします．
   ⇒スタートアップ画面の表示後，FORM の編集画面が表示されます．

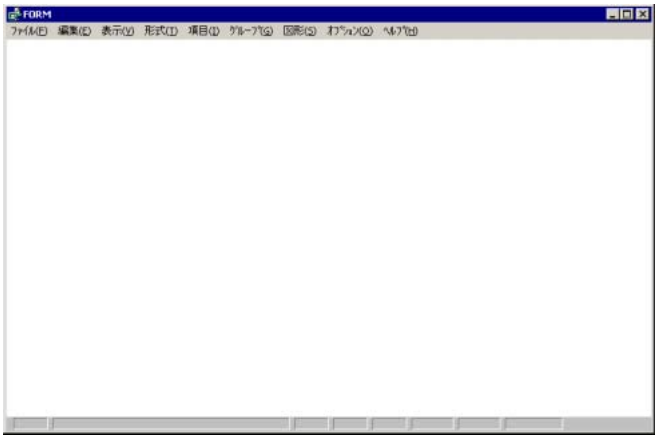


図 3.1 FORM の編集画面

参考

このほかにエクスプローラから FORM.EXE を実行しても起動できます．また，コマンドラインを指定して起動することもできます．なお，FORM.EXE は FORM のインストールフォルダに格納されています．

コマンドライン

コマンドラインで FORM を起動する方法について説明します．

なお，コマンドラインの場合は，フルパスで指定してください．

__（下線）は，下線部分だけでもよいことを示しています．[　　] は省略してもよいことを示しています．また，以下のコマンドラインは，大文字，小文字が混在していてもかまいません．

- 新規作成の場合

```
FORM  -CREATEMED  [ 作成ファイル名 ]
                  [-ATTRIBUTE ファイル属性 ]
                  [-REFER 参照ファイル名 ]
```

-CREATEMED :

新規にファイルを作成することを示します．作成するファイル名を設定します．

-ATTRIBUTE :

作成するファイル属性に以下のいずれかを指定します．

DISPLAY：画面定義体

PRINTER：帳票定義体

省略した場合，起動後「ファイル属性を指定するダイアログボックス」でファイル属性を指定します．

図 3.2 ファイル属性を指定するダイアログボックス

-REFER :

すでにある画面・帳票定義体を参照して作成することを示します．参照するファイル名を指定します．

- 更新の場合

```
FORM  -UPDATEMED  更新ファイル名
```

-UPDATEMED :

更新を示します．更新対象の画面・帳票定義体のファイル名を指定します．

- 表示（読み取り専用）の場合

```
FORM  -BROWSEMED  表示ファイル名
```

-BROWSEMED :

表示を示します．表示対象の画面・帳票定義体のファイル名を指定します．

- 標準説明書生成の場合

```
FORM  -GENERATEMED  対象ファイル名
```

-GENERATEMED :

標準説明書生成を示します．標準説明書生成の対象の画面・帳票定義体のファイル名を指定します．

3.1.2 画面・帳票定義体の作成

画面・帳票定義体を作成する方法を説明します.

◆ 新しく定義体を作成する場合

操作

1. ［ファイル］メニューから［新規作成］を選択し，サブメニューから作成する定義体の種類を指定します.
   ⇒指定した定義体の編集画面が表示されます.

◆ すでにある定義体を修正する場合

操作

1. ［ファイル］メニューから［開く］を選択し，サブメニューから修正する定義体を選択します.
   ⇒開くダイアログボックスが表示されます.
2. 修正する定義体のファイル名を選択します.
   ⇒指定した定義体の編集画面が表示されます.

参考

編集画面の［ファイル］メニューには，使用したファイルのリストが表示されています．ファイルのパス名は 40 文字まで表示されます．保存するリストの数は初期値／動作環境情報管理で設定します.

3.1.3 画面・帳票定義体の保存

保存方法には，以下の 2 種類があります.

- 上書き保存
- 名前を付けて保存

■上書き保存

作成中の定義体を同名の定義体に上書きして保存する場合に選択します.

機能

作成中の定義体を上書きして保存します．定義体のファイル名および保存先が指定されていない場合，または読み取り専用ファイルとして開いたファイルを上書き保存した場合は，名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます.

保存時には，作成した画面・帳票定義体の内容が検査されます．定義内容にエラーがない場合は，そのまま保存されます．エラーがある場合は，エラーの種別によって処理が異なります.

定義エラー：

強制保存を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます.「はい」を選択すると保存され，「いいえ」または「キャンセル」を選択すると保存せずに編集画面に戻ります.

警　告：

保存を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます.「はい」を選択すると自動的に警告内容が修正されて保存されます.「いいえ」または「キャンセル」を選択すると保存せずに編集画面に戻ります.

操作

1. ［ファイル］メニューから［上書き保存］コマンドを選択します.
   ⇒作成中の定義体が保存され，編集画面に戻ります.

■名前を付けて保存

作成中の定義体のファイル名および保存先を指定または変更して保存します.

機能

作成中の定義体のファイル名を変名または保存先を変更して保存します．名前を付けて保存ダイアログボックスが表示され，定義体名および保存先パス名を指定して保存します．保存時には定義体の内容が検査されます.

操作

1. ［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］コマンドを選択します.
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます.
2. 定義体名および保存先を指定します.
3. 「保存」を選択します.
   ⇒定義体が保存され，編集画面に戻ります.

図 3.3 名前を付けて保存ダイアログボックス

参考

定義体を修正した後，以下の操作で「名前を付けて保存」または「上書き保存」を行うことができます.

- ［ファイル］メニューから［新規作成］コマンドを選択する
- ［ファイル］メニューから［開く］コマンドを選択する
- ［ファイル］メニューから［閉じる］コマンドを選択する
- ［ファイル］メニューから［FORM の終了］コマンドを選択する

3.1.4 FORM の終了

FORM を終了する方法を以下に説明します.

操作

1. ［ファイル］メニューから［FORM の終了］コマンドを選択します.
2. ⇒ FORM が終了します.

3.2 定義画面の種類

■基本画面

FORM が画面・帳票定義体を作成，修正，または表示する画面を基本画面と呼びます．

タイトルバー：

現在処理中のファイル属性（画面または帳票）とファイル名が表示されます．

メニューバー：

画面定義体および帳票定義体を設計する際のコマンドが，9 つのメニューに分類されています．メニューバーからいずれかのメニューを選択すると，さらにそのメニューの下にコマンドの一覧が表示されます．

状態表示域：

画面名，機能名（更新など），定義体形式などが表示されます．

基本画面表示域：

画面・帳票定義体の情報を設定する領域です．設定する情報によって，編集画面，項目群一覧，選択群一覧，レコード定義，振分け手順定義，およびメニュー定義の 6 種類があります．

インディケータ行：

操作に関連する指示，実行状態のメッセージ，単一選択時の英数字項目名が表示されます．帳票定義体の場合は，グリッドの有無，グリッド単位も表示されます．

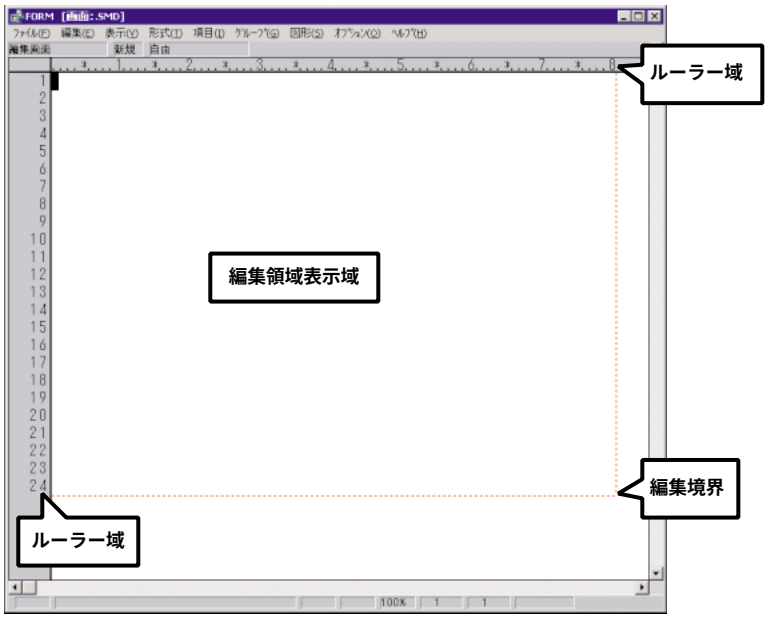
ウィンドウのサイズを小さくしすぎると，コマンドの選択などの処理ができなくなります．ウィンドウは以下のサイズで使用してください．

基本画面表示域の行数	≧	6
基本画面表示域の桁数	≧	30

ただし，編集画面の場合は，指定したフォントによって値が異なります．

■編集画面

画面・帳票定義体を実イメージに近い形で項目，罫線，および網がけを設定する画面です．画面・帳票定義体を作成するときに，主となる画面となります．



ルーラー域：

表示される編集領域の行／桁位置が表示されます．なお，帳票定義体の場合はグリッド単位の指定によってルーラーの目盛が異なります．

編集領域表示域：

設定された項目，罫線，網がけが実際の表示，印刷に近い状態で表示されます．

罫線は最大 3276 本，網がけは最大 2730 個まで表示されます．

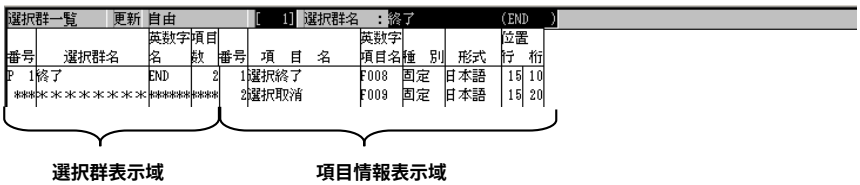
項目を設定できる領域の右端と下端を編集境界といいます．編集境界を超える位置には，項目を設定することはできません．

■項目群一覧画面

利用者プログラムで複数項目を一度に入力／出力処理を行うグループ（項目群）を設定する画面です.

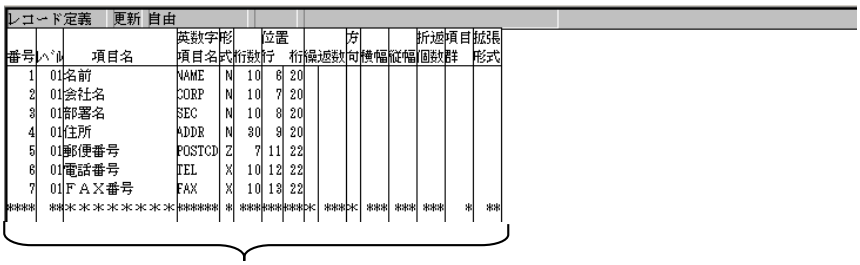
■選択群一覧画面

画面定義体で，項目を選択して処理を行う場合に選択条件を設定したり，ボタンの形を設定する画面です.



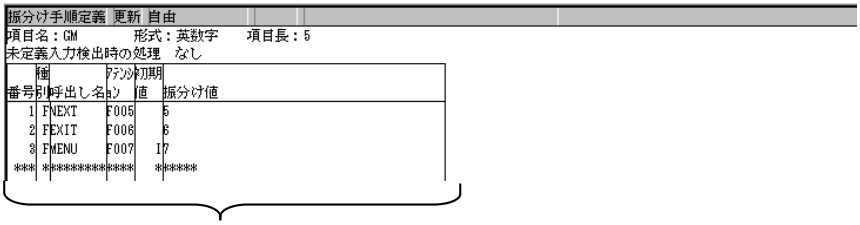
■レコード定義画面

画面・帳票定義体と利用者プログラムの間で入出力データの受け渡しを行うレコード領域を設定する画面です.



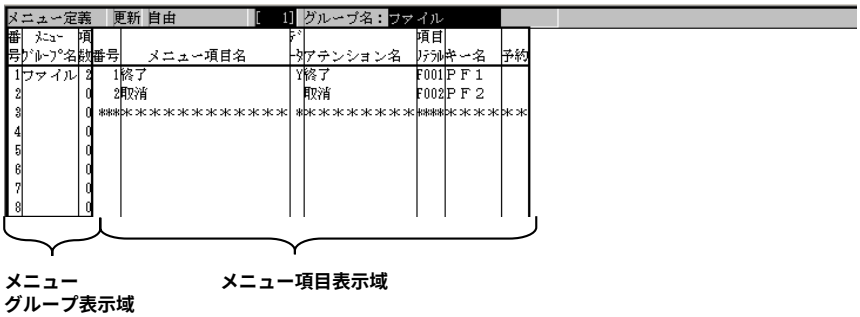
■振分け手順定義画面

実行時に表示する画面定義体への入力に対して，次にどのような処理を行うかを設定する画面です.



■メニュー定義画面

画面定義体のメニューを設定する画面です.



■基本画面表示域の切替え方法

基本画面の変更は，どの画面が表示中でも［表示］メニューの［編集画面へ戻る］，［項目群一覧へ］，［レコード定義へ］，［振分け手順定義へ］，［メニュー定義へ］，または［選択群一覧へ］の各コマンドを選択することによって切替えることができます.

操作

編集画面から項目群一覧画面に切替える操作を以下に示します.

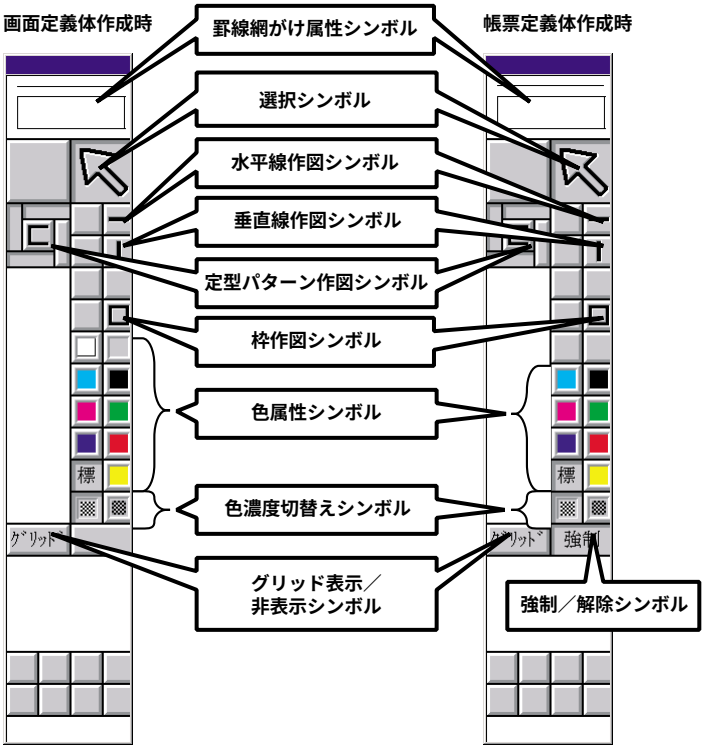
1. ［表示］メニューから［項目群一覧へ］コマンドを選択します.

⇒項目群一覧画面が表示されます.

3.3 シンボルメニューの使い方

編集画面の左側にシンボルメニューが表示されます．シンボルメニューは，メニューからコマンドを選択することなしに，罫線や網がけを作図したり属性を変更したりすることができます．

■シンボルメニュー



- 罫線網がけ属性シンボル

  現在設定されている罫線の太さや網がけの濃さなどの属性を表示します．このシンボルを選択すると，罫線や網がけの属性を変更することができます．

- 選択シンボル

  罫線や網がけの作図を行うとき以外は，このシンボルを選択しておきます．画面・帳票定義体を作成するときの基本状態になります．

- 水平線作図シンボル／垂直線作図シンボル

  それぞれ水平線，垂直線を作図するときに選択します．

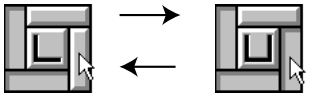
- 枠作図シンボル

  枠罫線または網がけを作図するときに選択します．

- 定型パターン作図シンボル

  定型パターンを作図するときに選択します．定型パターンとは，コの字型や L 字型のような，枠罫線の辺を組み合わせた罫線です．

  このシンボルの周りのボタンをクリックすると，辺の表示／非表示が切替わります．



- 色属性シンボル

  図形や項目の色を設定／変更するときに使います．

- 色濃度切替えシンボル

  色の濃度（濃い，標準）を切替えます．「色拡張あり」が指定されている画面定義体作成時に選択できます．

- グリッド表示／非表示シンボル

  編集画面にグリッドを表示するかしないかを切替えます．グリッドを表示すると，画面・帳票定義体上の位置決めをするための目安にすることができます．

- 強制／解除シンボル

  帳票定義体作成時，処理対象の図形および文字の設定位置を強制的に位置決めするかしないかを切替えます．

参考

シンボルメニューは，［表示］メニューから［シンボルメニュー］コマンドを選択して，シンボルメニューの表示／非表示を切替えることができます．

3.4 カーソル操作

カーソルの種類と移動の方法を説明します．

■カーソルの種類

カーソルには，以下の 2 種類があります．

マウスポインタ：

処理対象選択，メニューの選択，画面スクロールなどの画面操作を行えます．マウスポインタは画面全体を移動できます．

帳票定義体の編集画面のカーソル移動は，グリッドの強制の有無にかかわらず強制幅となります．画面定義体では 1 行 1 桁で移動します．

罫線／網がけの作図状態では，矢印（↖）からクロスポインタ（＋）に変わります．

ローカルカーソル：

入力可能な領域では，ローカルカーソルの位置から文字を入力できます．ローカルカーソルは FORM のウィンドウ内だけを移動できます．

■カーソルの操作

ローカルカーソルの操作は次のようになります.

使用するキー	キーを押した後のローカルカーソルの位置
【↑】(注)	1 行上に移動します.
【↓】(注)	1 行下に移動します.
【←】(注)	1 桁左に移動します.
【→】(注)	1 桁右に移動します.
【PAGE UP】	1 画面分上に移動します.
【PAGE DOWN】	1 画面分下に移動します.
【CTRL】と【PAGE UP】	1 画面分左に移動します.
【CTRL】と【PAGE DOWN】	1 画面分右に移動します.
【HOME】	カーソルが位置付いている行の左端に移動します.
【END】	カーソルが位置付いている行の右端に移動します.
【CTRL】と【HOME】	定義体の先頭に移動します.
【CTRL】と【END】	定義体の最後に移動します.
【TAB】	左上から昇順に，次の項目または入力欄に移動します．右下端からは左上端に移動します.
【SHIFT】と【TAB】	【TAB】と逆方向に移動します.
【BS】	編集画面では，1 桁左に移動します．入力欄では，カーソル位置の左の文字を削除して，1 桁左に移動します.
テンキー上の【Enter(+ 入力)】	入力欄のカーソル以降を消去して，【TAB】と同様に移動します．項目群一覧画面，選択群一覧画面，レコード定義画面，振分け手順定義画面，およびメニュー定義画面で使用できます.
【DEL】	カーソルが位置付いている 1 文字を削除します.

注)　グリッド単位が“行桁”の場合は，行情報に従って移動します.
グリッド単位が“インチ”または“ミリ”の場合は，強制幅に従って移動します.

■ジャンプ（指定位置への移動）

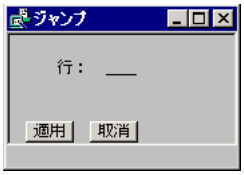
ローカルカーソルの移動先を任意に指定することができます.

操作

1. ［編集］メニューから［ジャンプ］コマンドを選択します.
⇒ジャンプダイアログボックスが表示されます.

－ 編集画面

－ 編集画面以外の画面



2. 行先を指定して「適用」を選択します.
⇒指定した位置にローカルカーソルが移動します.

■先頭行への移動

操作

1. ［編集］メニューから［先頭］コマンドを選択します.
⇒ 1 行目の同一桁にローカルカーソルが移動します.

■最終行への移動

操作

1. ［編集］メニューから［最後］コマンドを選択します.
⇒最終行の同一桁にローカルカーソルが移動します.

■カーソルの自動脱出

入力欄の右端に文字を入力すると，次の入力欄にカーソルが自動的に移動します．項目群一覧，選択群一覧，レコード定義画面，振分け手順定義画面，メニュー定義画面，およびダイアログボックスで行われます.

3.5 編集画面表示状態の変更方法

編集画面では，画面・帳票定義体を作成しやすいように表示状態を変更することができます.

3.5.1 行情報（帳票定義体）

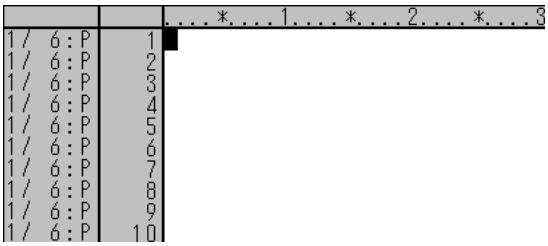
行情報表示域は，帳票定義体の自由形式，伝票形式の場合，行間隔，文字間隔を変更したときにその設定内容を表示する領域です.

操作

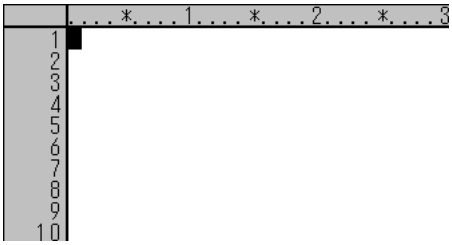
1. ［表示］メニューから［行情報］コマンドを選択します.

⇒行情報表示域の表示／解除が切替わります.

－　行情報表示



－　行情報解除



3.5.2　区画情報表示（帳票定義体）

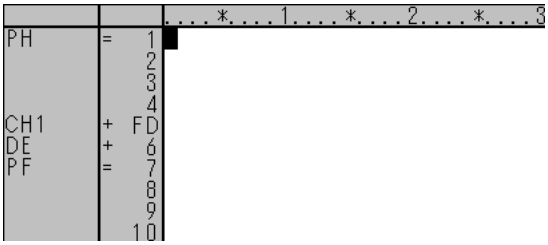
区画情報表示域は，帳票定義体の集計表パーティション形式，自由パーティション形式の場合，各パーティションの区画情報（英数字項目群名）を表示する領域です.

操作

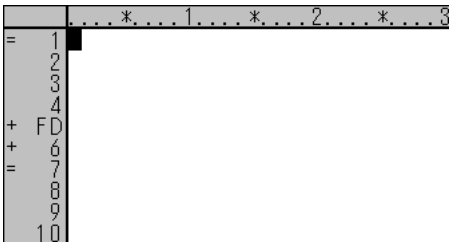
1. ［表示］メニューから［区画情報］コマンドを選択します.

⇒区画情報表示域の表示／解除が切替わります.

－　区画情報表示



－　区画情報解除



3.5.3 ルーラー

ルーラーは行と桁があり，それぞれ編集画面表示域の左端，上端に表示されます．ルーラーには行桁の値が表示されます．

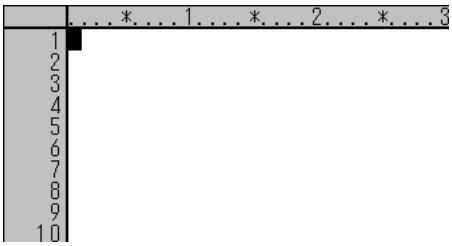
ルーラーの単位はグリッド単位に従います．ルーラー上のカーソル位置反転は行われません．

操作

1. ［表示］メニューから［ルーラー］コマンドを選択します．

⇒ルーラー域および状態表示域の表示／非表示が切替わります．

－ ルーラー表示



－ ルーラー非表示

3.5.4 ズーム

編集画面は，大きさを変更できます．5 種類の中から，帳票を作成しやすい大きさを選択します．

編集画面の大きさを変更した場合，シンボルメニューでは，罫線網がけ属性シンボルおよび文字スタイル表示域の大きさが変更されます．

- 200%表示
- 150%表示
- 標準 (100%) 表示
- 75%表示
- 30%表示

操作

1. ［表示］メニューから［ズーム］コマンドを選択し，サブメニューから［○○%表示］コマンドを選択します．

⇒画面の大きさが変更されます．

注意

30%表示を指定した場合，行／桁ルーラー，行情報表示域，および区画情報表示域の内容は表示されません．

3.5.5 グリッド

グリッドとは，編集画面に表示される格子模様です．定義体上の位置決めをするための目安になります．

また，グリッドの間隔に応じて強制幅を設定して，項目の作成／移動を正確に行うことができます．

画面定義体の場合，グリッドの表示／非表示の切替えができます．

帳票定義体の場合，グリッドの表示／非表示および強制／解除の切替えに加えて，グリッド単位，グリッドサイズ，および強制幅を設定できます．

グリッドに関する設定は，グリッドダイアログボックスで行います．グリッドダイアログボックスは，［表示］メニューから［グリッド］コマンドを選択すると表示されます．

図 3.4 グリッドダイアログボックス

■グリッド単位

グリッドの単位を指定します．“行桁”，“インチ”，“ミリ”があります．

■グリッドサイズ

グリッドを表示する間隔を指定します．それぞれに対して設定できるサイズを以下に示します．

	グリッド単位		
	行桁単位の場合	インチ単位の場合	ミリ単位の場合
縦サイズ	1，2，3，4	12，10，8，6	5，10，15，20
横サイズ	1，2，3，4，5，6，7，8	15，12，10，8，20/3，6，5，4	5，10，15，20

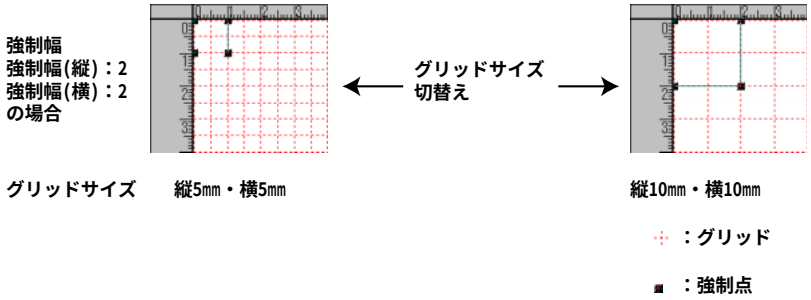
■強制幅

強制とは，処理対象の図形および文字の設定位置を強制的に位置決めすることです．

この強制する幅を強制幅といいます．強制幅は，現在表示されているグリッドサイズを基準として，以下の値を指定します．

	グリッド単位	
	行桁，インチ単位の場合	ミリ単位の場合
縦幅	1／2，1，2，3，4	1／2，1，2，3，1／5
横幅	1／2，1，2，3，4	1／2，1，2，3，1／5

設定例



強制幅を「1」にすると，グリッド単位で強制されます．また，作図／移動に微調整が必要な場合は強制を解除してください．

■操作方法

◆ グリッドサイズ／強制幅を設定または変更する場合

操作

1. ［表示］メニューから［グリッド］コマンドを選択します．
   ⇒グリッドダイアログボックスが表示されます．
2. グリッドサイズや強制幅を設定します．
3. 「適用」を選択します．
   ⇒グリッドサイズに指定したグリッドが表示されます．

◆ グリッドの表示／非表示を切替える場合

操作

1. シンボルメニューのグリッド表示／非表示シンボルを選択します．
   ⇒グリッドが表示されていない場合はグリッドが表示され，グリッドが表示されている場合は非表示になります．

◆ 強制／解除を切替える場合

操作

1. シンボルメニューの強制／解除シンボルを選択します.
   ⇒強制されていない場合は強制され，強制されている場合は解除されます.

参考

画面定義体設計時は，1 行 1 桁単位のグリッドを表示できます．なお，グリッドの表示／非表示を切替える場合は，シンボルメニューからだけ行えます.

第 4 章　FORM の機能を知ろう

ここでは，FORM で使用する機能について理解できます.

- 画面定義体に定義できる機能
- 帳票定義体に定義できる機能
- 定義体パターン（定義体形式）
  - 自由形式
  - 伝票形式
  - 自由パーティション形式
  - 集計表パーティション形式
- 画面・帳票定義体と利用者プログラムの間のレコード領域

目次

4.1 画面定義体に定義できる機能 70
4.2 帳票定義体に定義できる機能 75
4.3 画面／帳票の種類 ～定義体形式～ 80
4.4 レコード領域を知る ～レコード定義～ 96

参照

『FORM ヘルプ』

- 概要
- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
  　操作ガイドーレコード定義

4.1 画面定義体に定義できる機能

4.1.1 全般情報

■名前

画面定義体のファイル名です．利用者プログラムで画面定義体を利用するときの名前です．

■プロパティ

定義体名：

画面定義体で設定した項目のレコードの総称名です．

定義体情報：

画面定義体作成時の情報と作成した画面定義体を実行するときの情報です．定義体情報には，以下のものがあります．

- 定義体サイズ（縦幅，横幅）
- 項目制御部
- コード情報
- 小数点および区切り文字
- 常　駐
- アトリビュート文字
- 色拡張
- 画面背景色
- 罫線網がけ情報
- カーソル移動順序設定
- 保存サイズ拡張

入力処理：

入力可能な項目の表示方法です．

エラー処理：

エラー発生時の項目の表示方法と処理方法です．

選択処理：

項目を選択して，利用者プログラムに項目の情報を通知する処理を行うかどうかの情報です．また，選択処理を行う場合の属性の情報です．

画面ヘルプ：

操作を助ける説明などを画面に表示する情報です．

4.1.2 設定できる項目

以下の項目が設定できます．

- 数字項目
- 英数字項目
- 日本語項目
- 混在項目

- 固定リテラル項目
- キーマット英数字項目，キーマット日本語項目
- 組込みメディア項目

■項目プロパティ

項目ごとに設定できる属性として以下の属性があります.

◆ 画面に出力するときの装飾属性

縦幅指定：

矩形の項目を設定（英数字項目，日本語項目，および混在項目）します.

色（項目色）：

色，反転，輝度，点滅を指定できます.

項目背景色：

項目の背景色を指定できます.

文字の大きさ（文字編集，日本語編集）：

全角，平体，長体，倍角，半角を指定します.

初期値：

最初に出力するデータを設定します.

編集形式：

¥記号，符号，桁区切り記号などを付けた数字項目を指定します.

◆ 画面に入力するときの属性

自動入力：

最終桁にデータを入力すると入力が終了したことを示します.

脱出要求：

最終桁にデータを入力しても，カーソルが次の項目に移動しないように設定します.

右詰め入力：

入力した数字項目を右側から表示します.

入力時編集：

数字項目の編集形式に合わせてデータを表示します.

シフト状態：

項目の入力モードの初期状態を設定します.

◆ 入力項目のチェック属性

必須入力：

1 文字のデータが入力されているかどうかを検査します.

全桁入力：

全桁分のデータが入力されているかどうかを検査します.

日本語検査：

入力した日本語項目が正しいかどうかを検査します.

数字検査：

入力した数字項目が正しいかどうかを検査します.

入力値検査：

最小けた数，有効値，下限値，上限値について検査します.

◆ 入力が省略されたときの属性

省略埋込み：

データが省略されたときに，レコード領域に通知するデータを設定します.

◆ メッセージなどを表示する属性

メッセージ表示：

メッセージなど常に表示したい項目を設定します.

◆ 項目を選択すると利用者プログラムに通知する属性

選択属性：

項目を選択した後の処置（選択のみ，入力が終了する）の属性を設定します.

項目ヘルプ：

項目に対してヘルプ情報を設定します.

4.1.3 罫線／網がけ

罫線／網がけの属性として項目罫線と線画罫線があります．それぞれの設定できる罫線／網がけを以下に示します.

項目罫線：

垂直線，水平線（上，下），枠，定型パターン

実線，点線

線画罫線：

垂直線，水平線（下），枠，定型パターン

線幅（細線，標準線）

線種（実線，点線，破線，一点鎖線）

罫線色

網がけパターン

網がけ色

枠線表示（網がけに枠線を付けるかどうかを指定）

4.1.4 項目群

利用者プログラムの入力または出力処理を複数の項目単位で行うグループを設定します．また，画面上のカーソル移動順序が設定できます.

4.1.5 定義体形式

自由形式，伝票形式が設定できます．

参照 “4.4 レコード領域を知る ～レコード定義～”

4.1.6 アテンション情報／メニュー定義

実行時に画面の制御を行うために利用者プログラムに通知される情報です．

アテンション情報：

キーボードのファンクションキーを押して画面の制御を行う場合の情報です．

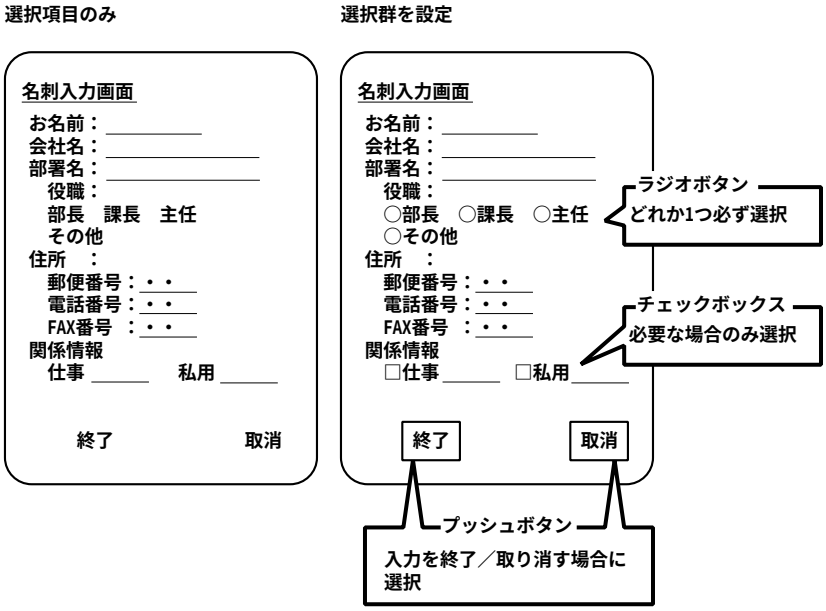
メニュー定義：

メニューを選択することによって画面の制御を行う場合の情報です．

4.1.7 項目選択

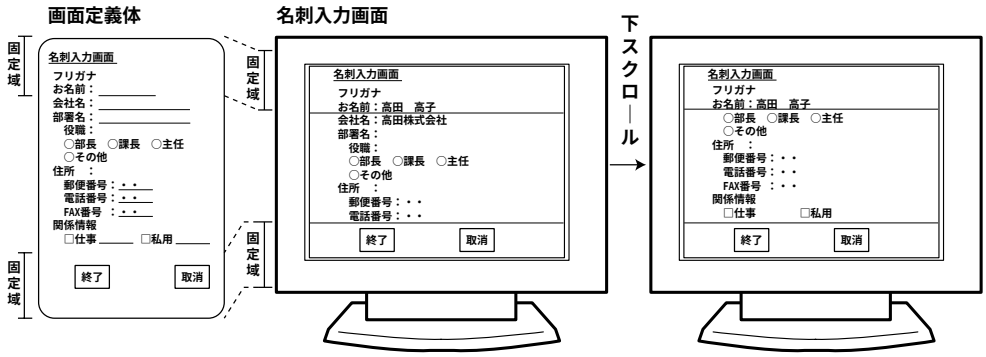
項目を選択するには，項目に選択属性を設定します（選択属性を設定した項目を選択項目と呼びます）．

選択項目をグループ化して選択条件やボタンの形に表示したりする場合は，選択群を設定します．



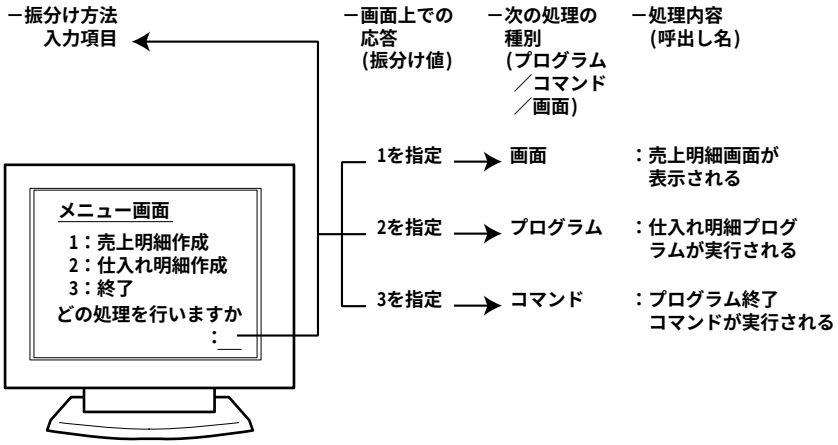
4.1.8 画面分割してスクロールする ～分割スクロール～

画面を分割してスクロールする画面を設定できます.



4.1.9 画面制御の定義 ～振分け手順～

実行時に表示する画面定義体への入力に対して，次にどのような処理を行うかを設定できます.



参照

『FORM ヘルプ』

- 概要
  └画面定義体の定義
- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
  操作ガイドー項目群一覧
  操作ガイドー振分け手順
  操作ガイドーメニュー定義
  操作ガイドー選択群

4.2 帳票定義体に定義できる機能

4.2.1 全般情報

■名前

帳票定義体のファイル名です．利用者プログラムで帳票定義体を利用するときの名前です．

■プロパティ

定義体名：

帳票定義体で設定した項目のレコードの総称名です．

定義体情報：

帳票定義体作成時の情報と作成した帳票定義体を実行するときの情報です．

- 定義体サイズ（縦幅，横幅）
- 項目制御部
- コード情報
- 小数点および区切り文字
- 常駐
- 座標単位
- 保存サイズ拡張

印刷用紙：

印刷する用紙の情報です．Ａ３，Ａ４，Ａ５，Ａ６，Ｂ４，Ｂ５，レター，自由，指定なし，を指定できます．

印刷方向：

印刷する用紙の方向，給紙方法，排出方法の情報です．

印刷制御：

連帳用紙に特殊連帳用紙の設定，プリンタ装置に用紙がなくなった場合の制御方法の情報です．

4.2.2 設定できる項目

以下の項目が設定できます．

- 数字項目
- 英数字項目
- 日本語項目
- 混在項目
- 固定リテラル項目
- バーコード項目
- 郵便番号項目
- 改ざん防止項目
- ID 数字項目，ID 英数字項目

- 組込みメディア項目

■項目プロパティ

項目ごとに設定できる帳票の装飾属性として以下の属性があります.

色：

色を指定できます.

編集形式：

￥記号，符号，桁区切り記号などを付けた数字項目が指定可能

改ページ：

データを印字後改ページする属性

集団印刷：

前のレコードと同じデータが印字される場合は印字しない属性

OCR-B フォント：

OCR-B フォント文字で印字する属性

和文編集／欧文編集（数字，英数字，日本語，混在，固定リテラルの文字属性）：

- 文字サイズ／ピッチ（標準（2.0），任意，12 ポ，9 ポ，7 ポ，1.5）
- 拡大（標準，平体，長体，倍角，3 ＊ 3，3 ＊ 6，4 ＊ 4，4 ＊ 8，6 ＊ 6，6 ＊ 12，8 ＊ 8，8 ＊ 16，12 ＊ 12，16 ＊ 16）
- 縮小（標準，半角，上つき，下つき）
- フォント（標準，ゴシック体，斜体，ゴシック＋斜体，フォント番号）
- 飾り文字（標準，白抜き文字，立体文字，白抜き＋立体文字，白抜き＋影付き文字）
- 印字方向（横書き，縦書き）

4.2.3 罫線／網がけ

■罫線

罫線には以下の種類があります.

- 水平線
- 垂直線
- 枠
- 定型パターン（枠罫線の辺を組み合わせた罫線）

罫線属性として以下のものが設定できます.

- 線幅（細線，標準線）
- 線種（実線，点線，破線，一点鎖線）
- 色

■網がけ

網がけ属性として次のものが設定できます.

- 網がけパターン（１～１０）
- 網がけ色

- 枠線表示（網がけに枠線を付けるかどうかの指定）

4.2.4 項目群

利用者プログラムの入力または出力処理を複数の項目単位で行うグループを設定します．

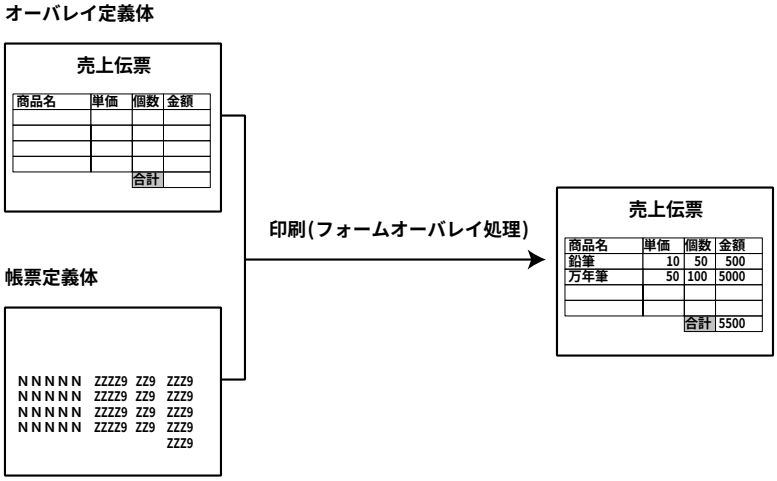
4.2.5 定義体形式

自由形式，伝票形式，自由パーティション形式，集計表パーティション形式が設定できます．

参照 “4.3 画面／帳票の種類 ～定義体形式～”

4.2.6 オーバレイ定義体を重ねた帳票の設定 ～オーバレイ名の指定～

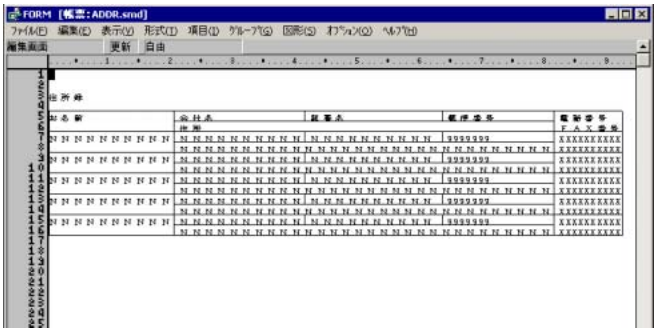
オーバレイ定義体は帳票定義体で設定する罫線／網がけ／文字よりもビジュアルな罫線／網がけ／文字を設定できます．帳票の固定部分（罫線／網がけ／文字）をオーバレイ定義体で設定して，可変部分（商品名など帳票によって印字する値が異なる項目）を帳票定義体で設定します．このオーバレイ定義体と帳票定義体を重ね合わせると，より見やすい帳票を印刷できます．



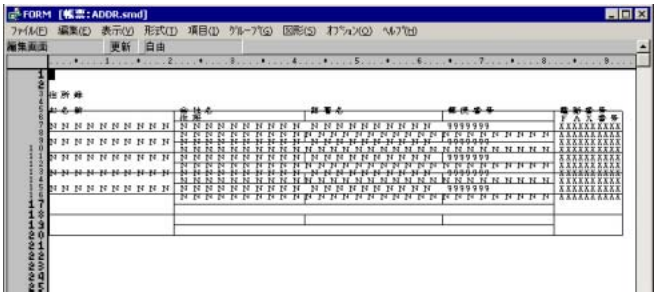
4.2.7 行間隔／文字間隔の変更 ～行情報～

行ごとに改行幅（行ピッチ），文字間隔（印字モード）を変更できます.

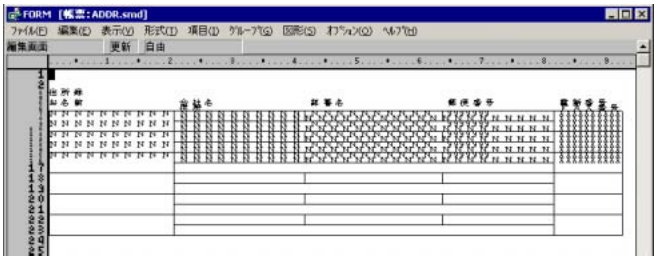
- 行ピッチ
  - 1/6 ピッチ



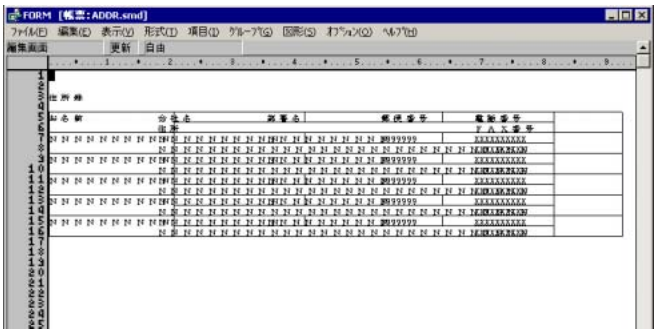
  - 1/8 ピッチ



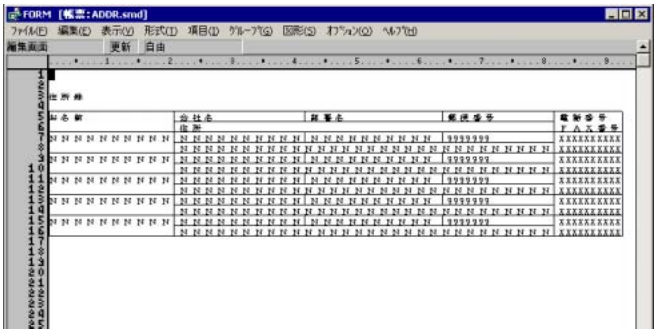
  - 1/12 ピッチ



- 印字モード
  - エリート



  - パイカ



参照

『FORM ヘルプ』

- 概要
  └帳票定義体の定義
- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
  操作ガイドー項目群一覧

4.3　画面／帳票の種類 ～定義体形式～

FORM には，作成したい画面／帳票の形式に合わせて以下の種類があります．

- 自由形式
- 伝票形式
- 自由パーティション形式
- 集計表パーティション形式

これらを総称して定義体形式と呼んでいます．

それぞれの定義体形式には，それぞれの特徴があります．その特徴を理解して，作成する定義体に適した定義体形式を選択してください．

例えば，伝票形式には伝票形式の特徴があります．伝票形式の特徴が作りたい定義体の内容と一致していれば，「伝票」の画面や帳票ではなくても伝票形式を選ぶのが効率的です．最適な定義体形式を選べば画面・帳票定義体をより容易に作成できるのはもちろん，利用者プログラムも効率的に作成できます．

参照

『FORM ヘルプ』

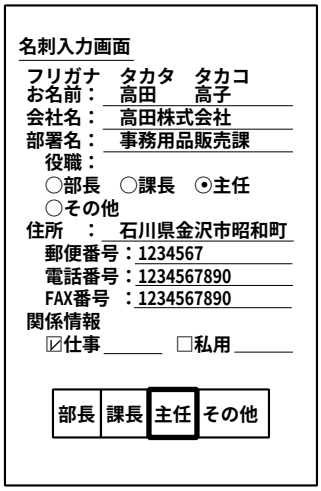
- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
    └定義体形式
  操作ガイドー項目群一覧

4.3.1　自由形式

画面／帳票どちらにも設定できます．

■どのような形式か？

自由に項目を配置できる形式です．



■特徴

- 自由に項目を配置したい場合に便利です．
- 領域の固定された形式です．印刷結果は，帳票定義体の編集画面で項目を配置したとおりになります．

■操作方法

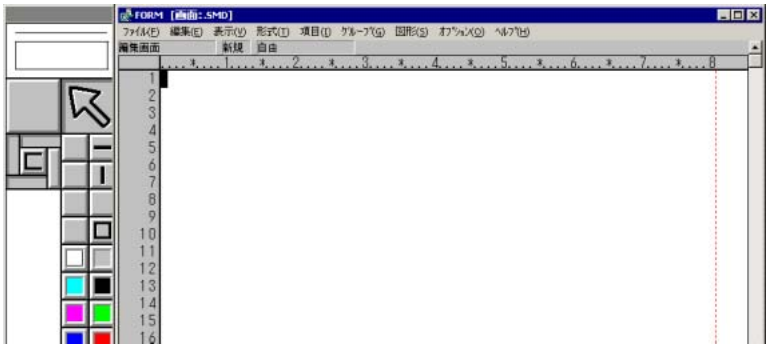
ここでは，自由形式に設定する方法を説明します．

なお，画面／帳票定義体を新規作成した場合は，自由形式に設定されます．

操作

1. ［形式］メニューから［自由］コマンドを選択します．

⇒状態表示域に「自由」と表示されます．



参照

自由形式の画面／帳票定義体を作成する方法

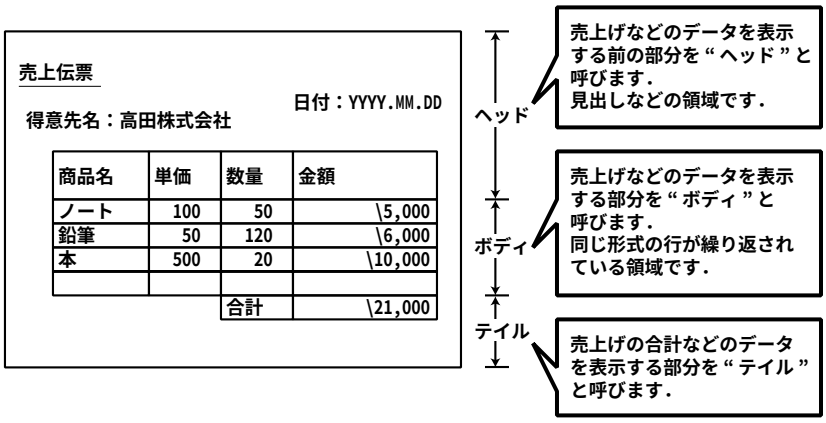
“第 2 章 画面・帳票定義体を作成しよう ～名刺入力画面／住所録帳票～”

4.3.2 伝票形式

画面／帳票のどちらにも設定できます.

■どのような形式か？

伝票を以下のような 3 つの領域に分けて設定する形式です.



■特徴

- ボディの領域は，行単位で下方向に繰り返すことができるので，同じデータを複数設定したい場合に便利です.
- 領域の固定された形式です．印刷結果は，帳票定義体の編集画面で項目を配置したとおりになります．上の図では，ボディの領域を 4 件設定してありますが，印刷するデータが 3 件しかなくてもテイル（合計など）が上につめられることはなく，4 件目は空白のままで印刷されます.

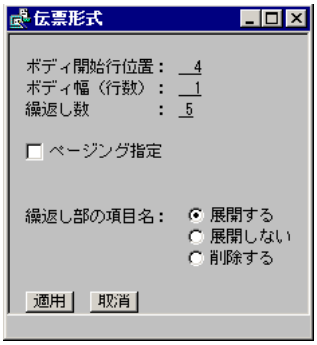
■操作方法

ここでは，伝票形式に設定する方法を説明します.

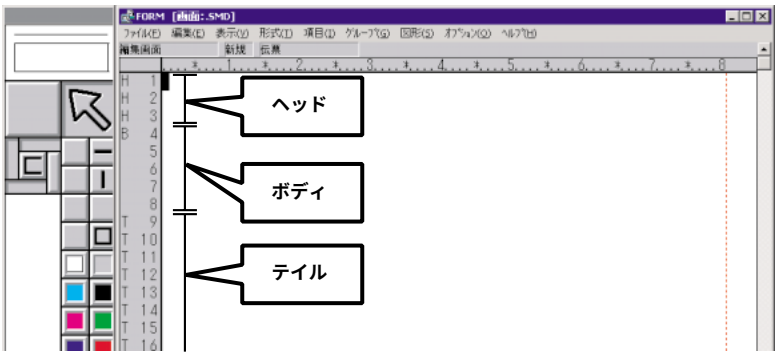
操作

1. ［形式］メニューから［伝票］コマンドを選択します.

⇒伝票形式ダイアログボックスが表示されます.

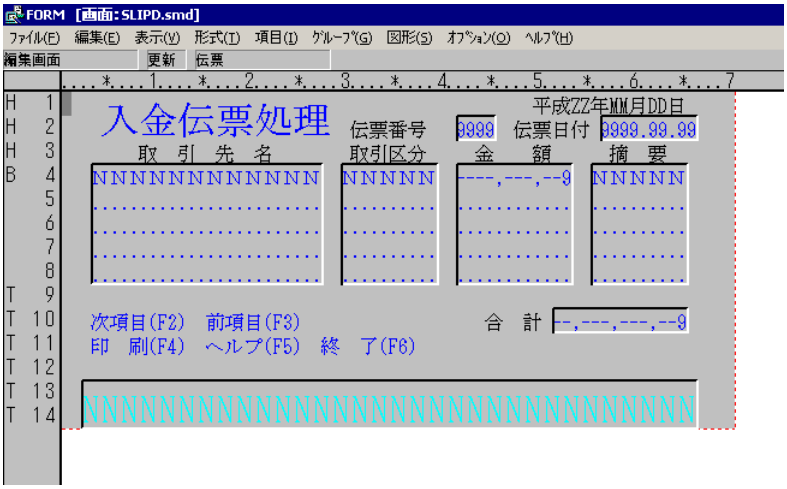


2. 情報を設定して，「適用」を選択します．
⇒状態表示域に「伝票」と表示されます．



◆ 画面定義体の例

以下に，例として FORM の画面定義体サンプル『SLIPD.smd』を表示します．



この画面定義体には，次の情報が設定されています．

- 画面項目説明

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
—	F002	固定	日付け	1	50	平成 ZZ 年 MM 月 DD 日
—	F001	固定	日本語	2	5	入金伝票処理
—	F003	固定	日本語	2	31	伝票番号
—	NUM	入出力	数字	2	42	—
—	F004	固定	日本語	2	48	伝票日付
—	HIZUKE	入出力	数字	2	57	—
—	F006	固定	日本語	3	9	取　引　先　名

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
―	F007	固定	日本語	3	31	取引区分
―	F008	固定	混在	3	44	金　額
―	F009	固定	混在	3	58	摘　要
―	UNAME	入出力	日本語	4	4	―
―	UCODE	入出力	日本語	4	30	―
―	YEN	入出力	数字	4	42	―
―	UNOTE	入出力	日本語	4	56	―
―	F016	固定	混在	10	4	次項目 (F2)
―	F017	固定	混在	10	16	前項目 (F3)
―	F005	固定	混在	10	45	合　計
―	TOTAL	出力	数字	10	52	―
―	F011	固定	混在	11	4	印　刷 (F4)
―	F013	固定	混在	11	16	ヘルプ (F5)
―	F012	固定	混在	11	28	終　了 (F6)
―	MSG	出力	日本語	14	3	―

- アテンション説明

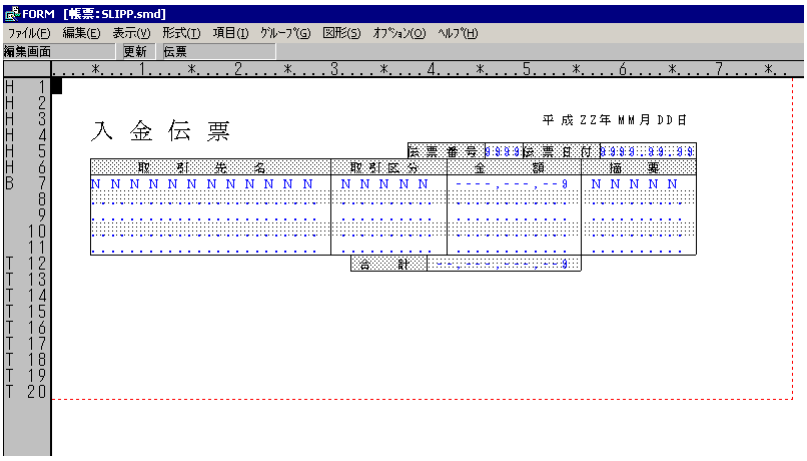
英数字項目名	ファンクションキー	データ	アテンション名	項目リテラル
F016	PF2	有	―	NEXT
F017	PF3	有	―	BACK
F011	PF4	有	―	PRT
F013	PF5	有	―	HLP
F012	PF6	無	―	END

- 選択群説明

英数字項目名	選択属性	データ	アテンション名	項目リテラル	選択群種別
F016	入力終了選択	有	―	NEXT	プッシュボタン
F017	入力終了選択	有	―	BACK	プッシュボタン
F011	入力終了選択	有	―	PRT	プッシュボタン
F013	入力終了選択	有	―	HLP	プッシュボタン
F012	入力終了選択	無	―	END	プッシュボタン

◆ 帳票定義体の例

以下に，例として FORM の画面定義体サンプル『SLIPD.smd』から帳票定義体に参照作成した帳票定義体サンプル『SLIPP.smd』を表示します.



この帳票定義体には，次の情報が設定されています.

- 帳票項目説明

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
—	F002	固定	日付け	3	52	平成 ZZ 年 MM 月 DD 日
—	F001	固定	日本語	4	5	入金伝票
—	F003	固定	日本語	5	38	伝票番号
—	NUM	出力	数字	5	46	—
—	F004	固定	日本語	5	50	伝票日付
—	HIZUKE	出力	数字	5	58	—
—	F006	固定	日本語	6	10	取　引　先　名
—	F007	固定	日本語	6	32	取引区分
—	F008	固定	混在	6	45	金　額
—	F009	固定	混在	6	59	摘　要
—	UNAME	出力	日本語	7	5	—
—	UCODE	出力	日本語	7	31	—
—	YEN	出力	数字	7	43	—
—	UNOTE	出力	日本語	7	57	—
—	F005	固定	混在	12	33	合　計
—	TOTAL	出力	数字	12	41	—

4.3.3 自由パーティション形式

帳票にだけ設定できます.

■どのような形式か？

パーティションとは，利用者プログラムからの命令によって印刷される領域で，項目群を単位にしています．パーティションには，印刷位置が浮動か固定かによって以下の 2 通りがあります.

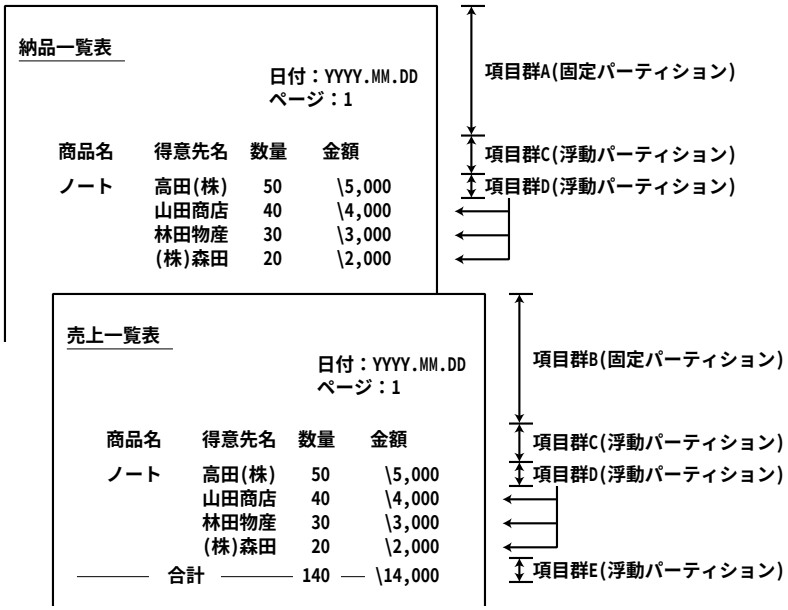
浮動パーティション：

ページ内行位置が利用者プログラムから出力された順番で決まります.

固定パーティション：

行位置が固定です.

利用者プログラムでこれらのパーティションを組み合わせて，いろいろな帳票を印刷することができます.



■特徴

- 印字位置を一定の規則に沿って変更できる形式です．編集画面での項目位置はパーティション内の位置で，印刷結果は利用者プログラムからの指定によって異なります.
- パーティションの印字属性（固定／浮動）を自由に定義できる形式です.

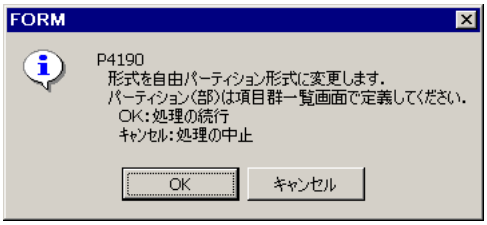
■操作方法

ここでは，自由パーティション形式に設定する方法を説明します.

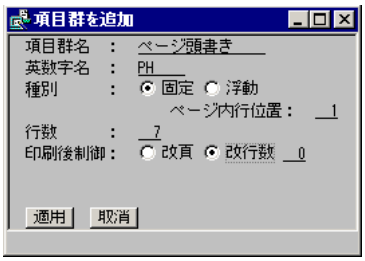
自由パーティション形式では，パーティション単位で処理が行われるため，項目群（処理するグループ）は，パーティションとなります．したがって，パーティションの情報を項目群の情報として設定します.

操作

1. ［形式］メニューから［自由パーティション］コマンドを選択します.
   ⇒ P4190 のメッセージが表示されます.



2. 「OK」を選択します.
   ⇒状態表示域に「自由パーティション」と表示されます.
   編集画面上に項目が設定してある場合，同時にパーティション（固定パーティション）が設定されます.
3. ［グループ］メニューから［項目群を追加］コマンドを選択します.
   ⇒項目群を追加ダイアログボックスが表示されます.
4. 情報を設定して，「適用」を選択します.



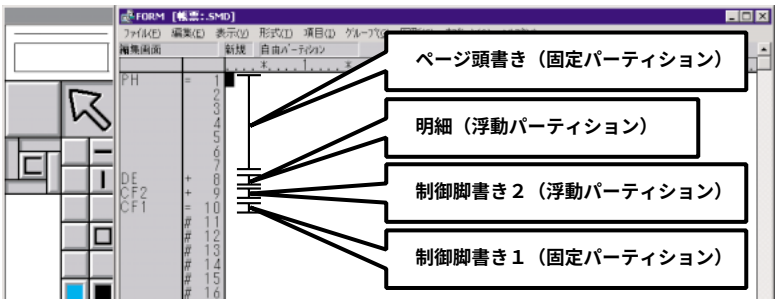
   ⇒ルーラー域および区画情報表示域に英数字名が表示され，構成項目表示の状態になります.

5. 同様に，項目群を追加します.
   ここでは，例として以下のような項目群を追加します.

番号	項目群名	英数字名	種別	ページ内行位置	印刷前改行数	行数	印刷後制御
1	ページ頭書き	PH	固定	1	―	7	改行数 0
2	明細	DE	浮動	―	1	1	改行数 0

番号	項目群名	英数字名	種別	ページ内行位置	印刷前改行数	行数	印刷後制御
3	制御脚書き２	CF2	浮動	―	1	1	改行数 0
4	制御脚書き１	CF1	固定	43	―	1	改頁

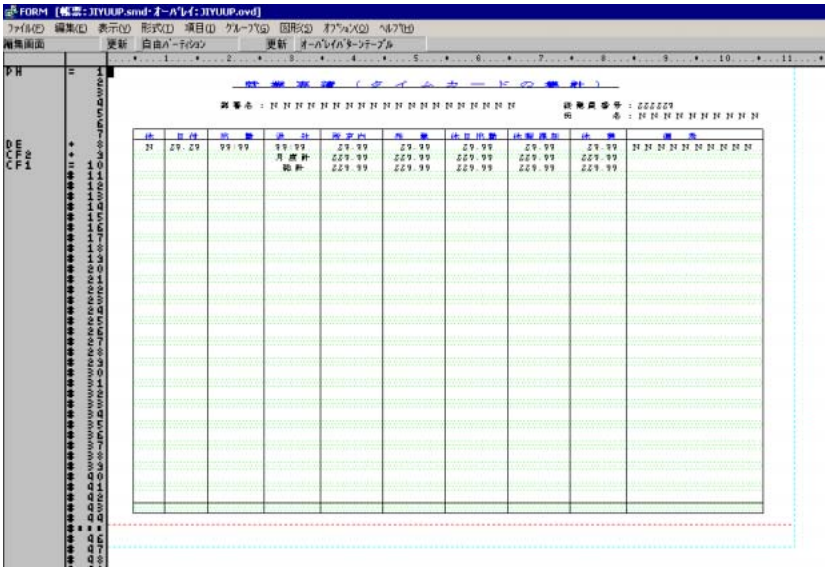
6. ［表示］メニューから［構成項目表示を解除］コマンドを選択します.
⇒構成項目表示の状態が解除されます.



編集画面では，設定順（項目群一覧画面での項目群の順番）で表示されます.
編集画面の行位置は意味を持ちません（固定パーティションであっても，設定した行位置に表示されません）.

◆ 帳票定義体の例

以下に，例として FORM の集計表パーティション形式の帳票定義体サンプル『SHUKEI.smd』を自由パーティション形式に変更した帳票定義体『JIYUUP.smd』を，『JIYUUP.ovd』と重畳して表示します.



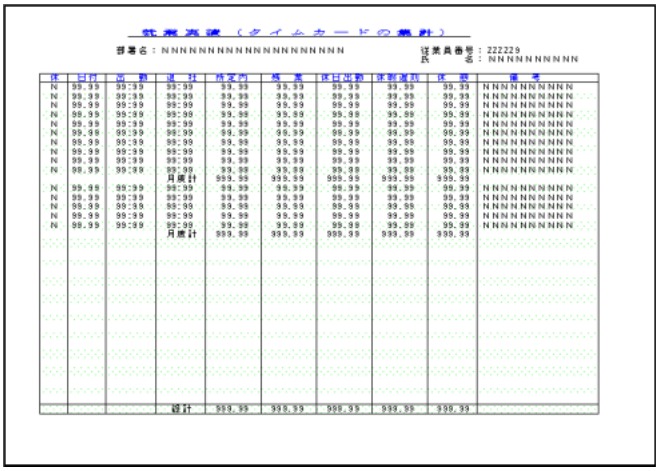
この帳票定義体には，次の情報が設定されています．

- 帳票項目説明

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
見出し００１	F001	固定	日本語	2	23	就業実績（タイムカードの集計）
見出し００２	F002	固定	日本語	4	19	部署名：
部署名	POSNAM	出力	日本語	4	27	―
見出し００３	F003	固定	日本語	4	74	従業員番号：
従業員番号	ENPNO	出力	数字	4	86	―
見出し００４	F004	固定	混在	5	74	氏　　名：
氏名	NAME	出力	日本語	5	86	―
見出し００５	F005	固定	日本語	7	7	休
見出し００６	F006	固定	日本語	7	12	日付
見出し００７	F007	固定	混在	7	19	出　勤
見出し００８	F008	固定	混在	7	28	退　社
見出し００９	F009	固定	日本語	7	37	所定内
見出し０１０	F00A	固定	混在	7	47	残　業
見出し０１１	F00B	固定	日本語	7	56	休日出勤
見出し０１２	F00C	固定	日本語	7	66	休暇遅刻
見出し０１３	F00D	固定	混在	7	77	休　憩
見出し０１４	F00E	固定	混在	7	90	備　考
休み	HOLD	出力	日本語	1	7	―
月	MONTH	出力	数字	1	11	―
見出し０１５	F00F	固定	英数字	1	13	.
日	DAY	出力	数字	1	14	―
出勤時間	GOTMH	出力	数字	1	19	―
見出し０１６	F010	固定	英数字	1	21	:
出勤分	GOTMM	出力	数字	1	22	―
退社時間	CLSTMH	出力	数字	1	28	―
見出し０１７	F011	固定	英数字	1	30	:
退社分	CLSTMM	出力	数字	1	31	―
所定内時間	FIXTM	出力	数字	1	38	―
残業時間	OVRTM	出力	数字	1	48	―
休日出勤時間	HOLTM	出力	数字	1	58	―
休暇遅刻時間	DELTM	出力	数字	1	68	―
休憩時間	RESTM	出力	数字	1	78	―
備考	NOTE	出力	日本語	1	85	―
見出し０１８	F012	固定	日本語	1	28	月度計

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
月所定内	MFIX	出力	数字	1	37	―
月残業	MOVR	出力	数字	1	47	―
月休日出勤	MHOL	出力	数字	1	57	―
月休暇遅刻	MDEL	出力	数字	1	67	―
月休憩	MRES	出力	数字	1	77	―
見出し０１９	F013	固定	日本語	1	29	総計
総所定内	TFIX	出力	数字	1	37	―
総残業	TOVR	出力	数字	1	47	―
総休日出勤	THOL	出力	数字	1	57	―
総休暇遅刻	TDEL	出力	数字	1	67	―
総休憩	TRES	出力	数字	1	77	―

以下に，試験機能を使用した印刷結果の例を示します．



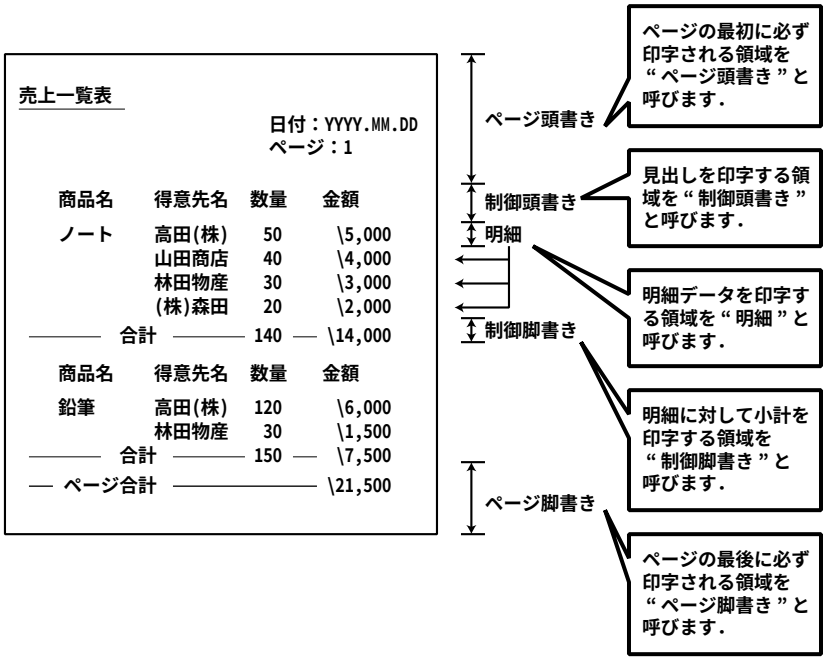
4.3.4 集計表パーティション形式

帳票にだけ設定できます.

■どのような形式か？

パーティションとは，利用者プログラムからの命令によって印刷される領域で，項目群を単位にしています.

集計表パーティション形式では，下の図のように集計表の属性で各パーティションを設定できます.



■特徴

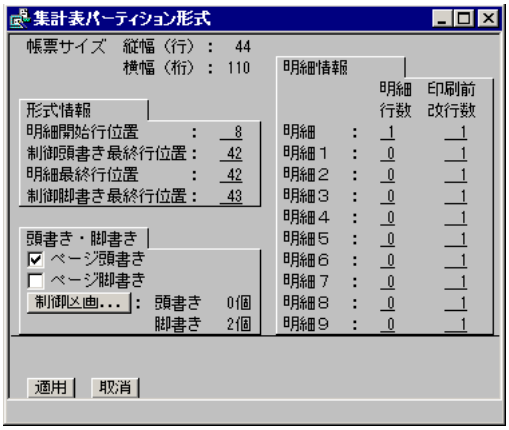
- 一覧表などを印刷するのに適した形式です.
- 各パーティションの属性に従って，印字位置の制御は利用者プログラムで行う必要があります.
- 印字位置が一定の規則に沿って変更できる形式です．編集画面での項目の位置は，パーティション内の位置で，印刷結果は印刷するデータや利用者プログラムからの指定によって異なります.
- 集計表が印刷しやすいように設定された形式のため，各パーティションに設定数（明細は 10 個までなど）などの制限があります.

■操作方法

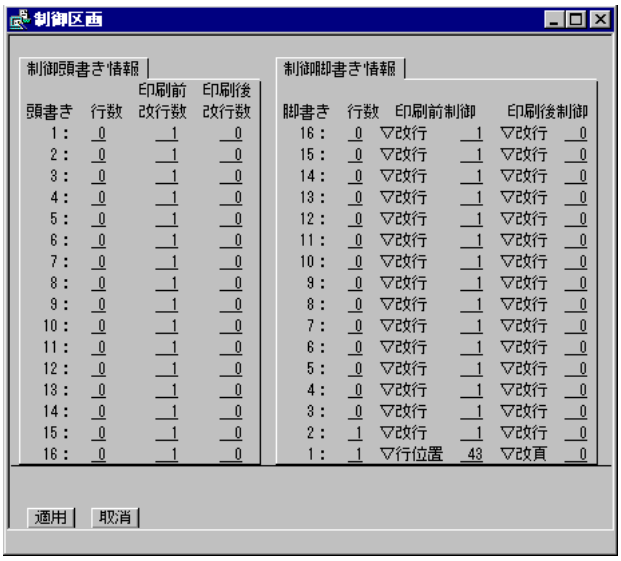
ここでは，集計表パーティション形式に設定する方法を説明します．

操作

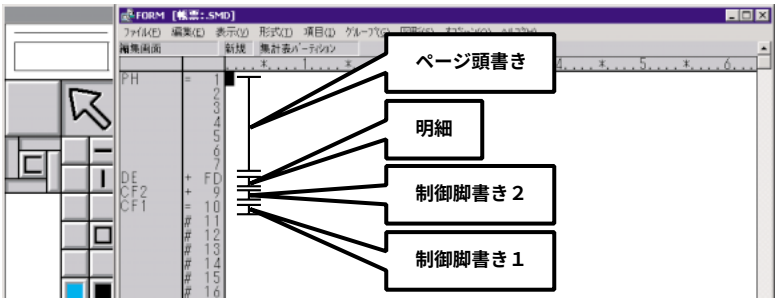
1. ［形式］メニューから［集計表パーティション］コマンドを選択します．
   ⇒集計表パーティション形式ダイアログボックスが表示されます．



2. 情報を設定して，「制御区画」を選択します．
   ⇒制御区画ダイアログボックスが表示されます．

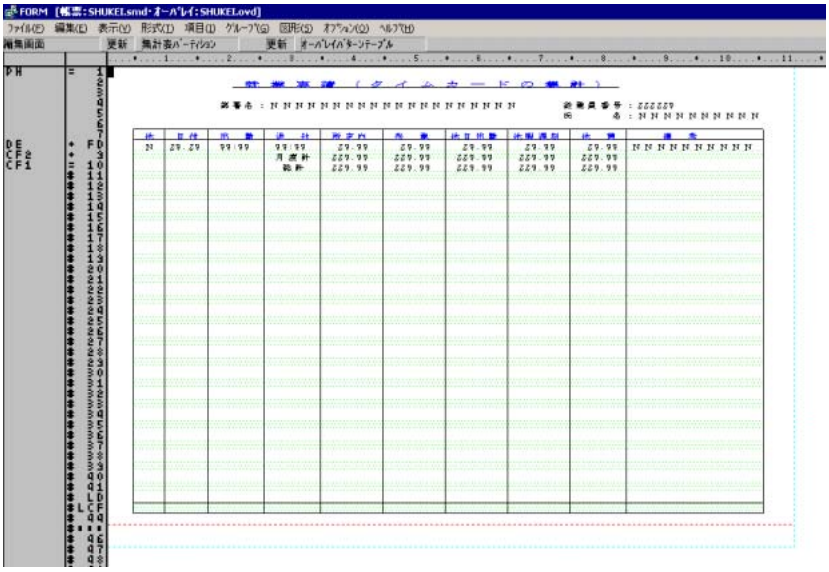


3. 情報を設定して，「適用」を選択します．
   ⇒集計表パーティション形式ダイアログボックスに戻ります．
4. 「適用」を選択します．
   ⇒状態表示域に「集計表パーティション」，ルーラー域および区画情報表示域に英数字名が表示されます．



◆ 帳票定義体の例

以下に，例として FORM の帳票定義体サンプル『SHUKEI.smd』を，『SHUKEI.ovd』と重畳して表示します．



この帳票定義体には，次の情報が設定されています．

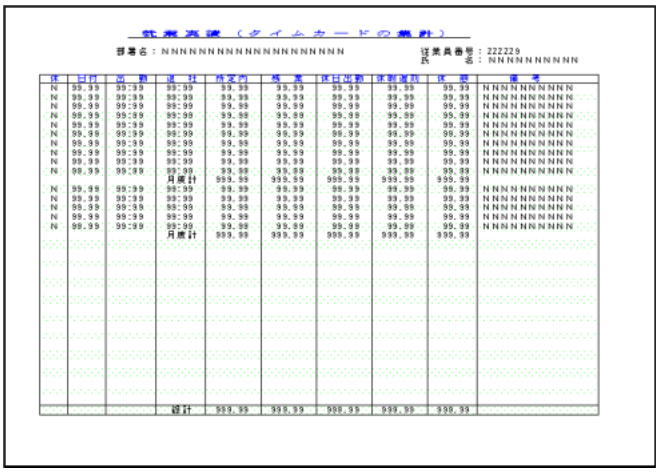
- 帳票項目説明

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
見出し００１	F001	固定	日本語	2	23	就業実績（タイムカードの集計）
見出し００２	F002	固定	日本語	4	19	部署名：
部署名	POSNAM	出力	日本語	4	27	―
見出し００３	F003	固定	日本語	4	74	従業員番号：
従業員番号	ENPNO	出力	数字	4	86	―
見出し００４	F004	固定	混在	5	74	氏　　名：
氏名	NAME	出力	日本語	5	86	―
見出し００５	F005	固定	日本語	7	7	休

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
見出し００６	F006	固定	日本語	7	12	日付
見出し００７	F007	固定	混在	7	19	出　勤
見出し００８	F008	固定	混在	7	28	退　社
見出し００９	F009	固定	日本語	7	37	所定内
見出し０１０	F00A	固定	混在	7	47	残　業
見出し０１１	F00B	固定	日本語	7	56	休日出勤
見出し０１２	F00C	固定	日本語	7	66	休暇遅刻
見出し０１３	F00D	固定	混在	7	77	休　憩
見出し０１４	F00E	固定	混在	7	90	備　考
休み	HOLD	出力	日本語	1	7	―
月	MONTH	出力	数字	1	11	―
見出し０１５	F00F	固定	英数字	1	13	.
日	DAY	出力	数字	1	14	―
出勤時間	GOTMH	出力	数字	1	19	―
見出し０１６	F010	固定	英数字	1	21	:
出勤分	GOTMM	出力	数字	1	22	―
退社時間	CLSTMH	出力	数字	1	28	―
見出し０１７	F011	固定	英数字	1	30	:
退社分	CLSTMM	出力	数字	1	31	―
所定内時間	FIXTM	出力	数字	1	38	―
残業時間	OVRTM	出力	数字	1	48	―
休日出勤時間	HOLTM	出力	数字	1	58	―
休暇遅刻時間	DELTM	出力	数字	1	68	―
休憩時間	RESTM	出力	数字	1	78	―
備考	NOTE	出力	日本語	1	85	―
見出し０１８	F012	固定	日本語	1	28	月度計
月所定内	MFIX	出力	数字	1	37	―
月残業	MOVR	出力	数字	1	47	―
月休日出勤	MHOL	出力	数字	1	57	―
月休暇遅刻	MDEL	出力	数字	1	67	―
月休憩	MRES	出力	数字	1	77	―
見出し０１９	F013	固定	日本語	1	29	総計
総所定内	TFIX	出力	数字	1	37	―
総残業	TOVR	出力	数字	1	47	―
総休日出勤	THOL	出力	数字	1	57	―
総休暇遅刻	TDEL	出力	数字	1	67	―

項目名	英数字項目名	種別	形式	位置		固定リテラル
				行	桁	
総休憩	TRES	出力	数字	1	77	―

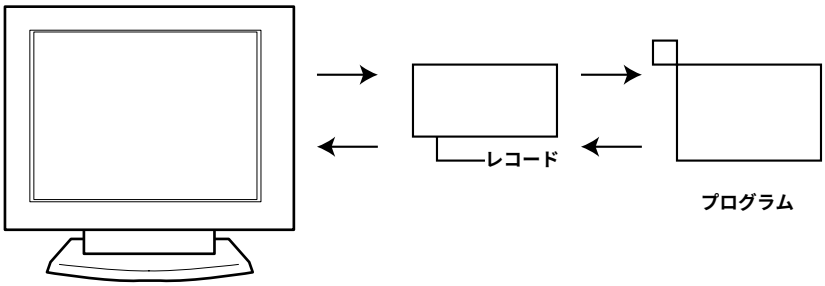
以下に，試験機能を使用した印刷結果の例を示します．



4.4　レコード領域を知る ～レコード定義～

■ レコードとは

画面・帳票定義体と利用者プログラムの間で項目の入出力データの受け渡しを行うための領域です.



レコード定義を行わない場合，レコード定義は項目の行桁位置（帳票定義体では縦横位置）の順で自動的に定義されています.

以下のような場合に，レコード定義を行います.

- 複数の画面・帳票定義体で，共通の項目とそれぞれ異なる項目を分けたレコード位置にする.
- 複数の項目をまとめて処理する場合（集団項目を設定する）
- 項目を繰り返して設定する場合（繰返し項目を設定する）

参照

『FORM ヘルプ』

- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドーレコード定義

第 5 章　定義体の動作イメージを確認する（試験）

作成した画面・帳票定義体を利用者プログラムを作成しなくても，MeFt を利用して擬似的に動作させて実行時のイメージを確認することができます.

動作させる定義体は，定義エラーがない完成した画面・帳票定義体でなければなりません.

目次

5.1 試験でできること 98
5.2 試験の各機能と FORM，MeFt との関係 99
5.3 試験の画面 102

参照

『FORM ヘルプ』

- 試験（FORMTRY）

5.1　試験でできること

■画面・帳票定義体の試験機能

入力処理：

- 通常入力
- 全画面消去入力
- 非消去入力
- アラーム入力

出力処理：

- 通常出力
- 全画面消去出力
- 行移動出力
- パーティション出力

端末制御：

- ブザー鳴動
- ウィンドウ移動／サイズ変更
- プリンタ制御－改頁

処理単位：

- 項目単位
- 項目群単位
- 全項目

なお，試験は，ウィンドウ情報ファイル，プリンタ情報ファイルに従って試験することができます.

■データの自動生成

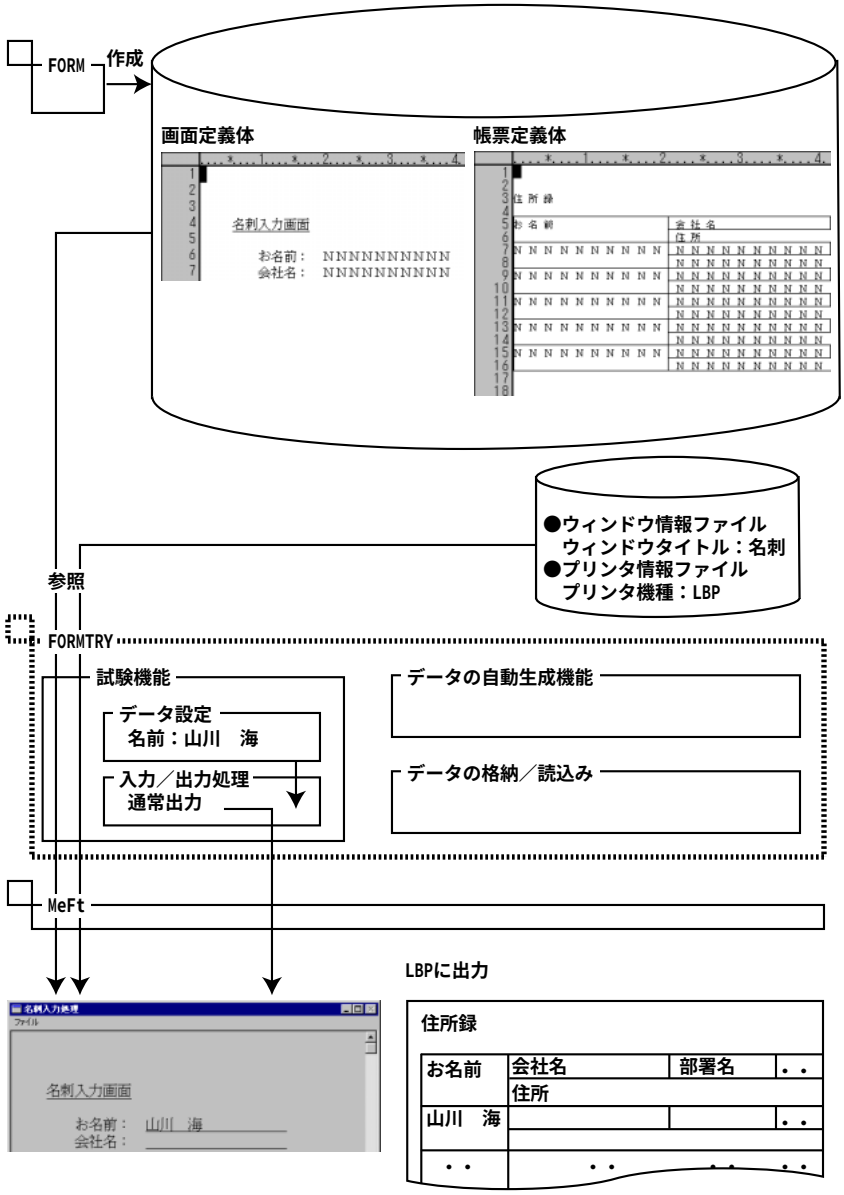
項目の形式に応じてデータを自動生成します.

■データの格納／読込み

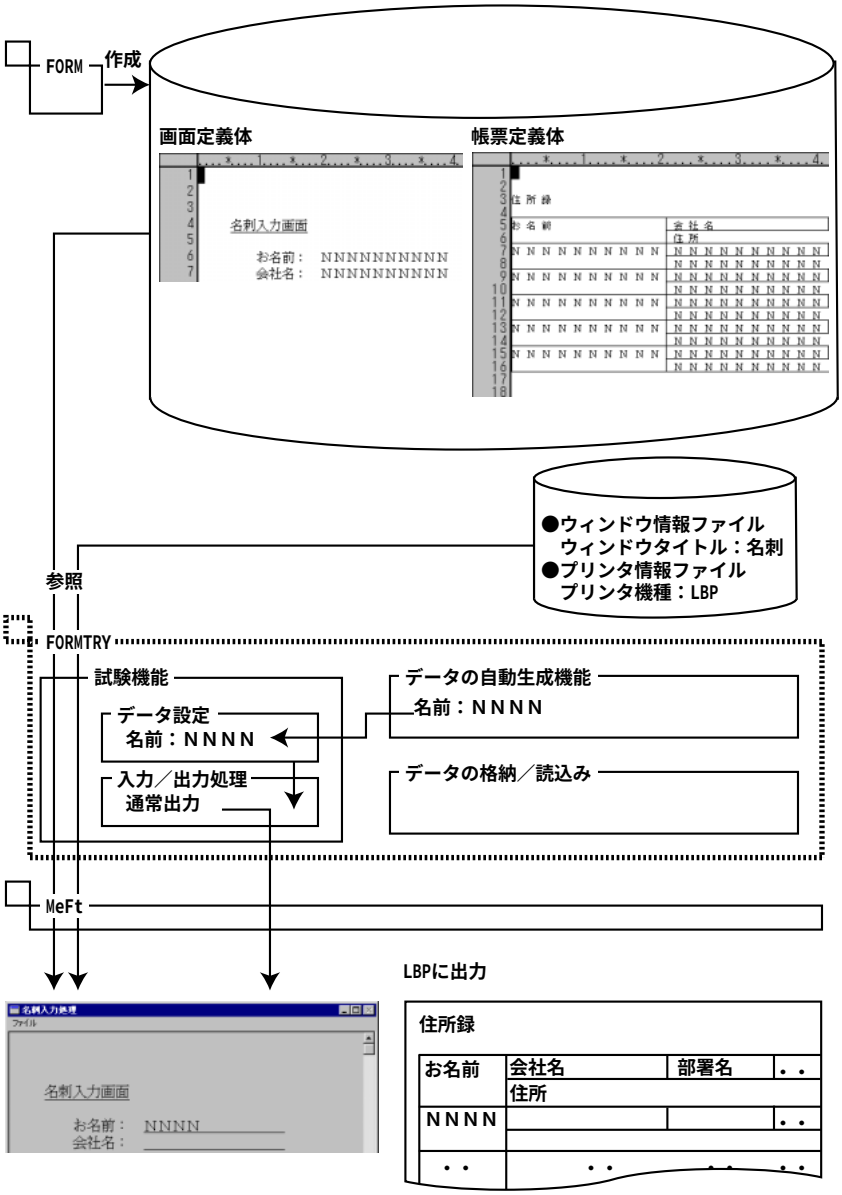
入力したデータをテキストとして格納しておき，そのデータを再度読み込むことによって，データ入力が効率的に行えます.

5.2　試験の各機能と FORM，MeFt との関係

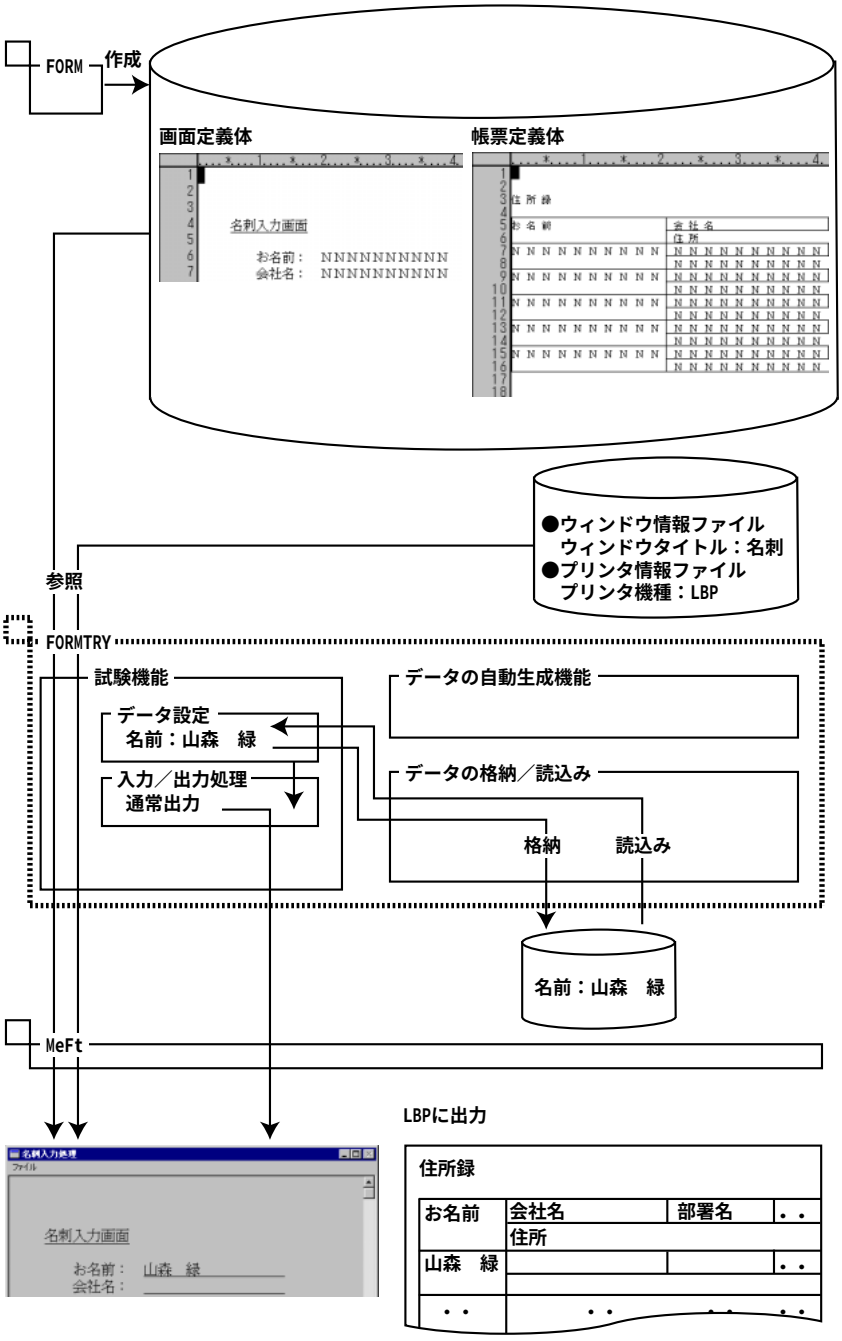
■試験機能



■データの自動生成機能による試験



■データの格納／読込み機能による試験



5.3 試験の画面

■対象項目画面

画面・帳票定義体に入出力する項目のデータ，項目属性などを確認できます.

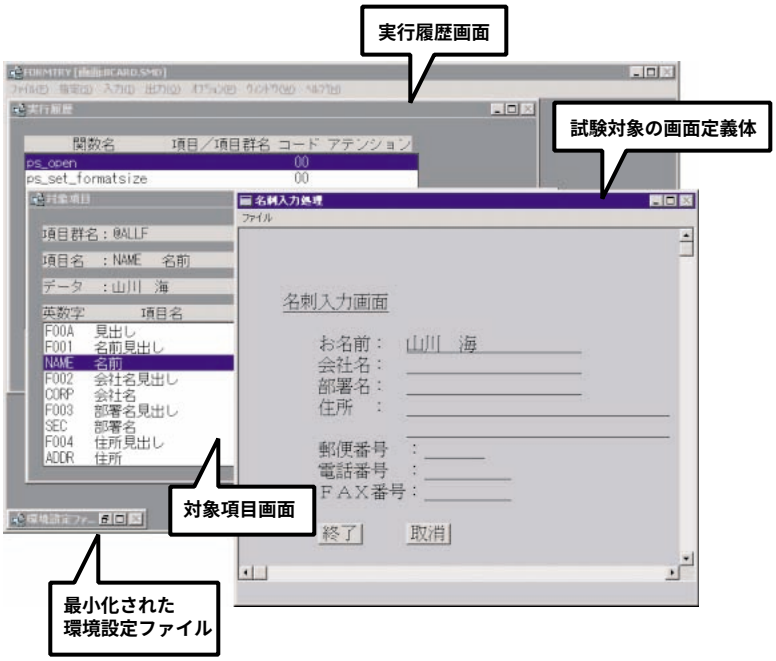
■実行履歴画面

入力処理，出力処理，端末制御の試験で実行した MeFt 関数の処理結果が表示されます.

■環境設定情報画面

通常は最小化表示されています．ウィンドウ情報ファイル，プリンタ情報ファイルの内容が表示されます.

なお，画面定義体の試験の場合は，試験対象の画面定義体の画面も表示されます.



第 6 章　項目ディクショナリ連携とは

ここでは，項目ディクショナリ連携とは何か，どんなことができるか，どのように利用できるかについて説明します.

目次

6.1 特長 104
6.2 機能 105
6.3 必要なソフトウェア 106

参照

『FORM ヘルプ』

- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
    └項目ディクショナリ
  操作ガイドーレコード定義
    └項目ディクショナリ

6.1 特長

FORM では，項目ディクショナリ内のデータ項目の情報を利用することができます．項目ディクショナリとは，よく使用する項目，複数のプログラムで共通に使用する項目を登録したデータベースのことです．項目ディクショナリに登録されている項目をデータ項目といいます．データ項目は，プログラムやデータベースを扱うデータの最小単位のことであり，項目種別や項目長などの項目情報が定義されています．

画面・帳票定義体の作成時に項目ディクショナリを利用すると，項目および項目情報を定義する必要がありません．また，すでに定義した項目を項目ディクショナリと突き合せることによって，項目情報が間違いないかを確認，修正することもできます．

つまり，項目ディクショナリと連携することで，複数の画面・帳票定義体で同一の項目を設定する作業が短時間で行えるようになります．

参考

ここでは，以下の用語を使用しています．

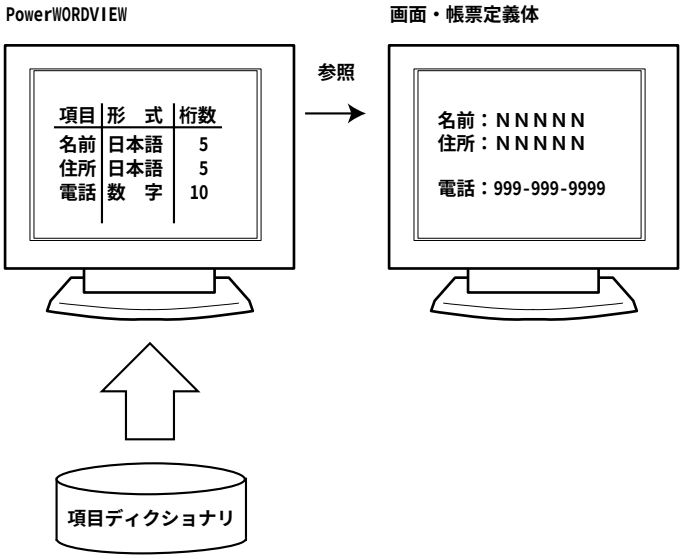
- データ項目：
  項目ディクショナリに定義されている項目
- 項　目：
  画面帳票定義体に定義されている項目
- 項目情報：
  データ項目，項目に定義されている情報
  （項目種別，項目長など）

6.2 機能

項目ディクショナリ連携の機能を説明します．操作は，FORM の編集画面およびレコード定義画面で行います．

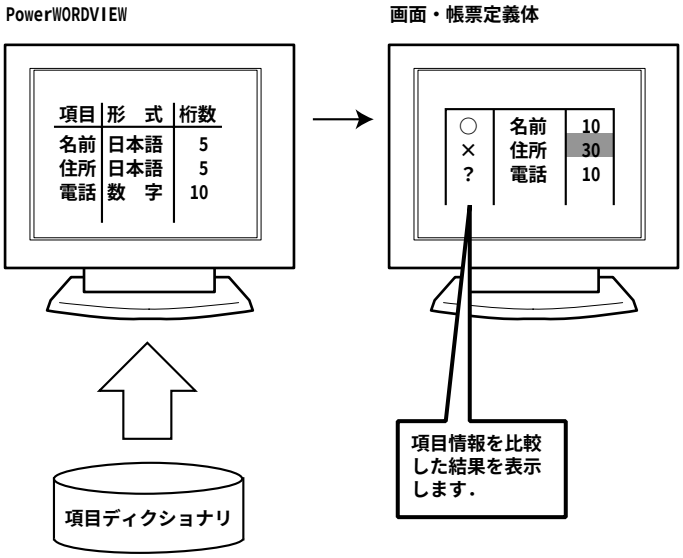
■項目ディクショナリ参照

項目ディクショナリ内のデータ項目を画面・帳票定義体に設定する機能です．
項目と項目情報が設定されます．



■項目ディクショナリ突合せ

項目ディクショナリ内のデータ項目と比較して，定義内容が異なっている画面・帳票定義体の項目を選び出す機能です．項目ディクショナリに従って，画面・帳票定義体の項目情報を変更することもできます．



参考

- PowerWORDVIEW とは，項目ディクショナリを一括管理するためのツールです．
- PowerWORDVIEW は，SDAS 統合 CASE AA 開発ソリューションセットに同梱されています．

6.3　必要なソフトウェア

項目ディクショナリ連携を使用するには，以下のソフトウェアが必要です．

- FORM
- SDAS 統合 CASE AA 開発ソリューションセットに同梱されている PowerWORDVIEW

第 2 部　FORM オーバレイオプション編

FORM オーバレイオプションは，帳票の固定部分（罫線，網がけ，文字など）を帳票定義体とは別にオーバレイパターンテーブルとして作成するプログラムです．

オーバレイパターンテーブルを作成することで，より綺麗な出力帳票を作成できます．

また，オーバレイパターンテーブルをグループにして，効率的に活用することもできます．

ここでは，FORM オーバレイオプションの以下のことを知ることができます．

- FORM オーバレイオプションとは何か
- オーバレイパターンテーブル，オーバレイパターングループの作成方法
- FORM オーバレイオプションの基本的な操作
- FORM オーバレイオプションの機能

注意

FORM オーバレイオプションはオプション製品です．FORM オーバレイオプションをインストールされた方だけ使用することができます．

目次

第 7 章 FORM オーバレイオプションとは 109
第 8 章 オーバレイ定義体を作成しよう 115
第 9 章 FORM オーバレイオプションの基本的な操作を知ろう 129
第 10 章 FORM オーバレイオプションの機能を知ろう 135
第 11 章 オーバレイ定義体の運用方法 141

第 7 章　FORM オーバレイオプションとは

ここでは，FORM オーバレイオプションとは何か，FORM と FORM オーバレイオプションの関係について理解できます.

目次

7.1 FORM と FORM オーバレイオプションの関係 110
7.2 利用者プログラムとの関係 113

7.1 FORM と FORM オーバレイオプションの関係

FORM オーバレイオプションとは，オーバレイ定義体を作成するプログラムです．オーバレイ定義体には，オーバレイパターンテーブルとオーバレイパターングループの 2 つがあります．

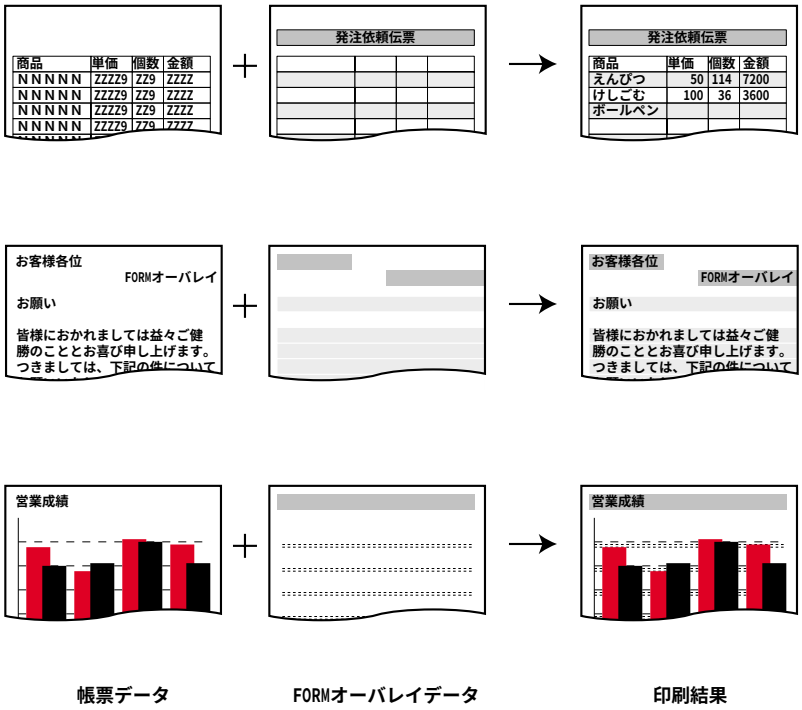
FORM オーバレイオプションを使って作成したオーバレイ定義体は，出力帳票（帳票定義体，COBOL の出力帳票，OA データなど）と重ねて出力できます．

ここでは，出力帳票として帳票定義体を中心に説明します．

では，これから FORM オーバレイオプションとは何か，オーバレイ定義体とは何か，FORM との関係について説明します．

■FORM オーバレイオプションとは

FORM オーバレイオプションとはあらゆる出力帳票を装飾して出力するプログラムです．



■FORM オーバレイオプションがあると…

FORM で作成した帳票定義体を使い，プログラムの処理結果を伝票として出力します．この伝票をより綺麗で見やすいものにするには，プレプリント用紙（すでに見出しや枠などが印刷された専用の用紙）を使用していました．しかし，これではプレプリント用紙を作成する費用や，出力帳票によってプレプリント用紙を掛け替える多くの手間がかかってしまいます．

これらの問題を解決するプログラムが FORM オーバレイオプションです．

FORM オーバレイオプションは，豊富な作図機能が用意されており，操作も簡単なので，プレプリント用紙を使用したような帳票を容易に作成することができます．また，利用者プログラムから FORM オーバレイオプションで定義した帳票を変更できるので，用紙を掛け替える必要がありません．

■オーバレイ定義体とは

オーバレイ定義体には，オーバレイパターンテーブルとオーバレイパターングループがあります．

オーバレイパターンテーブルとは，帳票の見出しや枠などの固定部分（装飾部分）を設定したものです．

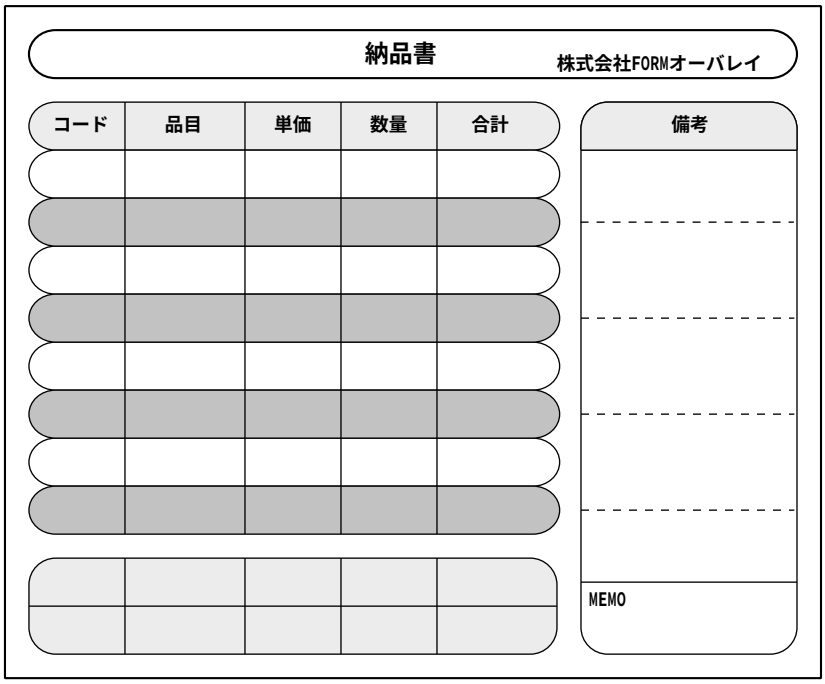
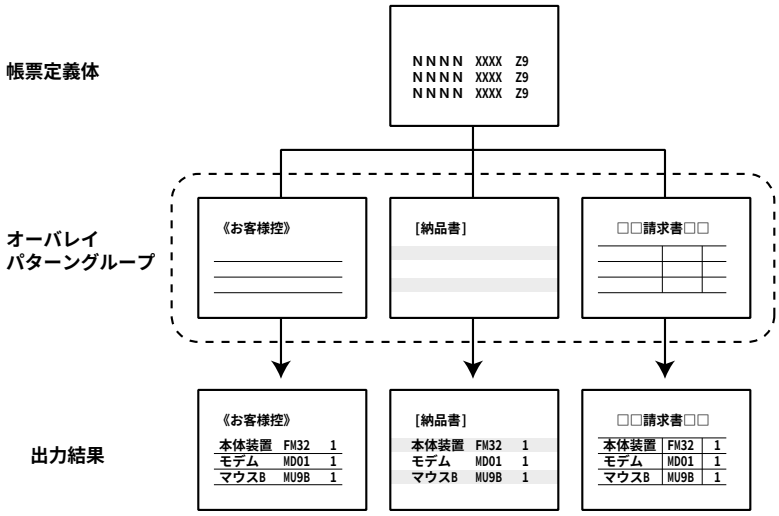


図 7.1 オーバレイパターンテーブルの例

オーバレイパターングループとは，複数のオーバレイパターンテーブルをグループ化したもので，オーバレイパターンテーブルと帳票定義体の印刷される順番を設定したものです．1 つの帳票に順に複数のオーバレイパターンテーブルを重ねて印刷することができます．

オーバレイパターングループの実行例



■FORM と FORM オーバレイオプションの関係

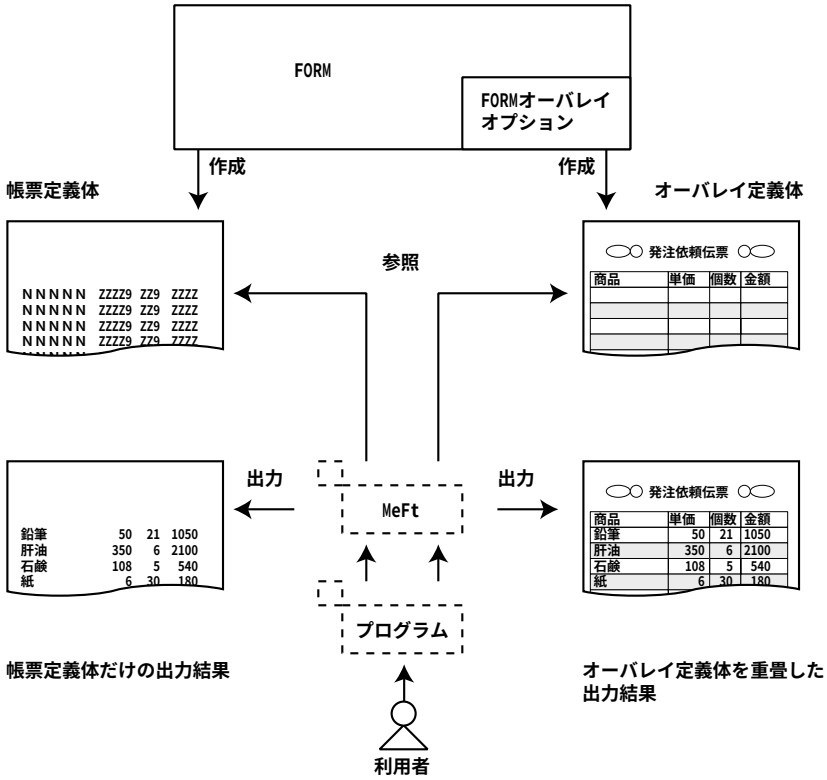
FORM オーバレイオプションは，FORM で作成した帳票データに固定データを付加して装飾するオプション機能です．FORM にオプションとして追加すると，以下のことができるようになります．

- 豊富な線幅，線種を設定できます．
- 罫線，網がけだけでなく，円や楕円を設定できます．
- 枠や網がけの角の丸めを設定できます．
- 豊富な文字サイズが設定でき，かつ，文字回転，文字の配置を設定できます．
- 固定文字の文字間隔を自由に設定できます．
- 帳票定義体を参照／編集しながらオーバレイパターンテーブルを作成できます．
- オーバレイパターンテーブルをグループ化したオーバレイパターングループを作成できます．

注意　FORM オーバレイオプションを使用するには，FORM が必要です．

7.2 利用者プログラムとの関係

FORM オーバレイオプションで作成したオーバレイ定義体は，帳票定義体と共に MeFt を通して利用できます.



第 8 章　オーバレイ定義体を作成しよう

FORM では，住所録の帳票定義体を作成しました．ここでは，その帳票に重ねるオーバレイパターンテーブルとオーバレイパターングループを作成します．これによって，オーバレイ定義体の作成手順を理解できます．

また，住所録の帳票定義体を作成していない方も，オーバレイ定義体の作成手順をひととおり知ることができます．

目次

8.1 オーバレイパターンテーブルを作成しよう 116
8.2 オーバレイパターングループを作成しよう 126

参照

『FORM ヘルプ』

- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面

8.1 オーバレイパターンテーブルを作成しよう

ここでは，FORM で作成した住所録の帳票に重ねるオーバレイパターンテーブルを作成します．

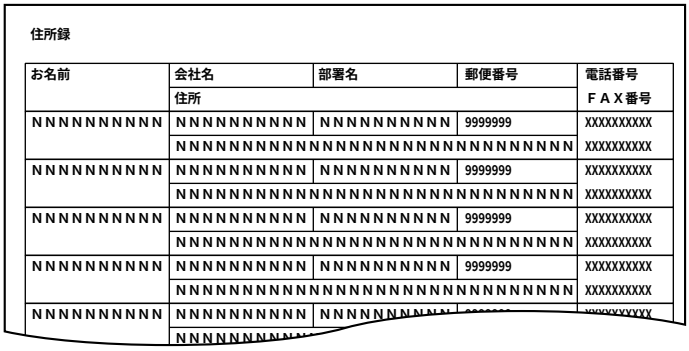


図 8.1 FORM で作成した帳票

■住所録のオーバレイパターンテーブルを作成するためには

以下に示すオーバレイパターンテーブルを作成します．

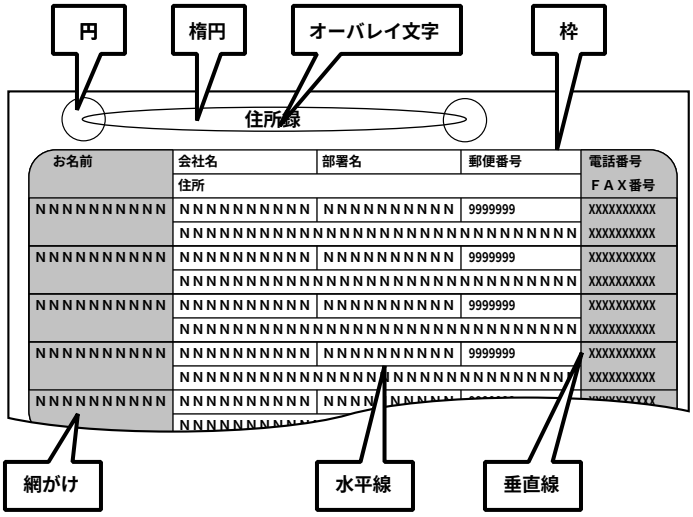


図 8.2 オーバレイパターンを使った帳票

このオーバレイパターンテーブルには，次の情報を設定します．

- 定義体全般情報

  ファイル名：

  KOL5PTN1.ovd（オーバレイパターンテーブルの名前．プログラムで利用するときの名前になります）

定義サイズ：

Ａ４（オーバレイパターンテーブルの大きさ）

保存形式：

KOL5（オーバレイパターンテーブルを保存するときの形式）

- 図形

  枠，水平線，垂直線，円，楕円，および網がけを設定します．

- オーバレイ文字

  見出し部分など固定的な文字です．

■操作手順

ここでは，基本的な機能の操作だけを説明します．

(1)FORM を起動します

FORM を起動すると同時に FORM オーバレイオプションが起動されます．
FORM を起動して，オーバレイパターンテーブルを作成できる状態にします．

操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします．

   ⇒スタートアップ画面表示後，編集画面が表示されます．

2. ［ファイル］メニューから［開く］を選択し，サブメニューから［帳票定義体］コマンドを選択します．

   ⇒帳票定義体を開くダイアログボックスが表示されます．

3. オーバレイ定義体を重ねる帳票定義体のファイル名（ADDR.smd）を指定します．

参照 “2.2.1 帳票定義体の作成”

⇒帳票定義体の編集画面が表示されます．

(2) オーバレイパターンテーブルの作成を始めます

操作

1. ［ファイル］メニューから［新規作成］を選択し，サブメニューから［オーバレイ定義体］コマンドを選択します．

   ⇒オーバレイパターンテーブルの編集画面が表示されます．

2. 住所録の固定リテラル項目は，後でオーバレイ文字で見出しとして設定するため，削除しておきます.
3. お名前の固定リテラル項目の桁位置を 1 から 3 に移動します.

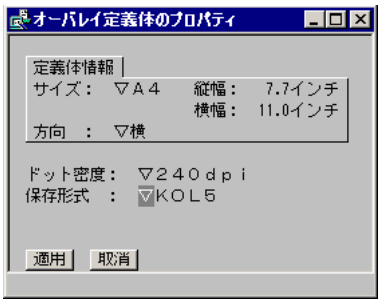
(3) オーバレイパターンテーブル定義体全般の情報を設定します

オーバレイパターンテーブルのサイズと保存方法を設定します.

操作

1. ［ファイル］メニューから［プロパティ］を選択し，サブメニューから［オーバレイ定義体］コマンドを選択します.

   ⇒オーバレイ定義体の詳細ダイアログボックスが表示されます.



2. サイズに「Ａ ４」を，方向に「横」を選択します.
3. 保存形式に「ＫＯＬ ５」を選択します.
4. 「適用」を選択します.

   ⇒編集画面に戻ります.

(4) 帳票定義体で設定した罫線を削除します

帳票定義体で設定した罫線を，オーバレイパターンで設定し直すため削除します.

操作

1. シンボルメニューから選択シンボル（ ）を選択します.
2. 編集画面上の罫線を 1 つ選択します.
3. ［編集］メニューから［削除］コマンドを選択します.

   ⇒選択した罫線が削除されます.
4. 2.，3. の操作を繰り返して，罫線をすべて削除します.

(5) 図形（枠）を設定します

枠を作図します．シンボルメニューを選択して，作図範囲を指定します．

操作

1. シンボルメニューから枠作図シンボル（ ）を選択します．
   ⇒マウスポインタがクロスポインタに変わります．

2. 作図を開始する位置から終了する位置までドラッギングします．
   ⇒作図途中の図形がラバーバンドで表示されます．

3. ドラッギングを終了します．
   ⇒開始位置と終了位置を対角線とした枠が描かれます．

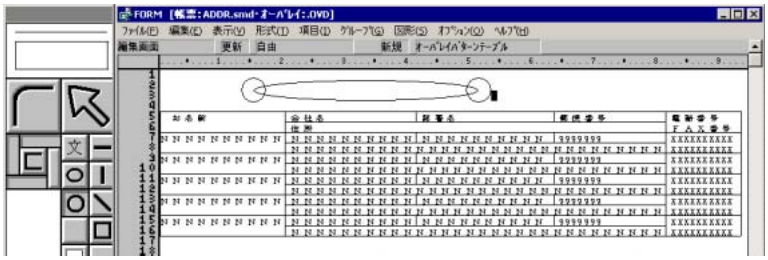
(6) 図形（円，楕円，垂直線，および水平線）を設定します

枠の作図と同様にシンボルメニューを選択して，作図範囲を指定します．

操作

1. シンボルメニューから，作図するパターンのシンボルを選択します．円の場合は（ ），楕円の場合は（ ），垂直線の場合は（ ），水平線の場合は（ ）をそれぞれ選択します．

2. 作図開始位置と作図終了位置を指定します．円，楕円の場合は中心と半径を指定します．
   ⇒指定した図形が描かれます．

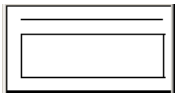


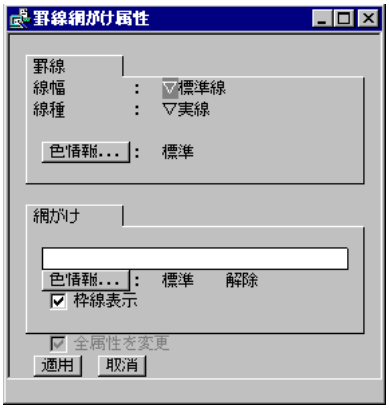
(7) 網がけを設定します

網がけを作成するには，網がけ属性を指定した後，枠を作図します．

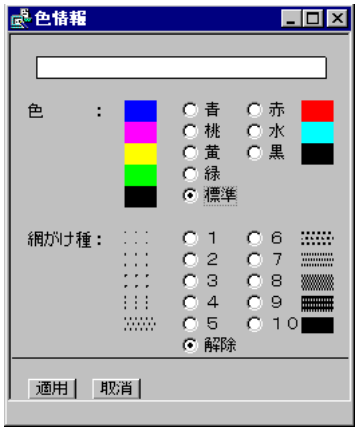
操作

1. シンボルメニューから選択シンボル（ ）を選択します．

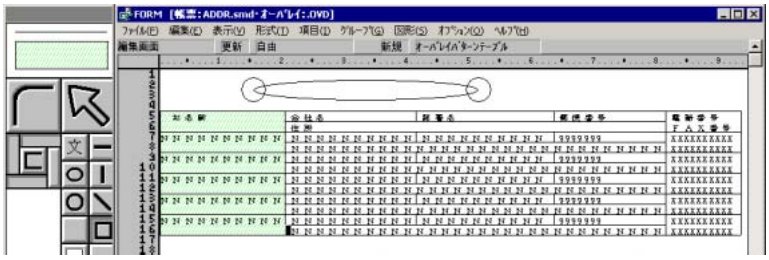
2. シンボルメニューから罫線網がけ属性シンボル（  ）を選択します．
   または，［図形］メニューから［罫線網がけ属性］コマンドを選択します．
   ⇒罫線網がけ属性ダイアログボックスが表示されます．



3. 網がけの「色情報」を選択します．
   ⇒色情報ダイアログボックスが表示されます．



4. 色に「緑」，網がけ種に「6」を指定して，「適用」を選択します．
   ⇒罫線網がけ属性ダイアログボックスに戻ります．
5. 「適用」を選択します．
   ⇒罫線網がけ属性シンボルが網がけ状態になります．
6. 枠作図シンボルを選択して，枠の作図と同様に操作します．
   ⇒網がけが描かれます．

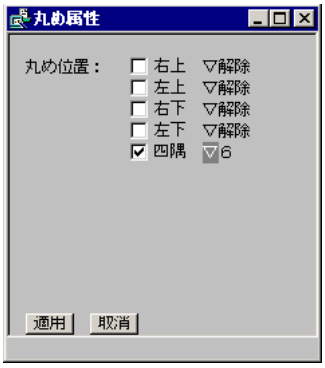


(8) 属性を変更します（枠，網がけを丸める）

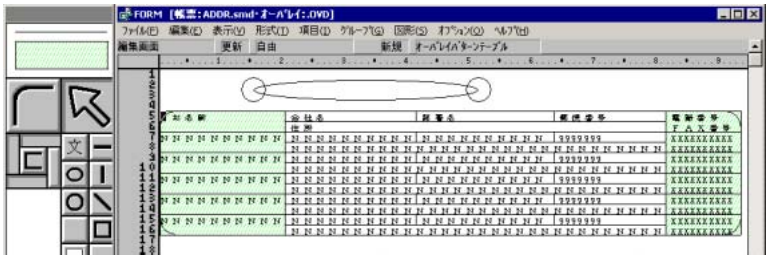
丸めたい処理対象を選択して，丸め属性を指定すると，処理対象の角が丸められます．

操作

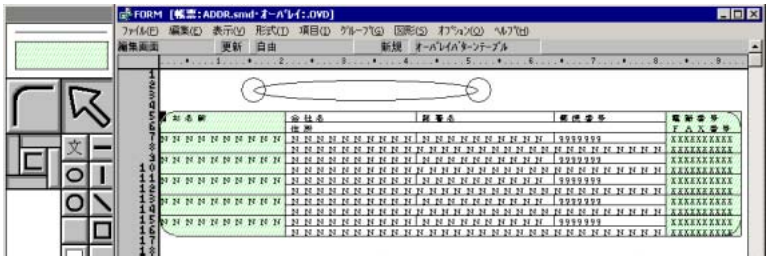
1. シンボルメニューから選択シンボル（ ）を選択します．
2. 丸めたい処理対象（枠）を選択します．
3. ［図形］メニューから［丸め］コマンドを選択します．
   ⇒丸め属性ダイアログボックスが表示されます．



4. 丸め位置に「四隅」を，丸め半径に「6」を指定して，「適用」を選択します．
   ⇒枠が丸められます．



5. 丸めたい網がけを選択します．
6. ［図形］メニューから［丸め］コマンドを選択して，丸め属性ダイアログボックスを表示します．
7. 丸め位置に「左上」と「左下」を，丸め半径に「6」を指定して，「適用」を選択します．
   ⇒選択した網がけが丸められます．



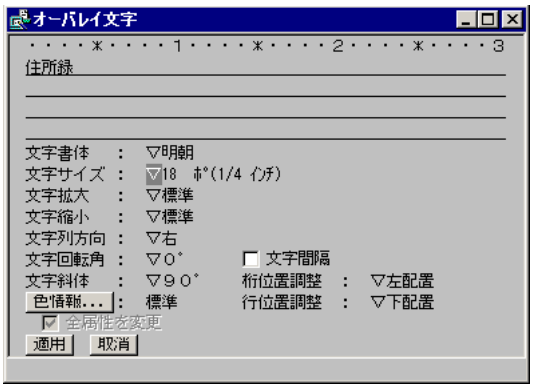
(9) オーバレイ文字を設定します

帳票の表題など，固定的な文字を設定します．オーバレイ文字の設定は，オーバレイ文字ダイアログボックスで行います．

操作

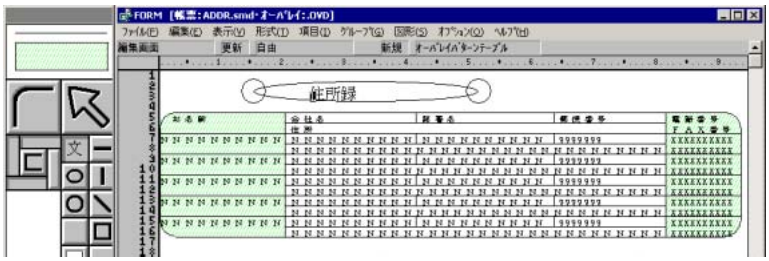
1. シンボルメニューからオーバレイ文字作成シンボル（文）を選択します．
2. オーバレイ文字を入力したい位置にマウスポインタを位置付けます．

⇒オーバレイ文字ダイアログボックスが表示されます.



3. 文字列（「住所録」）を入力して，文字属性（書体など）を指定します.
4. 「適用」を選択します.

   ⇒オーバレイ文字が設定されます.



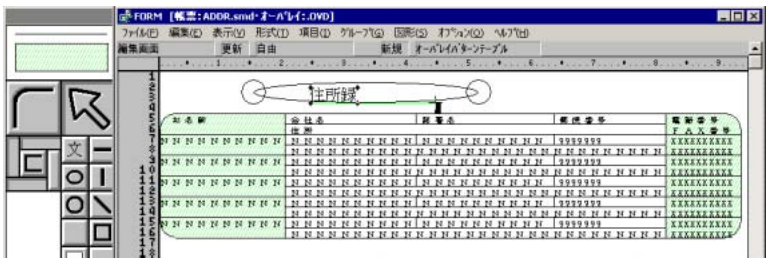
(10) 文字を配置します

「住所録」の文字を一定の範囲内で，均等に配置します.

操作

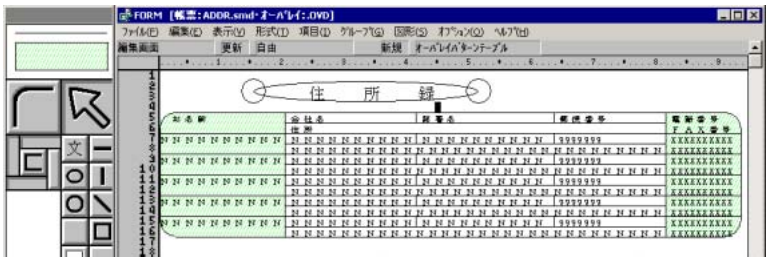
1. シンボルメニューから選択シンボルを選択して，「住所録」の文字を選択します.
2. ［編集］メニューから［自動配置］コマンドを選択します.

   ⇒マウスポインタがクロスポインタに変わります.
3. 配置する範囲をドラッギングして指定します.



⇒自動配置ダイアログボックスが表示されます.

4. 「等分割」を選択して，「適用」を選択します.
   ⇒指定した範囲に「住所録」の文字が均等に配置されます.



(11) 保存します

オーバレイパターンテーブルを保存します.

操作

1. ［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］コマンドを選択します.
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます.
2. フォームオーバレイパターンのファイル名に「KOL5PTN1.ovd」を指定します.

3. 「保存」を選択します.
   ⇒オーバレイパターンテーブルが保存されます.
4. 同様に，帳票定義体を「KOL5PTN1.smd」と名前を付けて保存します.

(12) 作成したオーバレイパターンテーブルのレイアウトを確認します

操作

1. ［ファイル］メニューから［レイアウト印刷］を選択します.
   ⇒レイアウト印刷ダイアログボックスが表示されます.
2. それぞれのファイル名に「編集中の定義体」と表示されます.

3. 「プレビュー」を選択します.
   ⇒印刷イメージが表示されます.
4. 「印刷」を選択します.
   ⇒オーバレイパターンテーブルのレイアウトが出力されます.

(13) 帳票定義体とオーバレイパターンテーブルを重畳した印刷イメージを確認します（試験）

操作

更新中の帳票定義体（KOL5PTN1.smd）に対して，オーバレイ名指定ダイアログボックスに「KOL5PTN1」を指定し，再度保存します.

1. スタートメニューから「FORM 試験」を選択します．または，「FORM 試験」のアイコンをダブルクリックします.
   ⇒試験のウィンドウが表示されます.
2. ［ファイル］メニューから［オープン］コマンドを選択します.
   ⇒オープンダイアログボックスが表示されます.
3. 画面帳票定義体名に「KOL5PTN1.smd」，環境設定ファイルに「prt1.env」を指定し，「OK」を選択します.

参照 “2.2.3 作成した帳票定義体の印刷イメージを確認（試験）”

4. ［指定］メニューから［全項目指定］コマンドを選択します.
   ⇒全項目指定ダイアログボックスが表示されます.
5. 「いいえ」を選択します.
   ⇒対象項目ダイアログボックスに対象項目の情報が表示されます.
6. ［ファイル］メニューから［レコードデータ読込］コマンドを選択します.
   ⇒レコードデータ読込ダイアログボックスが表示されます.
7. ファイル名に「DCARD.txt」を指定し，「OK」を選択します.
   ⇒ DCARD.txt というファイルに保存されているデータが読み込まれます.

参照 “2.2.3 作成した帳票定義体の印刷イメージを確認（試験）”

8. ［出力］メニューから［通常出力］コマンドを選択します.
9. ［ファイル］メニューから［クローズ］コマンドを選択します.
   ⇒オーバレイパターンテーブルを重畳した住所録が印刷されます.

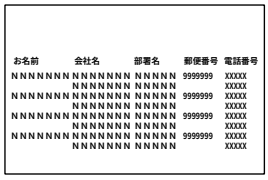
8.2 オーバレイパターングループを作成しよう

ここでは，「8.1 オーバレイパターンテーブルを作成しよう」で作成したオーバレイパターンテーブルと，ほかのオーバレイパターンテーブルをグループ化したオーバレイパターングループを作成します．

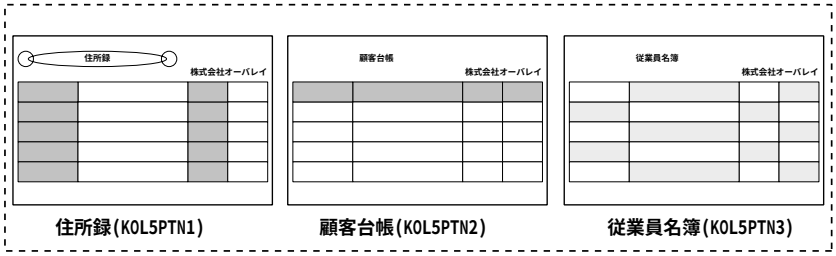
■オーバレイパターングループを作成するためには

以下に示すオーバレイパターングループを作成します．

帳票定義体



オーバレイパターン



印刷結果

このオーバレイパターングループには，次の情報を設定します

- 定義体全般情報

  ファイル名：

  KOL5PTNS.ovd（オーバレイパターングループの名前．プログラムで利用するときの名前になります）

  出力順序：

  データセット（印刷時に出力される順序を指定します）

  オーバレイパターンテーブル名：

  KOL5PTN1，KOL5PTN2，KOL5PTN3（グループ化したいオーバレイパターンテーブルの定義体名を指定します）

■操作手順

ここでは，基本的な機能の操作だけ説明します．

(1)FORM を起動します

FORM を起動すると同時に FORM オーバレイオプションが起動されます．
FORM を起動して，オーバレイパターングループを作成できる状態にします．

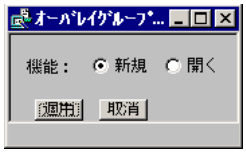
操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします．
   ⇒編集画面が表示されます．

(2) オーバレイパターングループの作成を始めます

操作

1. ［ファイル］メニューから［オーバレイグループの定義］コマンドを選択します．
   ⇒オーバレイグループの定義ダイアログボックスが表示されます．



(3) 定義情報を設定します

オーバレイパターングループのファイル名を設定します．

操作

1. オーバレイグループの定義ダイアログボックスで，「新規」を選択します．
2. 「適用」を選択します．
   ⇒オーバレイパターングループ定義ダイアログボックスが表示されます．

(4) 出力順序を指定します

操作

1. 「データセット」を選択します.

(5) オーバレイパターンテーブル名を指定します

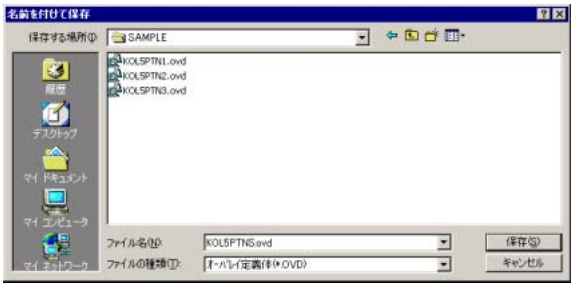
操作

1. オーバレイパターンテーブル名に，1 から順に「KOL5PTN1」，「KOL5PTN2」，「KOL5PTN3」と入力します.

(6) 保存します

操作

1. 「名前を付けて保存」を選択します.
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます.
2. オーバレイパターンのファイル名に「KOL5PTNS.ovd」を指定し，「保存」を選択します.



⇒オーバレイパターングループが保存されます.

第 9 章　FORM オーバレイオプションの基本的な操作を知ろう

ここでは，FORM オーバレイオプションでオーバレイ定義体を作成するときの以下の基本操作について理解できます.

- FORM の起動／終了とオーバレイ定義体の作成／保存方法
- オーバレイ定義体を作成するための定義画面の種類

目次

9.1 FORM の起動／終了方法とオーバレイ定義体の作成／保存方法 130
9.2 定義画面の種類 134

9.1 FORM の起動／終了方法とオーバレイ定義体の作成／保存方法

FORM の起動および終了方法を説明します．また，起動された後のオーバレイ定義体を作成する方法と保存する方法を説明します．

9.1.1 FORM の起動

オーバレイ定義体を作成するには，FORM を起動します．FORM を起動すると同時に FORM オーバレイオプションも起動されます．

操作

1. スタートメニューから「FORM」を選択します．または，「FORM」のアイコンをダブルクリックします．

   ⇒スタートアップ画面の表示後，FORM の編集画面が表示されます．

コマンドライン

FORM は，以下のコマンドラインを指定して起動することもできます．

__（下線）は，下線部分だけでもよいことを示しています．［　］は省略してもよいことを示しています．また，以下のコマンドラインは，大文字，小文字が混在していてもかまいません．

なお，コマンドラインの場合は，フルパスで指定してください．

- 新規作成の場合

FORM	-CREATEMED	[作成する画面・帳票定義体ファイル名] [-ATTRIBUTE ファイル属性] [-REFER 参照する画面・帳票定義体ファイル名]
	-CREATEOVD	[作成するオーバレイ定義体ファイル名] [-ATTRIBUTE ファイル属性] [-REFER 参照するオーバレイ定義体ファイル名]

-CREATEOVD：

オーバレイ定義体の新規作成を示します．作成するオーバレイ定義体のファイル名を設定します．

-ATTRIBUTE：

作成するオーバレイ定義体のファイル属性に以下のいずれかを設定します．

OVERLAYPATTERN　：オーバレイパターンテーブル

OVERLAYGROUP　：オーバレイパターングループ

-REFER：

すでにあるオーバレイ定義体を参照して作成することを示します．参照するオーバレイ定義体のファイル名を設定します．

オーバレイ定義だけを行う場合にファイル属性を省略した場合，起動後「ファイル属性を指定するダイアログボックス」でファイル属性を指定します.

図 9.1 ファイル属性を指定するダイアログボックス

- 更新の場合

FORM	-UPDATEMED	更新する画面・帳票定義体ファイル名
	-UPDATEOVD	更新するオーバレイ定義体ファイル名

- 表示（読み取り専用）の場合

FORM	-BROWSEMED	表示する画面・帳票定義体ファイル名
	-BROWSEOVD	表示するオーバレイ定義体ファイル名

画面・帳票定義体とオーバレイ定義体のファイル属性で組み合わせることができるのは，以下のとおりです.

表 9.1 ファイル属性の組み合わせ

ファイル属性 ＼ オーバレイ定義		オーバレイパターンテーブル	オーバレイパターングループ	省略
画面帳票定義	画面	×	×	×
	帳票	○	×	○
	省略	○	×	○

○：組み合わせできる　×：組み合わせできない

なお，ファイル属性の指定（-ATTRIBUTE）を省略すると，「帳票定義体」と「テーブル」の組み合わせになります.

9.1.2 オーバレイ定義体の作成

オーバレイ定義体を作成する方法を説明します.

◆ 新しくオーバレイ定義体を作成する場合

操作

1. ［ファイル］メニューから［新規作成］を選択し，サブメニューから［オーバレイ定義体］コマンドを選択します.
   ⇒編集画面が表示されます.

◆ すでにあるオーバレイ定義体を修正する場合

操作

1. ［ファイル］メニューから［開く］を選択し，サブメニューから［オーバレイ定義体］コマンドを選択します．

   ⇒オーバレイ定義体を開くダイアログボックスが表示されます．

2. 修正する定義体のファイル名を選択します．

   ⇒指定したオーバレイ定義体の編集画面が表示されます．

参照 編集画面“9.2 定義画面の種類”

帳票定義体の編集画面時，オーバレイ定義体を読み込む方法を以下に示します．

操作

1. ［ファイル］メニューから［開く］を選択し，サブメニューから［オーバレイ定義体］コマンドを選択します．

   ⇒オーバレイ定義体を開くダイアログボックスが表示されます．

2. ファイル名に，読み込むオーバレイパターンテーブルのファイル名を指定します．
3. 「OK」を選択します．

   ⇒指定したオーバレイパターンテーブルが読み込まれます．

編集画面上に，すでにオーバレイパターンテーブルがある場合にも「オーバレイ読込み」を行えます．複数の定義体を重ね合わせたものを 1 つの定義体として作成することもできます．

9.1.3 オーバレイ定義体の保存

保存方法には，以下の 2 つの方法があります．

- 上書き保存
- 名前を付けて保存

■上書き保存

作成中の定義体を同名の定義体に上書きして保存する場合に選択します．

機能

作成中の定義体を上書きして保存します．オーバレイ定義体のファイル名および保存先が指定されていない場合は，名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます．

作成したオーバレイパターンテーブルの定義内容を検査します．オーバレイパターンテーブルに用紙サイズを超える図形またはオーバレイ文字がある場合，強制保存を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます．ただし，オーバレイパターングループは検査されません．

強制保存したオーバレイ定義体は，用紙サイズを超える図形またはオーバレイ文字がある可能性があります．作成したシステムで運用する場合は問題ありませんが，ほかのシステムでは運用できないことがあります．

◆ オーバレイ定義体の上書き保存

操作

1. ［ファイル］メニューの［上書き保存］コマンドを選択します．
   ⇒定義中の定義体が保存されます．編集画面が表示されます．

■名前を付けて保存

作成中の定義体のファイル名および保存先を指定または変更して保存します．

機能

作成中の定義体を変名または保存先を変更して保存します．名前を付けて保存ダイアログボックスが表示され，定義体名および保存先パス名を指定して保存します．保存時には定義体の内容が検査されます．

図 9.2 名前を付けて保存ダイアログボックス

◆ オーバレイ定義体の名前を付けて保存

操作

1. ［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］コマンドを選択します．
   ⇒名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます．
2. 定義体名および保存先を指定します．
3. 「保存」を選択します．
   ⇒定義体が保存され，編集画面に戻ります．

9.1.4 FORM の終了

FORM オーバレイオプションは，FORM を終了すると同時に終了します．

終了方法を以下に説明します．

操作

1. ［ファイル］メニューから［FORM の終了］コマンドを選択します．
   ⇒ FORM が終了します．

9.2 定義画面の種類

以下に，定義画面の種類について説明します．

■編集画面

編集画面は，オーバレイパターンテーブルを定義する画面です．オーバレイパターンテーブルの作成，編集が行えます．また，オーバレイパターンテーブルと帳票定義体を重ねて定義することもできます．

編集画面とともに，シンボルメニューが表示されます．

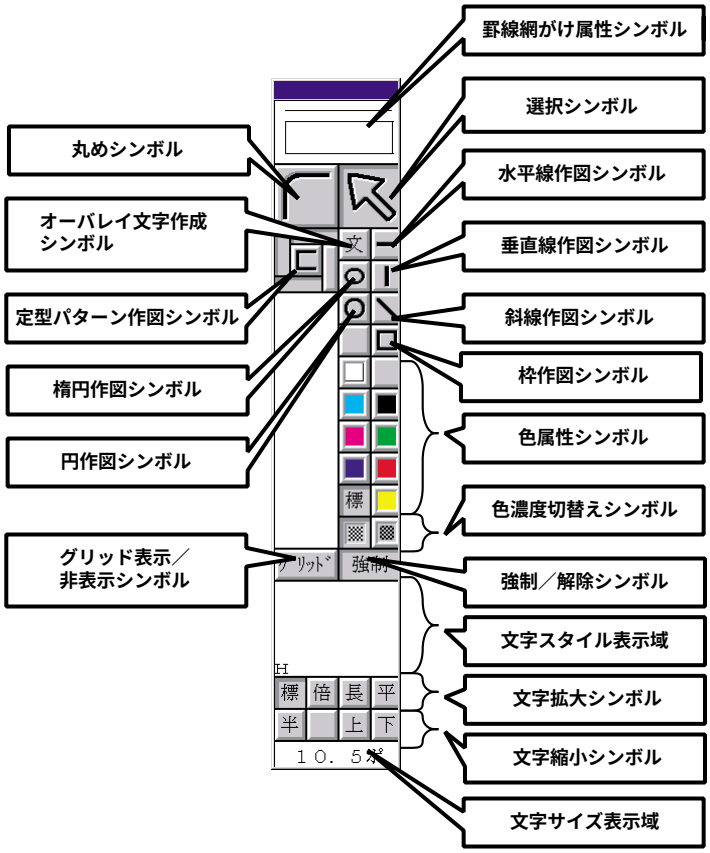


図 9.3 シンボルメニュー

第 10 章　FORM オーバレイオプションの機能を知ろう

ここでは，FORM オーバレイオプションで設定できる機能について理解できます.

目次

10.1 オーバレイパターンテーブルで設定できる機能 136
10.2 オーバレイパターングループに設定できるもの 139

参照

『FORM ヘルプ』

- 概要
  └オーバレイパターンテーブルの作成【OVD】
- 画面別操作ガイド
  └操作ガイドー編集画面
    └オーバレイパターンテーブルの設定【OVD】

10.1 オーバレイパターンテーブルで設定できる機能

オーバレイパターンテーブルで設定できる機能について説明します.

10.1.1 全般情報

定義体全般に関する情報です.

■名前

オーバレイパターンテーブルのファイル名です．定義体名と拡張子（.OVD）で構成されています．利用者プログラムでオーバレイパターンテーブルを利用するときの名前です.

■プロパティ

定義体情報：

オーバレイパターンテーブルを作成するときの情報です.

- 定義体サイズ（縦幅，横幅）
- 定義体方向

ドット密度：

印刷するプリンタのドット密度です.

保存形式：

オーバレイパターンテーブルを保存するときの形式です.

10.1.2 作成できる図形，文字

オーバレイパターンテーブルとして定義できる図形には，以下のものがあります.

■罫線

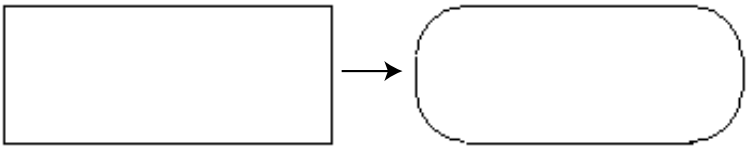
罫線には，以下の種類があります.

- 水平線
- 垂直線
- 斜線
- 枠
- 定型パターン（枠罫線の辺を組み合わせた罫線）

罫線属性として，次のものが設定できます.

- 線幅（細線，標準線，太線，極太線，任意）
- 線種（実線，点線，破線，一点鎖線，任意）
- 線色（黒，青，赤，桃，緑，水，黄，標準）

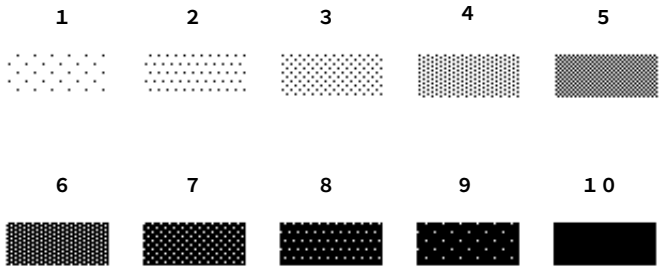
枠および定型パターンの角を，半径を指定して丸めることができます.



■網がけ

網がけ属性として，次のものが設定できます.

- 網がけパターン（１～１０）



- 網がけ色（黒，青，赤，桃，緑，水，黄，標準）
- 枠線表示（網がけに枠線を付けるかどうかを指定）

網がけは，枠や定型パターン同様に角を丸めることができます.

■円，楕円

円および楕円を設定できます.

円および楕円にも罫線同様に，線種，線幅，および線色を指定できます.

■オーバレイ文字

行桁位置に縛られることなく，自由に設定できます．文字属性として，次のものが設定できます.

- 書体（明朝，明朝半角，ゴシック，ゴシック半角）
- 文字サイズ（4.5 ポ，7 ポ，9 ポ，10.5 ポ，12 ポ，18 ポ，36 ポ，自由）
- 文字拡大（標準，倍角，長体，平体）
- 文字縮小（標準，半角，上付き，下付き）
- 文字間隔（文字サイズを基準にした文字と文字の間隔）
- 文字列方向（右，左，上，下）
- 文字回転角（0°，90°，180°，270°）

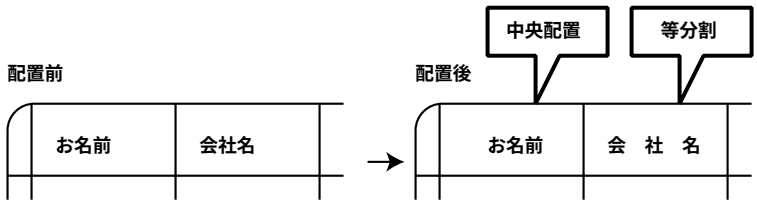
- 文字色（黒，青，赤，桃，緑，水，黄，白，標準）

- 文字斜体（45°，60°，75°，90°）

オーバレイ文字は，以下のように配置することができます．

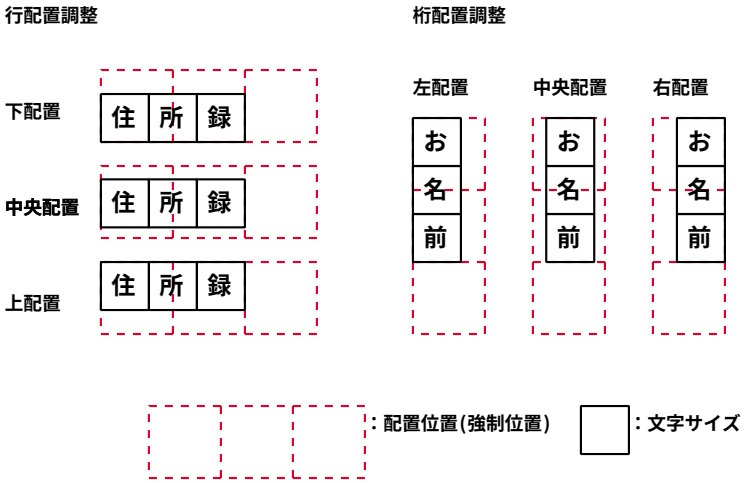
- 自動配置

  オーバレイ文字を指定された範囲の中に自動的に配置します．中央と等分割があります．



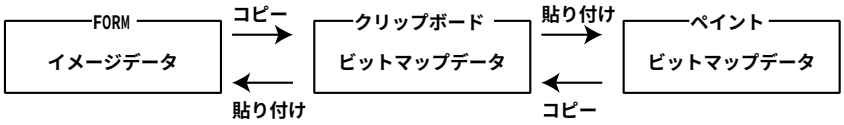
- 行位置調整／桁位置調整

  オーバレイ文字を文字の行方向または桁方向の指定した配置位置に揃えて表示します．



■イメージデータ

ビジュアルなデータ（イメージスキャナで読み取ったデータなど）を，ペイントなどでクリップボードを経由してイメージデータとして設定することができます．



注意　イメージデータは，単色（白と指定した色）でしか扱えません．

10.2　オーバレイパターングループに設定できるもの

オーバレイパターングループでは，オーバレイパターンテーブルをグループ化して出力順序を定義できます．オーバレイパターングループで設定できる機能について説明します．

10.2.1　全般情報

定義体全般に関する情報です．

■名前

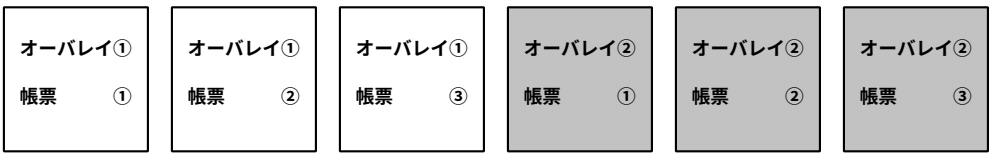
オーバレイパターングループのファイル名です．定義体名と拡張子（.OVD）で構成されています．利用者プログラムでオーバレイパターングループを利用するときの名前です．

10.2.2　出力順序

オーバレイパターンテーブルの出力順序を定義する機能です．出力順序には，データセットオーバレイ（帳票定義体順）およびシーケンスオーバレイ（オーバレイパターンテーブル順）があります．

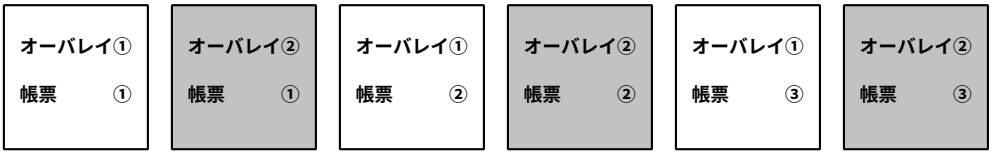
データセットオーバレイ：

複数のオーバレイパターンテーブルの切替えを，印刷する帳票定義体のページ単位に行います．



シーケンスオーバレイ：

複数のオーバレイパターンテーブルの切替えを，オーバレイパターンテーブル単位に行います．



10.2.3 コード系

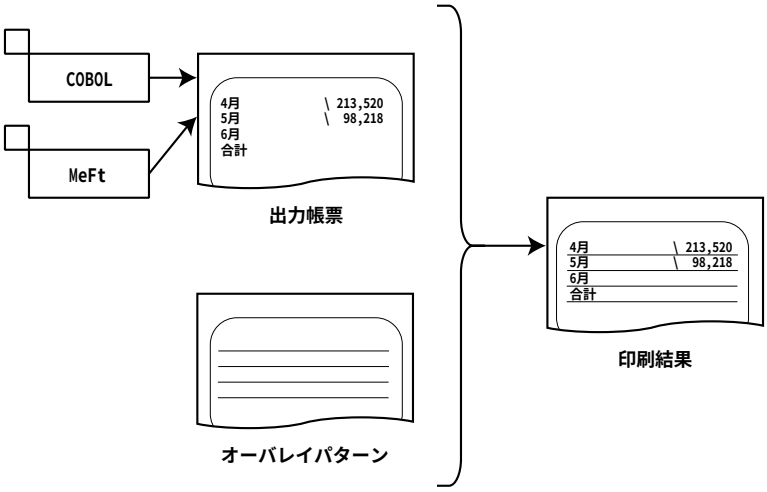
グループ化するオーバレイパターンテーブル名のコード系を指定します．コード系には EBCDIC および ASCII があります．それぞれ指定したコード系でオーバレイパターンテーブル名を指定します．

10.2.4 オーバレイパターンテーブル名

グループ化するオーバレイパターンテーブルの定義体名を指定します．

第 11 章　オーバレイ定義体の運用方法

FORM オーバレイオプションを使って作成したオーバレイ定義体の運用方法を説明します.



目次

11.1 COBOL の出力帳票に重ねて出力する方法 142
11.2 MeFt の出力帳票に重ねて出力する方法 143

11.1 COBOL の出力帳票に重ねて出力する方法

COBOL の出力帳票にオーバレイ定義体を重ねて印刷する場合，COBOL プログラムで制御レコードを指定します.

以下のプログラムは，I 制御レコードを指定し，オーバレイパターン“PTN1”を COBOL の出力帳票に重ねて出力する例です.

```
IDENTIFICATION DIVISION.
  PROGRAM-ID. ICTLX.

  ENVIRONMENT DIVISION.
  CONFIGURATION SECTION.
  SPECIAL-NAMES.
      CTL IS I 制御
  INPUT-OUTPUT SECTION.
  FILE-CONTROL.
      SELECT 印刷ファイル
            ASSIGN TO PRINTER
            ORGANIZATION IS SEQUENTIAL
            FILE STATUS IS 状態.
  DATA DIVISION.
  FILE SECTION.
  FD 印刷ファイル.
  01 I 制御レコード          PIC X(100).
  01 行レコード.
     02 VAL                  PIC X(1).
  WORKING-STORAGE SECTION.
  01 状態                    PIC X(2).
  01 印字データ              PIC X(1)     VALUE" ".
  01 I 制御データ.
     02 ICTL-RECID           PIC X(2)     VALUE "11".
     02 ICTL-M               PIC X        VALUE "1".
     02 ICTL-FOVL            PIC X(4)     VALUE "PTN1".
     02 ICTL-R               PIC 9(3)     VALUE 1.
     02 ICTL-C               PIC 9(3)     VALUE 0.
     02 ICTL-FCB             PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-FORMATID        PIC X(8)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-CMOD            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-S               PIC 9(3)     VALUE 1.
     02 ICTL-T               PIC 9        VALUE 0.
     02 ICTL-FORM            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-XTB1            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-XTB2            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-XTB3            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-XTB4            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-LOAD            PIC X        VALUE SPACE.
     02 ICTL-OFFSTK          PIC X        VALUE SPACE.
     02 ICTL-PRTFORM         PIC X(2)     VALUE "P".
     02 ICTL-SIZE            PIC X(3)     VALUE "A4".
     02 ICTL-HOPPER          PIC X(2)     VALUE "P1".
     02 ICTL-STACKER         PIC X(2)     VALUE "S".
     02 ICTL-SIDE            PIC X        VALUE "F".
     02 ICTL-POST            PIC X        VALUE "F".
     02 ICTL-PRTAREA         PIC X        VALUE "N".
     02 ICTL-BIND            PIC X(4)     VALUE SPACE.
     02 ICTL-WIDTH           PIC 9(4)     VALUE 0.
     02 ICTL-OFFSETPX        PIC 9(4)     VALUE 0.
     02 ICTL-OFFSETPY        PIC 9(4)     VALUE 0.
     02 ICTL-OFFSETLX        PIC 9(4)     VALUE 0.
     02 ICTL-OFFSETLY        PIC 9(4)     VALUE 0.
     02 ICTL-RSV             PIC X(9)     VALUE SPACE.
PROCEDURE DIVISION.
  OPEN OUTPUT 印刷ファイル.
  WRITE I 制御レコード FROM I 制御データ
      AFTER ADVANCING I 制御.
  WRITE 行レコード FROM 印字データ
      AFTER  ADVANCING PAGE.
  CLOSE 印刷ファイル.
END PROGRAM ICTLX.
```

参照 I 制御レコードの詳細，指定内容“COBOL 文法書”

COBOL で指定するオーバレイ定義体は，拡張子（.OVD）と“KOL5”を除いた 4 文字だけが有効になります．例えばオーバレイ定義体名が“KOL5PTN1.OVD”の場合，有効な名前は“PTN1”になります．ファイル名を付けるときに注意してください．

11.2 MeFt の出力帳票に重ねて出力する方法

MeFt の出力帳票に重ねて印刷する場合，以下のいずれかの方法で印刷するオーバレイ定義体を指定します．

- 帳票定義体の“オーバレイ名”にオーバレイ定義体名を指定する
- MeFt のプリンタ情報ファイルにオーバレイ定義体の情報（保存ディレクトリ名，ファイル名，拡張子）を指定する

付録

目次

付録 A FORM のコード系 147
付録 B 画面・帳票定義体のサイズ削減方法 161
付録 C 画面・帳票定義体のサイズ概算方法 163

付録 A　FORM のコード系

FORM で扱えるコード系と，コード変換を行ったときの各コードの対応について説明します.

目次

A.1 FORM で扱えるコード系 148
A.2 コード変換 148

A.1 FORM で扱えるコード系

以下に FORM で扱えるコード系と，そのコード系の半角文字コードと全角文字コードの対応を示します.

コード系	半角コード	全角コード
EBCDIC（カナ文字）	EBCDIC（カナ文字）	JEF
EBCDIC（英小文字）	EBCDIC（英小文字）	JEF
EBCDIC（ASCII）	EBCDIC（ASCII）	JEF
JIS8+ シフト JIS	JIS8	シフト JIS
EUC	ASCII+JIS8 カナ	U90

A.2 コード変換

コード変換方法には，以下の 2 つの方法があります.

- 富士通標準のコード変換
- FORM 独自のコード変換

以下にそれぞれの変換方法を説明します.

A.2.1 富士通標準のコード変換

富士通標準のコード変換については，“FUJITSU 文字資源流通手引書”を参照してください.

A.2.2 FORM 独自のコード変換

半角文字と全角文字とでは，変換方法が異なります．それぞれの場合について説明します.

■半角文字コードの変換

コード変換を行ったときの，半角文字コードの変換と対応について説明します.

(1)EBCDIC コード内での変換

EBCDIC コード内での変換には，以下の 3 通りがあります．この場合，文字コードは変換されません．そのため，変換前とは異なる文字に変換されることがあります.

- カナ文字 ⇔ 英小文字
- 英小文字 ⇔ ASCII
- ASCII ⇔ カナ文字

(2)EBCDIC コードと JIS8 コード間の変換

原則として同一文字の文字コードに変換されます．変換先のコード系に同一文字がない場合は，代替文字が使用されます．代替文字を使用する変換には，以下の 2 通りがあります．

- 代替変換：代替文字と 1 対 1 で対応させて変換する
- 縮退変換：すべて同一の文字（FORM では「？」）に変換する

以下に代替文字を使用する場合の変換規則を示します．

JIS8 コード		EBCDIC コード（カナ文字）		EBCDIC コード（英小文字）		EBCDIC コード（ASCII）	
文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード
!	0x21	|	0x4F	|	0x4F	!	0x21
$	0x24	$	0xE0	\	0x5B	$	0x5B
[	0x5B	£	0x4A	£	0x4A	[	0x4A
\	0x5C	\	0x5B	$	0xE0	＼	0xE0
]	0x5D	!	0x5A	!	0x5A	]	0x5A
^	0x5E	¬	0x5F	¬	0x5F	^	0x5F
|	0x7C	¦	0x6A	¦	0x6A	¦	0x6A
—	0x7E	—	0xA1	—	0xA1	～	0xA1
a ～ Z	0x61 ～ 7A	縮退	?(0x6F)	a ～ Z	正常変換	a ～ Z	正常変換
カナ	0xA0 ～ DF	カナ	正常変換	縮退	?(0x6F)	縮退	?(0x6F)

JIS8 コードの「a」～「z」（0x61 ～ 0x7A）を EBCDIC（カナ文字）コードに変換する場合，および JIS8 コードのカナ文字（0xA0 ～ 0xDF）を EBCDIC（英小文字または ASCII）コードに変換する場合は，縮退変換が必要なため「？」(0x6F) に変換されます．

(3)EBCDIC コードと EUC コード間の変換

EUC コードの半角文字は「ASCII ＋ JIS8 カナ」なので，JIS8 コードと同様の変換が行われます．変換規則は，「(2)EBCDIC コードと JIS8 コード間の変換」を参照してください．ただし，EUC コードのカナ文字（0xA0 ～ 0xDF）には，先頭に「0x8E」が付加されて 2 バイト文字になります．

(4)JIS8 コードと EUC コード間の変換

EUC コードの半角文字は「ASCII ＋ JIS8 カナ」なので，JIS8 コードと同様の変換が行われます．したがって文字コードの変換は行われません．ただし，EUC コードのカナ文字（0xA0 ～ 0xDF）には，先頭に「0x8E」が付加されて 2 バイト文字になります．

■全角文字コードの変換

コード変換を行ったときの，全角文字コードの変換と対応について説明します.

(1) 各コード間の変換規則

以下に各コード間の変換規則を示します.

注) 図中で示したシフト JIS コードは相互変換の対応関係に重点をおいており，実際には以下のように定義されています.

JIS文字セット

(区)	
1	JIS非漢字 0x8140～0x84FC
9	未定義 0x8540～0x889E
16	第一水準漢字 0x889F～0x979E
48	第二水準漢字 0x979F～0xEAFC
85	外字 0xEB40～0xEBFC
87	未定義 0xEC40～0xEFFC
94	

富士通コード系

(区)	
1	JIS非漢字 0x8140～0x84FC
9	未定義 0x8540～0x889E
16	第一水準漢字 0x889F～0x979E
48	第二水準漢字 0x979F～0xEAFC
85	外字 0xEB40～0xEBFC
87	富士通拡張非漢字 0xEC40～0xEFFC
94	
95	外字 0xF040～0xF9FC
115	富士通拡張非漢字 0xFA40～0xFCFC
120	

マイクロソフト標準キャラクタセット

(区)	
1	JIS非漢字 0x8140～0x84FC
9	未定義 0x8540～0x86FC
13	NEC特殊文字 0x8740～0x879E
14	未定義 0x879F～0x889E
16	第一水準漢字 0x889F～0x979E
48	第二水準漢字 0x979F～0xEAFC
85	未定義 0xEB40～0xECFC
89	NEC/IBM選定文字 0xED40～0xEEFC
93	未定義
94	0xEF40～0xEFFC
95	外字 0xF040～0xF9FC
115	IBM拡張文字 0xFA40～0xFCFC
120	

(2)JEF コードとシフト JIS コード間の変換（不規則変換部分）

- 第一水準漢字と第二水準漢字の入れ換え

  字体重視の変換を行うために以下の 44 文字については，特別な対応付けによって変換されます.

	一水	二水
文字	JEF コード	シフト JIS
鰺	B0B3	E9CB
鶯	B2A9	E9F2
蠣	B3C2	E579
攪	B3C9	9D98
竈	B3F6	E27D
灌	B4C3	9FF3
諫	B4D2	E67C
頸	B7DB	E8F2
礦	B9DC	E1E6
薬	BCC9	E541
靱	BFD9	E8D5

	一水	二水
文字	JEF コード	シフト JIS
賤	C1A8	E6CB
壷	C4DB	9AE2
礪	C5D7	E1E8
橋	C5EE	9E8D
濤	C5F3	6FB7
邇	C6F6	E78E
蠅	C7E8	E5A2
檜	C9B0	9E77
儘	CBF9	98D4
藪	CCF9	E54D
籠	CFB6	E2C4

	二水	一水
文字	JEF コード	シフト JIS
鰺	F2CD	88B1
鶯	F2F4	89A7
蛎	E9DA	8A61
攪	D9F8	8A68
竈	E3DE	8A96
瀧	DEF5	8AC1
諫	EBDD	8AD0
頸	F0F4	8C7A
砿	E2E8	8D7B
蕊	E9A2	8EC7
靭	F0D7	9078

	二水	一水
文字	JEF コード	シフト JIS
賤	ECCD	9147
壷	D4E4	92D9
砺	E2EA	9376
梼	DBED	938E
涛	DEB9	9393
迩	EDEE	93F4
蝿	EAA4	9488
桧	DBD8	954F
侭	D0D6	9699
薮	E9AE	96F7
篭	E4C6	9855

- JEF 拡張非漢字と JIS 非漢字の入れ換え

  JEF 拡張非漢字は，基本的にシフト JIS コードに変換できませんが，以下の 71 文字の JEF 拡張非漢字は相当する文字がシフト JIS コードの基本非漢字の領域中に存在するため，特別に対応して変換されます.

文字	JEF コード	シフト JIS
¬	76A7	81CA
∵	76A8	81E6
≒	76A9	81E0
≡	76AA	81DF
Å	76D1	81F0
‰	76D3	81F1
┴	7CC0	84B8
┌	7CC1	84A1
┐	7CC2	84A2
┘	7CC3	84A3
└	7CC4	84A4
┬	7CC5	84A6
┴	7CC6	84A8
├	7CC7	84A5
┤	7CC8	84A7
┼	7CC9	84A9
┣	7CCA	84B5
┳	7CCB	84B6

文字	JEF コード	シフト JIS
┫	7CCC	84B7
┻	7CCD	84BE
╋	7CCE	84B9
━	7CD1	849F
┃	7CD2	84A0
┏	7CE6	84AC
┓	7CE7	84AD
┗	7CE8	84AE
┛	7CE9	84AF
┳	7CF1	84B1
┻	7CF2	84B3
┣	7CF3	84B0
┫	7CF4	84B2
╋	7CF5	84B4
━	7CF6	84AA
┃	7CF7	84AB
┻	7FA1	84BD
┣	7FA2	84BA

文字	JEF コード	シフト JIS
┳	7FA3	84BB
┫	7FA4	84BC
∈	7FD0	81B8
∋	7FD1	81B9
⊆	7FD2	81BA
⊇	7FD3	81BB
⊂	7FD4	81BC
⊃	7FD5	81BD
∪	7FD6	81BE
∩	7FD7	81BF
∧	7FD8	81C8
∨	7FD9	81C9
⇒	7FDA	81CB
⇔	7FDB	81CC
∀	7FDC	81CD
∃	7FDD	81CE
∠	7FDE	81DA
⊥	7FDF	81DB

文字	JEF コード	シフト JIS
⌒	7FE0	81DC
∂	7FE1	81DD
∇	7FE2	81DE
≪	7FE3	81E1
≫	7FE4	81E2
√	7FE5	81E3
∞	7FE6	81E4
∝	7FE7	81E5
∫	7FE8	81E7
∬	7FE9	81E8
♯	7FEA	81F2
♭	7FEB	81F3
♪	7FEC	81F4
†	7FED	81F5
‡	7FEE	81F6
¶	7FEF	81F7
○	7FF0	81FC

(3)JEF コードと U90 コード間の変換（不規則変換部分）

字体重視の変換を行うために，以下に示す特別な対応付けによって変換されます.

- 第一水準漢字と第二水準漢字の入れ換え

	一水	二水
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
鰺	B0B3	F2CD
鶯	B2A9	F2F4
螟	B3C2	E9DA
攪	B3C9	D9F8
竈	B3F6	E3DE
灌	B4C3	DEF5
諫	B4D2	EBDD
堯	B6C6	F4A1
頸	B7DB	F0F4
礦	B9DC	E2E8
藥	BCC9	E9A2
靱	BFD9	F0D7
賤	C1A8	ECCD
壺	C4DB	D4E4
礪	C5D7	E2EA
檮	C5EE	DBED
濤	C5F3	DEB9
邇	C6F6	EDEE
蠅	C7E8	EAA4
檜	C9B0	DBD8
槇	CBEA	F4A2
儘	CBF9	D0D6
藪	CCF9	E9AE
遙	CDDA	F4A3
籠	CFB6	E4C6
計	２５文字	

	二水	一水
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
鰺	F2CD	B0B3
鶯	F2F4	B2A9
螟	E9DA	B3C2
攪	D9F8	B3C9
竈	E3DE	B3F6
灌	DEF5	B4C3
諫	EBDD	B4D2
頸	F0F4	B7DB
砿	E2E8	B9DC
蕊	E9A2	BCC9
靭	F0D7	BFD9
賤	ECCD	C1A8
壷	D4E4	C4DB
砺	E2EA	C5D7
椿	DBED	C5EE
涛	DEB9	C5F3
迩	EDEE	C6F6
蝿	EAA4	C7E8
桧	DBD8	C9B0
侭	D0D6	CBF9
薮	E9AE	CCF9
篭	E4C6	CFB6
瑤	E0F6	F4A4
計	２３文字	

	備　考		
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進	
※	F4A1	8FA7C8	(a)堯
※	F4A2	8FB4C4	(b)槇
※	F4A3	8FD0EB	(c)遥
※	F4A4	8FB9A2	(d)瑤

：第二水準漢字どうしの入れ換え
※　：JEF 未定義文字
(a)(b)(c)(d)：『留意事項』を参照

- 第一水準漢字と拡張漢字の入れ換え

	一水	拡張
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
拐	B2FD	8FAFBB
喝	B3E5	8FA7B8
褐	B3EC	8FC3EE
靴	B7A4	8FCCCB
慧	B7C5	8FADC2
荊	B7D5	8FC1EA
隙	B7E4	8FC8D2
嫌	B7F9	8FA9EC
昂	B9B7	8FB0FC
溝	B9C2	8FB7C6
冴	BAE3	8FA4A5
遮	BCD7	8FD0EC
渚	BDED	8FB5AF
梢	BEBF	8FB2E4
翠	BFE9	8FBFFE
逝	C0C2	8FC7F5
栓	C0F2	8FB2E3
濯	C2F5	8FB7C7
琢	C2F6	8FB9A1
棚	C3AA	8FB2E5
塚	C4CD	8FA7C9
鴇	C6BE	8FCEF6
那	C6E1	8FC8D9
扉	C8E2	8FAEF9
頻	C9D1	8FCCFB
泡	CBA2	8FB5AE
繭	CBFA	8FC3A1
癒	CCFE	8FBAF4
邂	CECB	8FD0ED
計	２９文字	

	拡張	一水
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
拐	4FBB	B2FD
喝	47B8	B3E5
褐	63EE	B3EC
靴	6CCB	B7A4
慧	4DC2	B7C5
荊	61EA	B7D5
隙	68D2	B7E4
嫌	49EC	B7F9
昂	50FC	B9B7
溝	57C6	B9C2
冴	44A5	BAE3
遮	70EC	BCD7
渚	55AF	BDED
梢	52E4	BEBF
翠	5FFE	BFE9
逝	67F5	C0C2
栓	52E3	C0F2
濯	57C7	C2F5
琢	59A1	C2F6
棚	52E5	C3AA
塚	47C9	C4CD
鴇	6EF6	C6BE
那	68D9	C6E1
扉	4EF9	C8E2
頻	6CFB	C9D1
泡	55AE	CBA2
繭	63A1	CBFA
癒	5AF4	CCFE
邂	70ED	CECB
堯	47C8	B6C6
槙	54C4	CBEA
遥	70EB	CDDA
計	３２文字	

	備　考		
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進	
堯	B6C6	F4A1	(a)
槙	CBEA	F4A2	(b)
遥	CDDA	F4A3	(c)

(a)(b)(c)：『留意事項』を参照

- 第二水準漢字と拡張漢字の入れ換え

	二水	拡張
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
冕	D1CB	8FA3EE
朞	DBAE	8FB2CD
枴	DBCA	8FD0CA
槐	DBF4	8FD0CC
樮	DCD3	8FCFD3
皓	E2AB	8FBBAC
翔	E6C6	8FBFFD
赳	ECE2	8FC6B8
迪	EDEC	8FC7F4
※	F4A1	8FA7C8
※	F4A2	8FB4C4
※	F4A3	8FD0EB
※	F4A4	8FB9A2
※	F4A5	8FA4A4
※	F4A6	8FB8A8
計	１５文字	

	拡張	二水
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進
冕	43EE	D1CB
朞	52CD	DBAE
枴	70CA	DBCA
槐	70CC	DBF4
樮	6FD3	DCD3
皓	5BAC	E2AB
翔	5FFD	E6C6
赳	66B8	ECE2
迪	67F4	EDEC
瑤	59A2	E0F6
凜	44A4	F4A5
熙	58A8	F4A6
計	１２文字	

	備　考		
文字	JEFｺｰﾄﾞ 16進	U90ｺｰﾄﾞ 16進	
堯	47C8	B6C6	(a)
槙	54C4	CBEA	(b)
遙	70EB	CDDA	(c)
瑤	E0F6	F4A4	(d)

※　　：JEF 未定義文字
(a)(b)(c)(d)：『留意事項』を参照

- 基本非漢字と拡張非漢字の入れ換え

文字	JEF コード	U90 コード
═	71A1	FAE1
╒	71A3	FAE2
╓	71A5	FAE3
╔	71A7	FAE4
╕	71A9	FAE5
╖	71C3	FAE6
╗	71C9	FAE7
╘	71D1	FAE8
╙	71D4	FAE9
╚	71D7	FAEA
╛	71DA	FAEB
╜	71DD	FAEC
╝	71E3	FAED
╞	71E5	FAEE
╟	71E7	FAEF
╠	71EE	FAF0
╡	71F4	FAF1
╢	71F5	FAF2
╣	71F6	FAF3
╤	72A1	FAF4
╥	72A3	FAF5
╦	72A5	FAF6
╧	72A7	FAF7
╨	72A9	FAF8
╩	72AC	FAF9
╪	72B0	FAFA
╫	72B2	FAFB
╬	72B4	FAFC
▁	72BC	FAFD
▂	72BE	FAFE
▃	72C2	FBFE
▄	72C3	FCE1
▅	72C7	FCE2
▆	72C9	FCE3
▇	72D0	FCE4
▉	72D1	FCE5
▊	72D4	FCE6
▋	72D6	FCE7
▌	72D7	FCE8
▍	72D9	FCE9
▎	72DA	FCEA
▏	72DC	FCEB
▐	72DD	FCEC
▔	72E3	FCED
▕	72E4	FCEE
▖	72E5	FCEF
▗	72E7	FCF0
▘	72EE	FCF1
▙	72EF	FCF2
▚	72F4	FCF3
▛	72F5	FCF4
▜	72F6	FCF5
▝	72F7	FCF6
▞	73A1	FCF7
▟	73A3	FCF8
■	73A4	FCF9
□	73A5	FCFA
▢	73A7	FCFB
▣	73A9	FCFC
▤	73AA	FCFD
▥	73AC	FCFE
▦	74A1	FAAC
▧	74A3	FAAE
▨	74A4	FAAF
▩	74A5	FAB0
▪	74A7	FABC
▫	74A9	FABE
▬	74AA	FABF
▭	74AB	FAC0

文字	JEF コード	U90 コード
▮	74B0	FACC
▯	74B2	FACE
▰	74B3	FACF
▱	74B4	FAD0
▲	74BA	FADC
△	74BC	FADE
▴	74BD	FADF
▵	74BE	FAE0
▶	74BF	FCA1
▷	74C0	FCA2
▸	74C1	FCA3
▹	74C2	FCA4
►	74C3	FCA5
▻	74C5	FCA6
▼	74C6	FCA7
▽	74C7	FCA8
▾	74C8	FCA9
▿	74C9	FCAA
◀	74CB	FCAB
◁	74CC	FCAC
◂	74CD	FCAD
◃	74CE	FCAE
◆	74D0	FCAF
◇	74D1	FCB0
◈	74D3	FCB1
◉	74D4	FCB2
◊	74D5	FCB3
○	74D6	FCB4
◎	74D7	FCB5
◐	74D8	FCB6
◑	74D9	FCB7
◒	74DA	FCB8
◓	74DB	FCB9
◔	74DC	FCBA
◕	74DD	FCBB
◖	74DF	FCBC
◗	74E0	FCBD
◘	74E1	FCBE
◙	74E2	FCBF
◚	74E3	FCC0
◛	74E4	FCC1
◜	74E5	FCC2
◝	74E6	FCC3
◞	74E7	FCC4
◟	74E8	FCC5
◠	74E9	FCC6
◡	74EA	FCC7
◢	74EC	FCC8
◣	74ED	FCC9
◤	74EE	FCCA
◥	74EF	FCCB
★	74F0	FCCC
☆	74F1	FCCD
☉	74F3	FCCE
☎	74F4	FCCF
☏	74F5	FCD0
♂	74F6	FCD1
♀	74F7	FCD2
♪	74F8	FCD3
♭	74F9	FCD4
♯	74FA	FCD5
⊂	74FB	FCD6
⊃	74FC	FCD7
⊆	74FD	FCD8
⊇	74FE	FCD9
∈	75A1	FCDA
∋	75A2	FCDB
∠	75A3	FCDC
∮	75A4	FCDD

文字	JEF コード	U90 コード
∃	75A5	FCDE
∀	75A6	FCDF
∇	75A7	FCE0
∞	75AB	FDE2
∝	75AC	FDE3
∫	75AE	FDE8
∬	75AF	FDE9
∩	75B0	FDEA
∪	75B1	FDEB
∧	75B2	FDEC
∨	75B3	FDFB
∑	75B4	FDFC
∏	75B5	FDFD
∂	75B6	FDFE
∥	75B7	FDF7
∥	75B8	FDF8
∥	75B9	FDF9
∥	75BA	FDFA
∥	75BB	FDE5
∥	75BC	FDE4
∥	75BD	FDE6
∥	75BE	FDE7
∠	76A7	A2CC
∵	76A8	A2E8
≒	76A9	A2E2
≡	76AA	A2E1
Å	76D1	A2F2
‰	76D3	A2F3
in	76D6	FDF1
インチ	76F1	FDF2
½	76FC	FDF3
¼	76FD	FDF4
ゔ	78C5	A4F4
か	78C6	A4F5
け	78C7	A4F6
㌔	7AA1	FAA1
㌢	7AA2	FAA2
㌍	7AA3	FAA3
㌘	7AA4	FAA4
㌧	7AA5	FAA5
㌃	7AA6	FAA6
㌶	7AA7	FAA7
㍑	7AA8	FAA8
㍗	7AA9	FAA9
㍍	7AAA	FAAA
㍊	7AAB	FAAB
㎡	7AB8	FAAD
㎏	7AC1	FAC1
㎞	7AC2	FAC2
㎜	7AC3	FAC3
㎝	7AC4	FAC4
㎜	7AC5	FAC5
㎜	7AC6	FAC6
㎜	7AC7	FAC7
㎜	7AC8	FAC8
㎜	7AC9	FAC9
㎜	7ACA	FACA
㎜	7ACB	FACB
㎜	7AD8	FACD
㎜	7ADD	FBE0
㎜	7ADE	FBBF
㎜	7ADF	FBC0
㎜	7AE0	FBDF
㎜	7AE1	FAD1
㎜	7AE2	FAD2
㎜	7AE3	FAD3
㎜	7AE4	FAD4
㎜	7AE5	FAD5
㎜	7AE6	FAD6

文字	JEF コード	U90 コード
㎜	7AE7	FAD7
㎜	7AE8	FAD8
㎜	7AE9	FAD9
㎜	7AEA	FADA
㎜	7AEB	FADB
㎜	7AF8	FADD
㎜	7BA1	FAB1
㎜	7BA2	FAB2
㎜	7BA3	FAB3
㎜	7BA4	FAB4
㎜	7BA5	FAB5
㎜	7BA6	FAB6
㎜	7BA7	FAB7
㎜	7BA8	FAB8
㎜	7BA9	FAB9
㎜	7BAA	FABA
㎜	7BAB	FABB
㎜	7BB8	FABD
→	7BCD	FDED
←	7BCE	FDEE
↑	7BCF	FDEF
↓	7BD0	FDF0
⋰	7CA1	FBA1
⋰	7CA2	FBA2
⋰	7CA3	FBA4
⋰	7CA4	FBA3
⋰	7CA5	FBA9
⋰	7CA6	FBA7
⋰	7CA7	FBA8
⋰	7CA8	FBAA
⋰	7CA9	FBAB
⋰	7CAA	FBA5
⋰	7CAB	FBA6
┼	7CAC	FBF2
┼	7CAD	FBB2
┼	7CAE	FBF4
┼	7CAF	FBB4
┼	7CB0	FBF6
┼	7CB1	FBB6
┼	7CB2	FBF8
┼	7CB3	FBB8
┼	7CB4	FBBA
┼	7CB5	FBFA
┼	7CC0	A8BA
┼	7CC1	A8A3
┼	7CC2	A8A4
┼	7CC3	A8A5
┼	7CC4	A8A6
┼	7CC5	A8A8
┼	7CC6	A8AA
┼	7CC7	A8A7
┼	7CC8	A8A9
┼	7CC9	A8AB
┼	7CCA	A8B7
┼	7CCB	A8B8
┼	7CCC	A8B9
┼	7CCD	A8C0
┼	7CCE	A8BB
┼	7CD1	A8A1
┼	7CD2	A8A2
┼	7CE6	A8AE
┼	7CE7	A8AF
┼	7CE8	A8B0
┼	7CE9	A8B1
┼	7CEA	FBD2
┼	7CEB	FBD4
┼	7CEC	FBD6
┼	7CED	FBD8
┼	7CEE	FBBB

文字	JEF コード	U90 コード
∈	A2BA	8FDCD0
∋	A2BB	8FDCD1
⊆	A2BC	8FDCD2
⊇	A2BD	8FDCD3
⊂	A2BE	8FDCD4
⊃	A2BF	8FDCD5
∪	A2C0	8FDCD6
∩	A2C1	8FDCD7
∧	A2CA	8FDCD8
∨	A2CB	8FDCD9
⇒	A2CD	8FDCDA
⇔	A2CE	8FDCDB
∀	A2CF	8FDCDC
∃	A2D0	8FDCDD
∠	A2DC	8FDCDE
⊥	A2DD	8FDCDF
⌒	A2DE	8FDCB0
∂	A2DF	8FDCB1
∇	A2E0	8FDCB2
≪	A2E3	8FDCB3
≫	A2E4	8FDCB4
√	A2E5	8FDCB5
∽	A2E6	8FDCB6
∝	A2E7	8FDCB7
∫	A2E9	8FDCB8
∬	A2EA	8FDCB9
♯	A2F4	8FDCBA
♭	A2F5	8FDCBB
♪	A2F6	8FDCBC
†	A2F7	8FDCBD
‡	A2F8	8FDCBE
¶	A2F9	8FDCBF
○	A2FE	8FDCF0
─	A8A1	8FD9D1
┌	A8A2	8FD9D2
┐	A8A3	8FD9C1
┘	A8A4	8FD9C2
└	A8A5	8FD9C3
┴	A8A6	8FD9C4
┬	A8A7	8FD9C7
┤	A8A8	8FD9C5
├	A8A9	8FD9C8
┼	A8AA	8FD9C6
━	A8AB	8FD9C9
┏	A8AC	8FD9F6
┓	A8AD	8FD9F7
┗	A8AE	8FD9E6
┛	A8AF	8FD9E7
┣	A8B0	8FD9E8
┫	A8B1	8FD9E9
┻	A8B2	8FD9F3
┳	A8B3	8FD9F1
╋	A8B4	8FD9F4
┠	A8B5	8FD9F2
┨	A8B6	8FD9F5
┯	A8B7	8FD9CA
┷	A8B8	8FD9CB
┿	A8B9	8FD9CC
┝	A8BA	8FD9C0
┥	A8BB	8FD9CE
┰	A8BC	8FDCA2
┸	A8BD	8FDCA3
┼	A8BE	8FDCA4
┬	A8BF	8FDCA1
┴	A8C0	8FD9CD
┌	A8E3	8FD9C1

文字	JEF コード	U90 コード
¬	A2CC	F7A7
≡	A2E1	F7AA
≒	A2E2	F7A9
∵	A2E8	F7A8
Å	A2F2	F7D1
‰	A2F3	F7D3
づ	A4F4	F9C5
か	A4F5	F9C6
け	A4F6	F9C7
in	FDF1	F7D6
㌢	FDF2	F7F1
½	FDF3	F7FC
¼	FDF4	F7FD

文字	JEF コード	U90 コード
⊢	7FA2	A8BC
┬	7FA3	A8BD
┤	7FA4	A8BE
┴	7FA5	FBB3
┼	7FA6	FBB5
┘	7FA7	FBB7
┐	7FA8	FBB9
⋮	7FAD	FBAC
⋮	7FAE	FBAD
⋮	7FAF	FBAE
⋮	7FB0	FBB1
⋮	7FB1	FBB0
⋮	7FB2	FBAF
⋮	7FB3	FBEC
⋮	7FB4	FBED
⋮	7FB5	FBEE
⋮	7FB6	FBF1
⋮	7FB7	FBF0
⋮	7FB8	FBEF
⋮	7FBF	FBCC
⋮	7FC0	FBCD
⋮	7FC1	FBCE
⋮	7FC2	FBD1
⋮	7FC3	FBD0
⋮	7FC4	FBCF
⋮	7FCD	FBFC
⋮	7FCE	FBBE
⋮	7FCF	FBFD
⋮	7FD0	A2BA
⋮	7FD1	A2BB
⋮	7FD2	A2BC
⋮	7FD3	A2BD
⋮	7FD4	A2BE
⋮	7FD5	A2BF
⋮	7FD6	A2C0
⋮	7FD7	A2C1
⋮	7FD8	A2CA
⋮	7FD9	A2CB
⋮	7FDA	A2CD
⋮	7FDB	A2CE
⋮	7FDC	A2CF
⋮	7FDD	A2D0
⋮	7FDE	A2DC
⋮	7FDF	A2DD
⋮	7FE0	A2DE
⋮	7FE1	A2DF
⋮	7FE2	A2E0
⋮	7FE3	A2E3
⋮	7FE4	A2E4
⋮	7FE5	A2E5
⋮	7FE6	A2E6
⋮	7FE7	A2E7
⋮	7FE8	A2E9
⋮	7FE9	A2EA
⋮	7FEA	A2F4
⋮	7FEB	A2F5
⋮	7FEC	A2F6
⋮	7FED	A2F7
⋮	7FEE	A2F8
⋮	7FEF	A2F9
⋮	7FF0	A2FE
⋮	7FF1	FBDE
⋮	7FF2	FBBD
⋮	7FF3	FBBC
⋮	7FF4	FBDD
⋮	7FF5	FBDC

文字	JEF コード	U90 コード
┼	7CEF	FBDA
┴	7CF1	A8B3
┬	7CF2	A8B5
┤	7CF3	A8B2
├	7CF4	A8B4
┼	7CF5	A8B6
─	7CF6	A8AC
─	7CF7	A8AD
、	7DA1	FDA1
。	7DA2	FDA2
，	7DA3	FDA3
．	7DA4	FDA4
―	7DA5	FDA5
―	7DA6	FDA6
―	7DA7	FDA7
―	7DA8	FDA8
―	7DA9	FDA9
～	7DAA	FDAA
‖	7DAB	FDAB
―	7DAC	FDAC
…	7DAD	FDAD
‥	7DAE	FDAE
‘	7DAF	FDAF
’	7DB0	FDB0
“	7DB1	FDB1
”	7DB2	FDB2
（	7DB3	FDB3
〔	7DB4	FDB4
［	7DB5	FDB5
｛	7DB6	FDB6
〈	7DB7	FDB7
《	7DB8	FDB8
「	7DB9	FDB9
『	7DBA	FDBA
【	7DBB	FDBB
）	7DBC	FDBC
〕	7DBD	FDBD
］	7DBE	FDBE
｝	7DBF	FDBF
〉	7DC0	FDC0
》	7DC1	FDC1
」	7DC2	FDC2
『	7DC3	FDC3
』	7DC4	FDC4
【	7DC5	FDC5
あ	7DC6	FDC6
い	7DC7	FDC7
う	7DC8	FDC8
え	7DC9	FDC9
お	7DCA	FDCA
つ	7DCB	FDCB
や	7DCC	FDCC
ゆ	7DCD	FDCD
よ	7DCE	FDCE
わ	7DCF	FDCF
ア	7DD0	FDD0
イ	7DD1	FDD1
ウ	7DD2	FDD2
エ	7DD3	FDD3
オ	7DD4	FDD4
ツ	7DD5	FDD5
ャ	7DD6	FDD6
ュ	7DD7	FDD7
ョ	7DD8	FDD8
ワ	7DD9	FDD9
カ	7DDA	FDDA
ケ	7DE6	FDDB
か	7DE7	FDDC
け	7FA1	A8BF

：文字の定義されていないコード（表示文字は参考のため）

文字	JEF コード	U90 コード
	FAA1	8FD7A1
	FAA2	8FD7A2
	FAA3	8FD7A3
	FAA4	8FD7A4
	FAA5	8FD7A5
	FAA6	8FD7A6
	FAA7	8FD7A7
	FAA8	8FD7A8
	FAA9	8FD7A9
	FAAA	8FD7AA
	FAAB	8FD7AB
	FAAC	8FD4A1
	FAAD	8FD7B8
	FAAE	8FD4A3
	FAAF	8FD4A4
	FAB0	8FD4A5
	FAB1	8FD8A1
	FAB2	8FD8A2
	FAB3	8FD8A3
	FAB4	8FD8A4
	FAB5	8FD8A5
	FAB6	8FD8A6
	FAB7	8FD8A7
	FAB8	8FD8A8
	FAB9	8FD8A9
	FABA	8FD8AA
	FABB	8FD8AB
	FABC	8FD4A7
	FABD	8FD8B8
	FABE	8FD4A9
	FABF	8FD4AA
	FAC0	8FD4AB
	FAC1	8FD7C1
	FAC2	8FD7C2
	FAC3	8FD7C3
	FAC4	8FD7C4
	FAC5	8FD7C5
	FAC6	8FD7C6
	FAC7	8FD7C7
	FAC8	8FD7C8
	FAC9	8FD7C9
	FACA	8FD7CA
	FACB	8FD7CB
	FACC	8FD4B0
	FACD	8FD7D8
	FACE	8FD4B2
	FACF	8FD4B3
	FAD0	8FD4B4
	FAD1	8FD7B1
	FAD2	8FD7B2
	FAD3	8FD7B3
	FAD4	8FD7B4
	FAD5	8FD7B5
	FAD6	8FD7B6
	FAD7	8FD7B7
	FAD8	8FD7B8
	FAD9	8FD7B9
	FADA	8FD7BA
	FADB	8FD7BB
	FADC	8FD4BA
	FADD	8FD7F8
	FADE	8FD4BC
	FADF	8FD4BD
	FAE0	8FD4BE
	FAE1	8FD1A1
	FAE2	8FD1A3
	FAE3	8FD1A5
	FAE4	8FD1A7
	FAE5	8FD1A9

文字	JEF コード	U90 コード
	FAE6	8FD1C3
	FAE7	8FD1C9
	FAE8	8FD1D1
	FAE9	8FD1D4
	FAEA	8FD1D7
	FAEB	8FD1DA
	FAEC	8FD1DD
	FAED	8FD1E3
	FAEE	8FD1E5
	FAEF	8FD1E7
	FAF0	8FD1EE
	FAF1	8FD1F4
	FAF2	8FD1F5
	FAF3	8FD1F6
	FAF4	8FD2A1
	FAF5	8FD2A3
	FAF6	8FD2A5
	FAF7	8FD2A7
	FAF8	8FD2A9
	FAF9	8FD2AC
	FAFA	8FD2B0
	FAFB	8FD2B2
	FAFC	8FD2B4
	FAFD	8FD2BC
	FAFE	8FD2BE
	FBA1	8FD9A1
	FBA2	8FD9A2
	FBA3	8FD9A4
	FBA4	8FD9A3
	FBA5	8FD9AA
	FBA6	8FD9AB
	FBA7	8FD9A6
	FBA8	8FD9A7
	FBA9	8FD9A5
	FBAA	8FD9A8
	FBAB	8FD9A9
	FBAC	8FDCAD
	FBAD	8FDCAE
	FBAE	8FDCAF
	FBAF	8FDCB2
	FBB0	8FDCB1
	FBB1	8FDCB0
	FBB2	8FD9AD
	FBB3	8FDCA5
	FBB4	8FD9AF
	FBB5	8FDCA6
	FBB6	8FD9B1
	FBB7	8FDCA7
	FBB8	8FD9B3
	FBB9	8FDCA8
	FBBA	8FD9B4
	FBBB	8FD9BE
	FBBC	8FDCF3
	FBBD	8FDCF2
	FBBE	8FDCCE
	FBBF	8FD7DE
	FBC0	8FD7E0
	FBCC	8FDCBF
	FBCD	8FDCC0
	FBCE	8FDCC1
	FBCF	8FDCC4
	FBD0	8FDCC3
	FBD1	8FDCC2
	FBD2	8FD9BA
	FBD4	8FD9BB
	FBD6	8FD9BC
	FBD8	8FD9BD
	FBDA	8FD9BF
	FBDC	8FDCF5

文字	JEF コード	U90 コード
	FBDD	8FDCF4
	FBDE	8FDCF1
	FBE0	8FD7DD
	FBEC	8FDCB3
	FBED	8FDCB4
	FBEE	8FDCB5
	FBEF	8FDCB8
	FBF0	8FDCB7
	FBF1	8FDCB6
	FBF2	8FD9AC
	FBF4	8FD9AE
	FBF6	8FD9B0
	FBF8	8FD9B2
	FBFA	8FD9B5
	FBFC	8FDCCD
	FBFD	8FDCCF
	FBFE	8FD2C2
	FCA1	8FD4BF
	FCA2	8FD4C0
	FCA3	8FD4C1
	FCA4	8FD4C2
	FCA5	8FD4C3
	FCA6	8FD4C5
	FCA7	8FD4C6
	FCA8	8FD4C7
	FCA9	8FD4C8
	FCAA	8FD4C9
	FCAB	8FD4CB
	FCAC	8FD4CC
	FCAD	8FD4CD
	FCAE	8FD4CE
	FCAF	8FD4D0
	FCB0	8FD4D1
	FCB1	8FD4D3
	FCB2	8FD4D4
	FCB3	8FD4D5
	FCB4	8FD4D6
	FCB5	8FD4D7
	FCB6	8FD4D8
	FCB7	8FD4D9
	FCB8	8FD4DA
	FCB9	8FD4DB
	FCBA	8FD4DC
	FCBB	8FD4DD
	FCBC	8FD4DF
	FCBD	8FD4E0
	FCBE	8FD4E1
	FCBF	8FD4E2
	FCC0	8FD4E3
	FCC1	8FD4E4
	FCC2	8FD4E5
	FCC3	8FD4E6
	FCC4	8FD4E7
	FCC5	8FD4E8
	FCC6	8FD4E9
	FCC7	8FD4EA
	FCC8	8FD4EC
	FCC9	8FD4ED
	FCCA	8FD4EE
	FCCB	8FD4EF
	FCCC	8FD4F0
	FCCD	8FD4F1
	FCCE	8FD4F3
	FCCF	8FD4F4
	FCD0	8FD4F5
	FCD1	8FD4F6
	FCD2	8FD4F7
	FCD3	8FD4F8
	FCD4	8FD4F9

文字	JEF コード	U90 コード
	FCD5	8FD4FA
	FCD6	8FD4FB
	FCD7	8FD4FC
	FCD8	8FD4FD
	FCD9	8FD4FE
	FCDA	8FD5A1
	FCDB	8FD5A2
	FCDC	8FD5A3
	FCDD	8FD5A4
	FCDE	8FD5A5
	FCDF	8FD5A6
	FCE0	8FD5A7
	FCE1	8FD2C3
	FCE2	8FD2C7
	FCE3	8FD2C9
	FCE4	8FD2D0
	FCE5	8FD2D1
	FCE6	8FD2D4
	FCE7	8FD2D6
	FCE8	8FD2D7
	FCE9	8FD2D9
	FCEA	8FD2DA
	FCEB	8FD2DC
	FCEC	8FD2DD
	FCED	8FD2E3
	FCEE	8FD2E4
	FCEF	8FD2E5
	FCF0	8FD2E7
	FCF1	8FD2EE
	FCF2	8FD2EF
	FCF3	8FD2F4
	FCF4	8FD2F5
	FCF5	8FD2F6
	FCF6	8FD2F7
	FCF7	8FD3A1
	FCF8	8FD3A3
	FCF9	8FD3A4
	FCFA	8FD3A5
	FCFB	8FD3A7
	FCFC	8FD3A9
	FCFD	8FD3AA
	FCFE	8FD3AC
	FDA1	8FDAA1
	FDA2	8FDAA2
	FDA3	8FDAA3
	FDA4	8FDAA4
	FDA5	8FDAA5
	FDA6	8FDAA6
	FDA7	8FDAA7
	FDA8	8FDAA8
	FDA9	8FDAA9
	FDAA	8FDAAA
	FDAB	8FDAAB
	FDAC	8FDAAC
	FDAD	8FDAAD
	FDAE	8FDAAE
	FDAF	8FDAAF
	FDB0	8FDAB0
	FDB1	8FDAB1
	FDB2	8FDAB2
	FDB3	8FDAB3
	FDB4	8FDAB4
	FDB5	8FDAB5
	FDB6	8FDAB6
	FDB7	8FDAB7
	FDB8	8FDAB8
	FDB9	8FDAB9
	FDBA	8FDABA
	FDBB	8FDABB

：文字の定義されていないコード（表示文字は参考のため）

文字	JEF コード	U90 コード
〉	FDBC	8FDABC
《	FDBD	8FDABD
「	FDBE	8FDABE
」	FDBF	8FDABF
『	FDC0	8FDAC0
』	FDC1	8FDAC1
【	FDC2	8FDAC2
】	FDC3	8FDAC3
あ	FDC4	8FDAC4
い	FDC5	8FDAC5
う	FDC6	8FDAC6
え	FDC7	8FDAC7
お	FDC8	8FDAC8
	FDC9	8FDAC9

文字	JEF コード	U90 コード
つ	FDCA	8FDACA
や	FDCB	8FDACB
ゆ	FDCC	8FDACC
よ	FDCD	8FDACD
わ	FDCE	8FDACE
ァ	FDCF	8FDACF
イ	FDD0	8FDAD0
ゥ	FDD1	8FDAD1
ェ	FDD2	8FDAD2
ォ	FDD3	8FDAD3
ッ	FDD4	8FDAD4
ャ	FDD5	8FDAD5
ュ	FDD6	8FDAD6
ョ	FDD7	8FDAD7

文字	JEF コード	U90 コード
ワ	FDD8	8FDAD8
カ	FDD9	8FDAD9
ケ	FDDA	8FDADA
か	FDDB	8FDAE6
け	FDDC	8FDAE7
▒	FDE2	8FD5AB
▒	FDE3	8FD5AC
▒	FDE4	8FD5BC
▒	FDE5	8FD5BB
▒	FDE6	8FD5BD
▒	FDE7	8FD5BE
▒	FDE8	8FD5AE
▒	FDE9	8FD5AF
▒	FDEA	8FD5B0

文字	JEF コード	U90 コード
▒	FDEB	8FD5B1
▒	FDEC	8FD5B2
→	FDED	8FD8CD
←	FDEE	8FD8CE
↑	FDEF	8FD8CF
↓	FDF0	8FD8D0
▒	FDF7	8FD5B7
▒	FDF8	8FD5B8
▒	FDF9	8FD5B9
▒	FDFA	8FD5BA
▒	FDFB	8FD5B3
▒	FDFC	8FD5B4
▒	FDFD	8FD5B5
▒	FDFE	8FD5B6

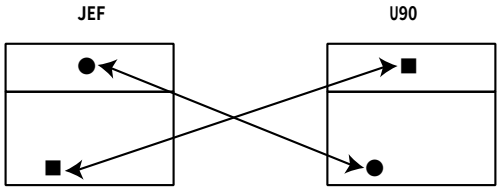
▒：文字の定義されていないコード（表示文字は参考のため）

- 留意事項

  文字の入れ換え方には以下の 2 通りがあります.

  － 2 文字による相互の入れ換え

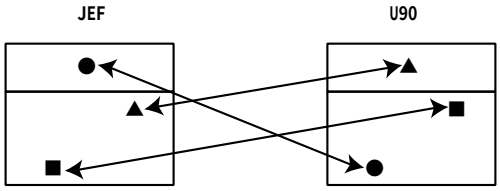
  入れ換え文字のほとんどはこれに相当します.



1 つの文字の入れ換え（●）のためにもう一方の入れ換え（■）が発生します．このとき未定義文字どうしの入れ換えが発生する場合もありますが，表中には参考として（●）の文字が記載してあります.

  － 3 文字による相互の入れ換え

  表中の (a) ～ (d) の文字がこれに相当します.



	文字	JEFコード 16進	U90コード 16進
(a)	堯	B6C6	F4A1
(b)	槙	CBEA	F4A2
(c)	遙	CDDA	F4A3
(d)	瑤	E0F6	F4A4

文字	JEFコード 16進	U90コード 16進
※	F4A1	8FA7C8
※	F4A2	8FBEC4
※	F4A3	8FD0EB
※	F4A4	8FE9A2

文字	JEFコード 16進	U90コード 16進
堯	47C8	B6C6
槙	54C4	CBEA
遙	70EB	CDDA
瑤	59A2	E0F6

※　：JEF 未定義文字

▒：文字が定義されていないコード

(2)U90 コードとシフト JIS コード間の変換（不規則変換部分）

U90 コードとシフト JIS コード間では不規則変換はありません.

付録 B　画面・帳票定義体のサイズ削減方法

保存時に作成した定義体が最大サイズを超えないかチェックされます.

保存サイズ拡張しない場合：96K バイト

保存サイズ拡張する場合　：256K バイト

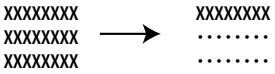
最大サイズを超える場合は，以下の説明に従い，画面帳票定義体サイズを削減します.

なお，“付録 C 画面・帳票定義体のサイズ概算方法”で示すように，画面・帳票定義体は境界サイズにより整合されているため，これらの方法を実施してもサイズが削減されない場合があります.

■項目情報の削減

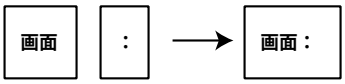
- 複数の項目を，伝票形式またはレコード定義での繰り返しにする

  伝票形式またはレコード定義により項目が繰り返される場合，繰り返し展開部分の項目情報が起点部分の項目と共通化されるため，資源量の削減になります.



- 固定リテラル項目をできるだけ 1 つにする

  以下の例のように，複数の固定リテラル項目は 1 つにまとめた方が資源量は削減できます.

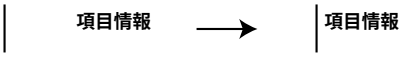


- 入力終了選択項目を「選択のみ項目」にする

  入力終了選択項目のアテンション情報の分，資源量が削減できます.

- 画面定義体で，罫線 / 網かけ情報に「項目（罫線）」を指定したとき，項目罫線をできるだけ項目に隣接するようにする

  項目罫線の場合は，罫線情報を項目の属性として保存されます．したがって，項目に隣接しない罫線情報は，空白の固定リテラル項目または罫線だけの項目として保存されるので，資源量が増加する要因となります.



■項目群情報の削減

- 不要な項目群を作成しない

  無条件に標準項目群生成をしないようにします．不要な項目群は，資源量が増加する要因になります．

- 「全項目群」を削除する

  MeFt では，「@ ALLF」全項目を項目群として扱えるので全項目群は必要ありません．

- メッセージ項目を通常の出力項目にする

  メッセージ項目は，保存時にすべての項目群の構成項目として追加されるため，資源量が増加する要因となります．

■行情報の削減

- 行ピッチを「1/6」または「1/8」にする

  行ピッチに「行ごと」が指定されている場合，定義体の縦幅分，行情報が保存されるので，資源量が増加する要因となります．

■プログラミング名情報の削減

- 不要なプログラミング名を削除する

  必要のないプログラミング名をつけないようにします．不必要なプログラミング名は，資源量が増加する要因となります．

■レコード定義情報の削減

- 無意味にレコード定義しない

  無条件に基本レコード生成しないようにします．不必要なレコード定義は，資源量が増加する要因となります．

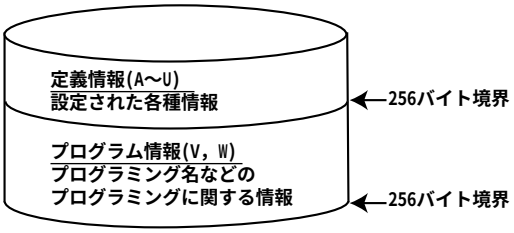
付録 C　画面・帳票定義体のサイズ概算方法

以下に画面・帳票定義体のサイズ概算方法を示します．なお，このサイズ概算方法で算出される値はあくまで概算値です．正確な値ではないので注意してください．

以下の表で，該当する事項（○で指示）を加算した値 (注) が，画面・帳票定義体のサイズ概算値（バイト数）になります．

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
画面	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
帳票	○		○	○	○	○	○							○						○		○	○	○

注)　画面帳票定義体は下図のような構造を持ち，画面・帳票定義体のサイズは 256 バイト境界の境界調整分だけ加算された値となります．



A ～ W の内容の概算式と各テーブルの最大サイズを次に示します．

付表 C.1 定義内容と定義サイズの概算式

定義内容		概算式	最大保存サイズ拡張	
			なし	あり
A	定義域	256 (定義体版数が 8 以上のときは 384)	32KB	64KB
B	アテンション名テーブル	6 ×アテンション数 (アテンション数には必須アテンションを含む)	32KB	64KB
C	項目群，項目名テーブル	8 × (項目群数＋項目数) ＋ 2 (項目数は組込みメディア項目数を除く)	32KB	64KB
D	組込みメディア項目名テーブル	8 ×組込みメディア項目数＋ 2	32KB	64KB

定義内容		概算式	最大保存サイズ拡張	
			なし	あり
E	項目テーブル	1. 基本項目テーブル 16 ×項目数＋2 (項目数は組込みメディア項目数を除く)	32KB	64KB
		2. 共用項目テーブル 18 × (出力項目数＋固定リテラル項目数) ＋ 16 × (入出力項目数＋キーマット項目数) ＋ 2 ×選択項目数＋ 6 ×数字／英数字／日本語項目の文字サイズ／文字ピッチ指定項目数＋ 18 ×混在／日付け／時刻，通番項目のフォント／文字サイズ／文字ピッチ／拡大／ゴシック指定項目数＋ 6 ×入出力項目またはキーマット項目の文字拡大項目数＋ 2 (出力項目数，入出力項目数，キーマット項目数，および選択項目数は，繰り返し展開されている場合，その起点の項目数だけを加算した値)	32KB	64KB
		3. 拡張項目テーブル 固定リテラル総和長＋ 6 ×郵便番号項目数＋ 6 ×バーコード項目数＋ 2 12 ×範囲指定バーコード項目数 (バーコード項目は，繰り返し展開されている場合，その起点の項目数だけを加算した値)	32KB	64KB
F	項目群テーブル	$\sum_{k=1}^{k=g}(8 + 4Gk + 2) + 2$ g：項目群数 Gk：項目群内の項目数	32KB	64KB
G	組込みメディア項目テーブル	(12 ×組込みメディア項目数) ＋ (8 ×ファイル名データ項目数) ＋ 2	32KB	64KB
H	固有項目テーブル	16 ×初期値または入力値検査属性が指定されている項目数＋ 2	32KB	64KB
I	初期値テーブル (注 1)	初期値が設定されている項目の項目長総和＋ (4 ～ 7)	32KB	64KB
J	選択項目テーブル	12 ×選択項目数＋ 2	32KB	64KB
K	選択項目アテンションテーブル	12 ×入力終了選択項目数＋ 2	32KB	64KB

定義内容		概算式	最大保存サイズ拡張	
			なし	あり
L	入力値検査テーブル	20 ×入力値検査属性が指定されている項目数＋ 2	32KB	64KB
M	入力値テーブル (注 1)	$\sum_{k=1}^{k=n}((2 + Lk) \times Vk) +$ $\sum_{k=1}^{k=a}((2 + Vk + Sk) + 4 \sim 7)$ n：有効値が設定されている数字項目数 a：有効値が設定されている英数字項目数 Lk：項目長 Vk：有効値数 Sk：有効値長総和	32KB	64KB
N	オーバレイパターンテーブル	4 × (8 ×パターン名数) ＋ 2	32KB	64KB
背景メディアテーブル (注 1)		6 ＋背景メディア文字列長＋ (4 ～ 7)	32KB	64KB
O	振分け手順テーブル (注 1)	1. 定義域 48	32KB	64KB
		2. 処理テーブル 8 ＋ (4 ×呼出し名数) ＋呼出し名長総和＋ (4 ～ 7)		
		3. 振分け値テーブル 8 ＋ (4 ×振分け値数) ＋振分け値長総和＋ (4 ～ 7)		
		4. ファンクションキー値テーブル 8 ＋ (8 ×ファンクションキー値数) ＋ (4 ～ 7)		
P	メニューテーブル (注 1)	(13 ＋ 8) ×メニューグループ数＋ (13 ×メニュー項目数) ＋ メニュー項目名総和長＋ (4 ～ 7)	32KB	64KB
Q	選択群テーブル	$\sum_{k=1}^{k=g}(16 + 4Gk + 2) + 2$ g：選択群数 Gk：選択群内の項目数	32KB	64KB

定義内容		概算式	最大保存サイズ拡張	
			なし	あり
R	選択群対応テーブル	$\sum_{k=1}^{k=g}(8 + 2Gk + 2) + 2$ g：選択群の構成項目がすべて含まれる項目群数 Gk：項目群内の構成項目がすべて含まれる項選択群数	32KB	64KB
S	区画情報テーブル	12 ×区画数＋ 2	32KB	64KB
T	罫線／網がけテーブル	(10 ×罫線数) ＋ (12 ×網がけ数) ＋ 2 (画面定義体の場合，罫線／網がけ情報が線画 (罫線／網がけ) のときだけ)	32KB	64KB
U	ヘルプ情報	1. 固定部 16	32KB	64KB
		2. 可変部 (2 ×ヘルプ情報数) ＋ヘルプ情報長総和＋ (4 ～ 7)		
V	行情報	定義体縦サイズ分 (行情報に行ごとが指定された分だけ)	255KB	255KB

定義内容		概算式	最大保存サイズ拡張	
			なし	あり
W	プログラミング名テーブル (注 1) (注 2) (注 3)	1. 定義域 32	64KB	64KB
		2. プログラミング定義体名 固定長： 8 ＋ 16 ＋ 4 可変長： 10 ＋プログラミング定義体名長＋ (4 ～ 7)		
		3. プログラミングアテンション名 固定長： (8 ＋ 16) × (プログラミング名設定済みアテンション情報数＋プログラミング名設定済みメニュー項目数＋プログラミング名設定済み選択項目数) ＋ 4 可変長： 10 × (プログラミング名設定済みアテンション情報数＋プログラミング名設定済みメニュー項目数＋プログラミング名設定済み選択項目数) ＋プログラミングアテンション名総和長＋ (4 ～ 7)		
		4. プログラミング項目名 固定長： (8 ＋ 16) × (プログラミング名設定済み項目数＋プログラミング名設定済み無効項目数＋プログラミング名設定済み集団項目数) ＋ 4 可変長： 10 × (プログラミング名設定済み項目数＋プログラミング名設定済み集団項目数＋プログラミング項目名総和長) ＋ (4 ～ 7)	32KB	64KB
W	プログラミング名テーブル (注 1) (注 2) (注 3)	5. プログラミング項目群名 固定長： (8 ＋ 16) ×項目群数＋ 4 可変長： (10 ×項目群数) ＋プログラミング項目群名総和長＋ (4 ～ 7)	32KB	64KB
X	レコード定義テーブル (注 3)	24 × レコード項目数	32KB	64KB

注 1)　4 ～ 7 は 4 バイト境界に合わせて整合された値

注 2)　固定長：
プログラミング名形式が「日本語8文字以内」または「英数字16文字以内」

可変長：
プログラミング名形式が「日本語又は英数字 30 文字以内」

注 3)　以下の場合，プログラミングテーブルとレコード定義テーブルの位置は逆になります.

- レコード定義に表示範囲属性またはカーソル位置属性が設定されている場合
- 範囲指定バーコードにアドオン項目が指定されている場合

索引

F

FORM 16
FORM オーバレイオプション 109
FORM のインストール 19
FORM の起動 50, 130
FORM の終了 54, 133

M

MeFt 17

P

PowerWORDVIEW 106

い

色属性シンボル 60, 134
色濃度切替えシンボル 60
インディケータ行 55

う

上書き保存 53, 132

え

円作図シンボル 134

お

オーバレイ定義体 111
オーバレイ定義体の運用方法 141
オーバレイパターングループ 111
オーバレイパターングループで
　設定できる機能 139
オーバレイパターンテーブル 111
オーバレイパターンテーブルで
　設定できる機能 136
オーバレイ文字作成シンボル 134

か

カーソル 60
カーソルの自動脱出 62
画面定義体 16
画面・帳票定義体 16
画面・帳票定義体の作成 52
画面・帳票定義体の保存 53
環境設定情報画面 102

き

基本画面 55
基本画面表示域 55
基本画面表示域の切替え方法 58
行情報 62
行情報の削減 162
行情報表示域 62
強制 66
強制幅 66
強制／解除シンボル 60, 134

く

区画情報解除 63
区画情報表示 63
区画情報表示域 63
グリッド 65
グリッドサイズ 65
グリッド単位 65
グリッド表示／非表示シンボル ..60, 134

け

罫線網がけ属性シンボル 59

こ

項目群一覧画面 57
項目群情報の削減 162
項目情報の削減 161
項目ディクショナリ 104
コード系 148
固定パーティション 86
コマンドー更新 51, 131
コマンドー新規作成 51, 130
コマンドー表示 51, 131
コマンドー標準説明書生成 51

さ

サイズ概算方法 163
サイズ削減方法 161

し

試験 97
実行履歴画面 102
斜線作図シンボル 134
ジャンプ 61
自由形式 80

集計表パーティション形式 91
自由パーティション形式 86
状態表示域 55
シンボルメニュー 59, 134

す

垂直線作図シンボル 59
水平線作図シンボル 59
ズーム 64

せ

選択群一覧画面 57
選択シンボル 59

た

対象項目画面 102
タイトルバー 55
楕円作図シンボル 134

ち

帳票定義体 16

て

定義体形式 80
定型パターン作図シンボル 59, 134
伝票形式 82

な

名前を付けて保存 53, 133
名前を付けて保存ダイアログボックス . 54

ふ

ファイル属性を指定する
　ダイアログボックス 51
浮動パーティション 86
振分け手順定義画面 58
プログラミング名情報の削減 162

へ

編集画面 50, 56, 134
編集境界 56
編集領域表示域 56

ま

マウスポインタ 60
丸めシンボル 134

め

メニュー定義画面 58
メニューバー 55

も

文字拡大シンボル 134
文字サイズ表示域 134
文字縮小シンボル 134
文字スタイル表示域 134

り

利用者プログラムとの関係 113

る

ルーラー 64
ルーラー域 56

れ

レコード 96
レコード定義画面 57
レコード定義情報の削減 162

ろ

ローカルカーソル 60

わ

枠作図シンボル 59

FM V シリーズ，FM V BIBLO

FORM V8.0 説明書

発行日 2005 年 6 月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は，改善のため事前連絡なしに変更することがあります.
- 本書に記載されたデータの使用に起因する，第三者の特許権およびその他の権利の侵害については，当社はその責を負いません.
- 無断転載を禁じます.